

FTM-100D FTM-100DH

144/430MHz
DUAL BAND TRANSCEIVER

C4FM/FM

取扱説明書



ご使用の前に

設置と接続

基本操作

DG-ID/DP-ID 機能

メモリー機能

スキャンする

GPS 機能を使う

APRS 機能を使う

GM 機能を使う

WIRES-X 機能を使う

便利な機能

必要に応じて使う機能

使い方にあわせて
設定を変える
オプション (Bluetooth/
Voice unit) を使う

付 録

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
この取扱説明書に記載の社名・商品名などは、各社の商標または登録商標です。
本機を使用するためには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、基本的な操作に関する説明が記載されています。
詳細な機能の取扱説明書は、当社ウェブサイトからダウンロードしてください。

はじめに

本機の特長

- ◎ デジタル通信(C4FM 変復調)を標準搭載した 144/430MHz 帯デュアルバンドモービル無線機
- ◎ デジタル変復調機能により、クリアな音声とデータ通信の両立を実現
- ◎ デジタルグループ ID(DG-ID)機能を搭載
- ◎ デジタルパーソナル ID(DP-ID)機能を搭載
- ◎ 108MHz ~ 999MHz までのワイドバンド受信(航空無線帯、情報無線帯)が受信可能
- ◎ 2 タイプの送信パワー仕様を用意

FTM-100D	標準モデル	送信パワー 20W	冷却ファンなし
FTM-100DH	ハイパワーモデル	送信パワー 50W	冷却ファンあり

※本書では FTM-100D を基本モデルとして記載しています。

- ◎ フロントパネルには、ドットマトリックス LCD を搭載
 - ◎ A バンドで 500ch、B バンドで 500ch をメモリー可能
 - ◎ microSD カードを使用することで、周波数メモリーや設定内容をバックアップ可能、また他の無線機に microSD カードの内容を簡単にコピー可能
 - ◎ 多彩なスキャン機能(VFO スキャン、メモリスキャンなど)
 - ◎ 内蔵の GPS 受信ユニットにより、自局の位置や移動情報を表示する GPS 機能、外部 GPS 機器の接続も可能
 - ◎ 位置情報やメッセージなどのデータ通信が可能な APRS[®] 機能
※別冊「APRS 編 取扱説明書」を参照
 - ◎ 同じ周波数で、DN モードで運用している局が通信範囲内にあるかどうかを自動的に確認して、コールサインごとに距離と方位などの情報を画面に表示させる GM(グループモニター)機能
※別冊「GM 編 取扱説明書」を参照
 - ◎ インターネットを利用して、遠距離の相手と交信可能な WIRES-X に対応
※別冊「WIRES-X 編 取扱説明書」を参照
 - ◎ Bluetooth アダプターユニット「BU-2」(別売品)を搭載することで、ハンズフリー運用が可能
 - ◎ ボイスガイドユニット「FVS-2」(別売品)を搭載することで、音声ガイドや受信音声の録音が可能
- ※ APRS 編、GM 編、および WIRES-X 編の取扱説明書は、製品には同梱されていません。当社ウェブサイトからダウンロードしてください。

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止して障害の有無や程度を確認してください。

参考

無線局運用規則 第8章 アマチュア局の運用

第258条 アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若くは、与える虞があるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。(以下省略)

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機、アンテナ系を点検し障害に応じてお買い上げの販売店または当社カスタマーサポート(0120-456-220)に相談するなど、適切な処置を行ってください。

受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。一般社団法人 日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しております。対策にお困りの場合はご相談ください。

一般社団法人 日本アマチュア無線連盟(JARL)

〒170-8073 東京都豊島区南大塚 3-43-1 大塚 HT ビル 6 階
TEL 03-3988-8754

モーター運用上のご注意

- ◎ 自動車内で電源コードを配線する場合、保護用テープを巻くことをおすすめします。電源コードと板金部がこすれて、被覆が破れると発火や故障の原因となることがあります。
- ◎ アンテナおよび同軸ケーブルからは電波がふく射されるので、自動車の制御ユニットおよびハーネスから遠ざけて取り付けてください。
- ◎ 自動車内に設置するとき、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような制御装置から 20cm 以上はなして取り付けてください。
 - エンジン関係：燃料噴射装置 / エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - トランスミッション関係
 - ：電子制御式変速機 / 4WD コントロールユニット
 - その他
 - ：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン / オートヒーターコントロールユニット / G センサー
- ◎ 無線機および別売品を取り付ける場合、安全運転に支障がないように(ケーブル等が絡まらないように)配線してください。
- ◎ 無線機および別売品を自動車に取り付けるときは、前方の視界や運転操作を妨げる場所、運転に支障をきたす場所、同乗者に危険をおよぼす場所などには絶対取り付けないでください。

交通事故やけがの原因になります。
- ◎ エアバッグシステム装備車に無線機および別売品を取り付けるときは、エアバッグが作動したときに影響をおよぼす取り付けかたはしないでください。
- ◎ 自動車に無線機を取り付けたあと、無線機の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎ 無線機を操作中、自動車の制御装置に異常を感じた時点で、エンジンを停止し、無線機の電源を切り、電源コードを外してください。
- ◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を見つづけたりしないでください。

無線機を操作、または表示部を見る場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。

一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
- ◎ 電気自動車やハイブリッドカーなどで無線機をご使用になる場合、電気自動車やハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

登録商標および著作権について

APRS は、Bob Bruninga 氏 WB4APR の登録商標です。

SmartBeaconing は、HamHUD Nichetronix 社から提供されています。

Microsoft、Windows、Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

八重洲無線株式会社の著作物の全部または一部を無断記載、複写およびあらゆる方法による複製を禁止します。

本書の読みかた

本書では、FTM-100D と FTM-100DH をあわせて「本機」と表記しています。
また本書の内容は、特に記載のないかぎり、FTM-100D の仕様に基づいています。

本書では、フロントパネルでの操作を次のように表記します。

 を押す キーやスイッチを短く押すことを示します。

 を 1 秒以上押す キーやスイッチを 1 秒以上押すことを示します。

また本書では、次のような表記も使用します。

注意 ... 運用するときに、注意していただきたい内容を説明します。

参考 ... 操作上のアドバイスや知っておくと便利なことを説明しています。

製品改良により、本書の図面などが一部製品と異なる場合があります。
あらかじめご了承ください。

目次

はじめに	2	交信する	41
本機の特長	2	送信する	41
電波を発射する前に	3	送信出力を調節する	42
モバイル運用上のご注意	4	マイクロホンの感度を調節する	42
登録商標および著作権について	5	FM モードで交信する	43
本書の読みかた	6	レピータで交信する	43
		88.5Hz以外のトーン信号を使っている レピータで交信する	44
ご使用前に	10	その他の設定	45
安全上のご注意(必ずお読みください)	10	ピープ音の音量を変更する	45
付属品	13	DIAL とボタンをロックする	46
各部の名前と動き	14	日付と時刻をあわせる	46
フロントパネル	14	ディスプレイの明るさを調節する	48
前面	14	設定を初期値に戻す(オールリセット)	49
後面	16	DG-ID/DP-ID 機能	50
本体	16	デジタルグループ ID(DG-ID)機能	50
前面	16	DG-ID 機能を使って交信する	50
後面	17	DG-ID 番号を"00"以外にして特定の 仲間とだけ交信する	50
マイクロホン(MH-48A6JA)	18	デジタルパーソナル ID(DP-ID)機能	52
画面の説明	19	相手局の DP-ID を登録する	52
文字を入力する	20	登録した DP-ID を削除する	53
文字種を切り替える	20	メモリーを使う	55
入力した文字を消去する	20	メモリーに書き込む	55
カーソルを左に移動する	20	メモリーを呼び出す	56
カーソルを右に移動する	20	ホームチャンネルを呼び出す	57
ひとつ前の文字を消す	20	ホームチャンネルの周波数を変更する	57
入力を完了する	20	メモリーを消去する	58
		メモリーに名前をつける	59
		メモリータグの表示方法を変える	61
設置と接続	21	スプリットメモリー	62
無線機を設置する	21	スキャンする	63
設置上のご注意	21	信号を探す	63
車載運用時の設置場所について	22	VFO スキャン	63
アンテナについて	23	スキャンストップ時の受信方法を設定する	64
アンテナを設置する	23	メモリスキャン	65
本体を設置する	25	スキャン方法を選ぶ	66
フロントパネルを設置する	26	指定メモリーを設定する	67
無線機を接続する	27	指定メモリーチャンネルだけをスキャンする	67
フロントパネルを本体と接続する	27	スキップメモリーを設定する	68
マイクロホンを接続する	27	プログラマブルメモリスキャン(PMS)	69
アンテナを接続する	27	プログラマブルメモリーに書き込む	69
電源を接続する	28	プログラマブルメモリスキャンをする	70
車載バッテリーとの接続	28	ホームチャンネルを監視する	71
外部電源装置との接続	30	デュアルレシーブを使う	71
microSD カードをセットする	31	デュアルレシーブの再開設定をする	72
使用できる microSD カード	31	デュアルレシーブ機能のチャンネル受信時間を 設定する	72
microSD カード使用時のご注意	31	GPS 機能を使う	73
microSD カードを取り付ける	32	GPS とは?	73
microSD カードを取り外す	32	GPS で測位する	73
microSD カードを初期化する	33	衛星の捕捉状況を確認する	74
基本操作	34	位置情報を表示する	74
受信する	34	自局の現在の位置情報を表示する	74
電源を入れる	34	デジタルモードで相手局の位置情報を表示する	74
電源を切る	34	位置情報を記録する(GPS ログ機能)	75
コールサインを入力する	34	パソコンで軌跡を確認する	76
操作バンドを切り替える	35	その他の設定	76
音量を調節する	35		
スケルチのレベルを調節する	36		
周波数をあわせる	37		
周波数ステップを変える	37		
運用モードを切り替える	38		
通信モードを切り替える	39		
電波型式を切り替える	40		

APRS 機能を使う	77	ディスプレイの明るさを設定する (2 LCD BRIGHTNESS)	123
APRS 機能とは?	77	ディスプレイのコントラストを設定する (3 LCD CONTRAST)	123
GM 機能を使う	78	GPS 情報を切り換える (4 GPS INFORMATION)	124
GM 機能とは?	78	セットアップメニュー: 2 TX/RX メニューの操作	125
基本的な使いかた	78	電波型式を設定する (1 ANALOG MODE SELECT)	125
WIRES-X 機能を使う	80	マイクロホンの感度を設定する (2 MIC GAIN)	125
WIRES-X 機能とは?	80	AMS 機能時の送信モードを設定する (3 AMS TX MODE)	125
FTM-100D/H をノード局用の無線機として使用する	80	相手局情報をポップアップする時間を設定する (4 DIGITAL POPUP TIME)	126
便利な機能	81	自局位置の表示方法を設定する (5 LOCATION SERVICE)	127
特定の相手局と交信する	81	相手局の送信終了時にピープ音を鳴らす (6 STANDBY BEEP)	127
トーンスケルチを使う	81	ハーフデビエーションを設定する (7 HALF DEVIATION)	127
トーン周波数を設定する	81	セットアップメニュー: 3 MEMORY メニューの操作	128
トーンスケルチを使う	82	メモリータグの表示方法を設定する (1 ALPHA TAG SIZE)	128
トーン信号を送出する	83	メモリースキャン方法を設定する (2 MEMORY SCAN TYPE)	128
デジタルコードスケルチを使う	84	セットアップメニュー: 4 SIGNALING メニューの操作	129
DCS コードを設定する	84	トーン周波数を設定する (1 TONE SQL FREQ)	129
DCS を使う	85	DCS コードを設定する (2 DCS CODE)	129
新ページャー機能を使う	86	DTMF コードの送出手法を設定する (3 AUTO DIALER)	129
自局のコードを設定する	86	スケルチタイプを設定する (4 SQL TYPE)	129
新ページャー機能を動作させる	87	DTMF コードを登録する (5 DTMF MEMORY)	129
特定の局を呼び出す	88	特定の局だけ呼び出す (6 PAGER CODE)	129
相手からの呼び出しをベルで知らせる	89	JR 以外の空線スケルチを設定する (7 PRG REV TONE)	130
その他のスケルチ機能	89	相手からの呼び出しをベルで知らせる (8 BELL RINGER)	130
DTMF 機能を使う	91	送受信別々のスケルチタイプを設定する (9 SQL EXPANSION)	131
DTMF コードを登録する	91	セットアップメニュー: 5 SCAN メニューの操作	132
登録した DTMF コードを送出する	92	信号を受信する方法を設定する (1 DUAL WATCH STOP)	132
マニュアルで DTMF コードを送出する	92	スキャンする方向を設定する (2 SCAN DIRECTION)	132
タイマー機能を使う	94	スキャンが停止したときの受信方法を設定する (3 SCAN RESUME)	133
APO 機能を使う	94	デュアルレシーブ機能のチャンネル受信時間を 設定する (4 DUAL WATCH MODE)	133
TOT 機能を使う	95	セットアップメニュー: 6 GM メニューの操作	133
メッセージや画像をやり取りする	96	セットアップメニュー: 7 WIRES-X メニューの操作	133
メッセージや画像のリストを見る	96	セットアップメニュー: 8 CONFIG メニューの操作	134
メッセージや画像を整理する	97	日付と時刻を設定する (1 DATE & TIME ADJUST)	134
内容表示画面で消去する	97	時計の表示形式を設定する (2 TIME FORMAT)	134
一覧から消去する	98		
メッセージや画像を取り込む	98		
メッセージや画像を送る	99		
メッセージを作成して送る	99		
定型文を使う	100		
メッセージや画像に返信(REPLY)する	102		
メッセージや画像を転送(FORWARD)する	103		
必要に応じて使う機能	104		
本機のデータをほかの無線機にコピーする	104		
microSD カードを使う	104		
データを microSD カードにコピーする	104		
microSD カードからデータをコピーする	105		
クローン機能を使う	106		
外部機器と接続して使う	108		
パソコンと接続して使う	108		
自局の位置情報を送出する	109		
本機のファームウェアをアップデートする	110		
パケット通信の送受信機として使う	111		
接続できるその他の機器	115		
使い方にあわせて設定を変える	116		
セットアップメニューの基本操作	116		
セットアップメニュー一覧	117		
セットアップメニュー: 1 DISPLAY メニューの操作	123		
表示される画面の種類を設定する (1 SUB DISPLAY SELECT)	123		

タイムゾーンを設定する (3 TIME ZONE).....	135	オプション(Bluetooth/Voice unit)を使う.....	151
オートレピータシフトを設定する (4 AUTO REPEATER SHIFT).....	135	Bluetooth ヘッドセットを使う.....	151
レピータシフトの方向を設定する (5 REPEATER SHIFT).....	136	Bluetooth ユニット[BU-2]を装着する.....	151
レピータのシフト幅を設定する (6 REPEATER SHIFT FREQ).....	136	Bluetooth ヘッドセットの動作を設定する.....	153
周波数ステップを設定する (7 FM AM STEP).....	137	Bluetooth ヘッドセットを認識させる.....	155
ビープ音の音量を設定する (8 BEEP).....	137	Bluetooth ヘッドセットを使う.....	157
マイコンのクロックシフトを設定する (9 CLOCK TYPE).....	137	音声を録音したり聞いたりする.....	158
マイクロホンのプログラムキーを設定する (10 MIC PROGRAM KEY).....	137	ボイスガイドユニット[FVS-2]を装着する.....	158
受信範囲を拡張する (11 RX COVERAGE).....	139	ボイスメモリーを使う.....	160
表示する単位を設定する (12 UNIT).....	139	ボイスメモリーの動作を設定する.....	160
自動的に電源を切る (13 APO).....	140	受信音声を録音する.....	161
連続送信時間を制限する (14 TOT).....	140	録音した音声を再生する.....	162
Bluetooth ヘッドセットの PIN コードを 設定する (15 Bluetooth PAIRING).....	140	録音した音声を消去する.....	162
GPS 機能の測地系を設定する (16 GPS DATUM).....	140	周波数を読み上げる音声を聞く.....	163
GPS の位置情報を記録する間隔を設定する (17 GPS LOG).....	141	アナウンス機能の動作を設定する.....	163
セットアップメニュー：9 DATA メニューの操作.....	142	周波数を読み上げる音声を聞く.....	164
COM ポートを設定する (1 COM PORT SETTING).....	142	付 録	165
APRS とデータ通信の通信速度を設定する (2 DATA SPEED).....	144	周波数の使用区分.....	165
スケルチ検出やスケルチ端子の出力条件を 設定する (3 DATA SQUELCH).....	145	アマチュア無線局免許申請書類の書きかた.....	166
セットアップメニュー：10 APRS メニューの操作.....	146	「無線局事項書及び工事設計書の書きかた」.....	166
セットアップメニュー：11 SD メニューの操作.....	146	「アマチュア局の無線設備の保証認定願」/ 「アマチュア局の無線設備等の変更の 保証認定願」の書きかた (付属装置がある場合).....	168
設定内容を microSD カードに書き込む (1 BACKUP).....	146	オプション一覧.....	170
microSD カードを初期化する (2 FORMAT).....	146	保守について.....	171
セットアップメニュー：12 OPTION メニューの操作.....	146	お手入れ.....	171
Bluetooth ヘッドセットの動作を設定する (1 Bluetooth).....	146	ヒューズの交換.....	171
ボイスメモリーの動作を設定する (2 VOICE MEMORY).....	146	故障かな?と思ったら.....	172
セットアップメニュー：13 RST/CLONE メニューの操作.....	147	電源が入らない.....	172
設定した内容をリセットする (1 FACTORY RESET).....	147	音が出ない.....	172
プリセットを登録する (2 PRESET).....	147	電波が出ない.....	172
登録したプリセットを呼び出す (3 RECALL PRESET).....	148	キーやツマミを操作しても変化がない.....	172
メモリーチャンネルを消去する (4 MEMORY CH RESET).....	148	内部スプリアスについて.....	173
メモリーチャンネルをソートする (5 MEMORY CH SORT).....	149	アフターサービスについて.....	173
APRS の設定をリセットする (6 APRS RESET).....	149	定 格	174
保存されているデータをコピーする (7 CLONE).....	149	索 引	176
セットアップメニュー：14 CALLSIGN メニューの操作.....	150		
コールサインを変更する (1 MY CALL SIGN(DIGITAL)).....	150		

安全上のご注意(必ずお読みください)

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者および周囲の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者および周囲の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、使用者および周囲の人が障害を負う可能性が注意想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味



本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。
たとえば、は分解禁止を示しています。



本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。
たとえば、は電源プラグを外すを示しています。

危険



病院内や航空機内などの「使用を禁止された区域または機内や車両内」では使用しないでください。

電子機器や医療機器に影響を与える場合があります。



自動車やバイク等を運転しながら使用しないでください。事故の原因になります。運転者が使用するときは、必ず安全な場所に車を止めてから使用してください。



送信中は絶対にアンテナに触れないでください。ケガ・感電・故障の原因になります。



外部アンテナを接続しているときに雷が鳴り出したら、速やかに本機の電源を切り、外部アンテナを本機から外してください。火災・感電・故障などの原因になります。



引火性ガスの発生する場合での運用は行わないでください。火災、爆発の原因になります。



心臓ペースメーカー等の医療機器を装着している方に配慮し、混雑した場所では送信しないでください。本機からの電波が医療機器に影響を及ぼし、誤動作による事故の原因になることがあります。



液晶ディスプレイから漏れている液などに素手で触れないでください。皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。この場合、直ちに医師の診断を受けてください。

警告

 指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。

 長時間の連続送信はしないでください。
本体の温度が上昇し、発熱などの原因で故障ややけどの原因になることがあります。

 分解や改造をしないでください。
ケガ・感電・故障の原因になります。

 濡れた手で電源プラグやコネクタなどの取り扱いをしないでください。また、電源プラグの抜き差しも行わないでください。
ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。

 無線機から煙が出ていたり、変な臭いがするときは、電源をオフにして、電源コードをコンセントから抜いてください。
火災・漏液・発熱・破損・発火・故障の原因になります。お買い上げの販売店または当社カスタマーサポートにご連絡ください。

 電源プラグのピン、およびその周辺はいつもきれいにしておいてください。
火災・漏液・発熱・破裂・発火などの原因になります。

 水などで濡れやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。
火災・感電・故障の原因になります。

 DC 電源コードを接続するときは、+ (プラス)と- (マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。
火災・感電・故障の原因になります。

 付属または指定以外の DC 電源コードを使用しないでください。
火災・感電・故障の原因になります。

 電源コードや接続ケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱や加工をしたりしないでください。
傷ついて破損して、火災・感電・故障の原因になります。

 電源コードや接続ケーブルを抜き差しするときは、ケーブルを引っ張らないでください。

 火災・感電・故障の原因になりますので、プラグまたはコネクタを持って抜いてください。

 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、DC 電源コネクタの差し込みがゆるかったりするときは使用しないでください。

 火災・感電・故障の原因になりますので、お買い上げの販売店または当社カスタマーサポートにご連絡ください。

 DC 電源コードのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
ショートして発火や火災などの原因になります。

 指定以外のヒューズを使用しないでください。
火災や故障の原因になります。

 製品の中に線材のような金属物や水を入れないでください。
火災・感電・故障の原因になります。

 大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

 別売品を組み込む前やヒューズを交換する前に、電源コードや接続ケーブルを外してください。
火災・感電・故障の原因になります。

 別売品を組み込むときやヒューズを交換するときは、説明と異なる取り付けをしないでください。
火災・感電・故障の原因になります。

 雷鳴が聞こえたときは使用しないでください。

 安全のために本製品に接続している DC 電源装置は、AC コンセントから電源プラグを抜いてください。
また、アンテナには絶対触らないでください。雷によっては、火災・感電・故障の原因になります。

⚠ 注意

 本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。変形・変色などの原因になります。

 本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。火災や故障の原因になります。

 送信中は、できるだけ身体からアンテナを離してください。長時間身体に電磁波を受けると、身体に悪影響を及ぼす場合があります。

 シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。ケースの汚れはやわらかい、乾いた布で拭き取ってください。

 長期間ご使用にならない場合には、安全のため電源をオフにし、DC電源コネクタに接続している、DC電源コードを抜いてください。火災や発熱の原因になります。

 強い衝撃を加えたり、投げつけたりしないでください。故障の原因になります。

 磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。

 イヤホン、ヘッドホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。聴力障害の原因になります。

 小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。ケガなどの原因になります。

 電源コードや接続ケーブルの上に重い物を載せないでください。電源コードや接続ケーブルが傷つき、火災や感電の原因になります。

 テレビやラジオの近くでは送信しないでください。電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

 当社指定のオプション以外の製品は使用しないでください。故障の原因になることがあります。

 ハイブリッドカーや省燃費タイプの自動車で使用する場合、必ず自動車メーカー等に確認のうえ運用してください。車に搭載されている電装機器(インバーター等)からノイズの影響を受けて正常に受信できないことがあります。

 ぐらついた台の上や傾いたり、振動の多い場所に設置しないでください。落ちたり、倒れたりして火災・けが・故障の原因になることがあります。

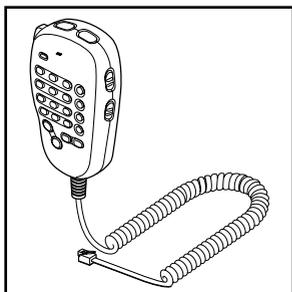
 製品の上に乗ったり、重いものを載せたり、挟んだりしないでください。故障の原因になることがあります。

 マイクロホンに接続するときは、指定以外のマイクロホンを使用しないでください。故障の原因になることがあります。

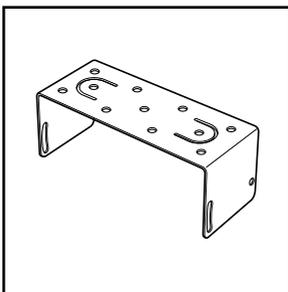
 放熱部に触れないでください。長時間使用すると放熱部の温度が高くなり、やけどの原因になることがあります。

 別売品を組み込むときやヒューズを交換するとき以外は、製品のケースを開けないでください。ケガ・感電・故障の原因になることがあります。

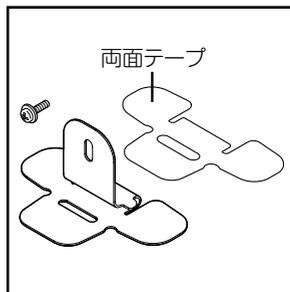
付属品



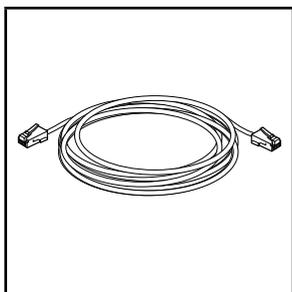
DTMF 付き多機能マイクロホン
MH-48A6JA



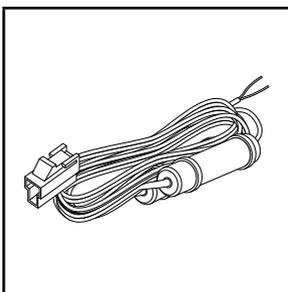
本体用ブラケット
MMB-36
取付用ビス一式



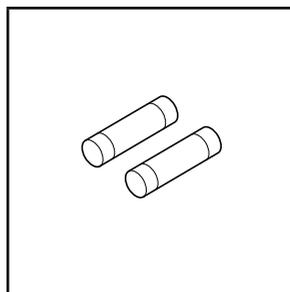
フロントパネル用
ブラケット



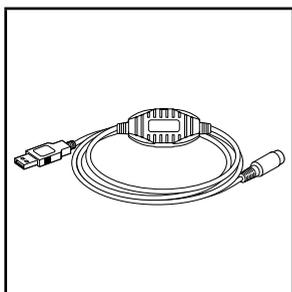
コントロールケーブル
(3m)



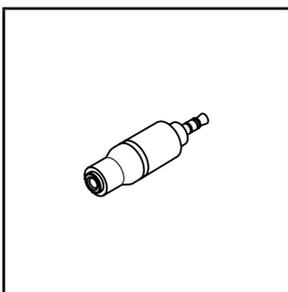
DC 電源ケーブル
(ヒューズ付き)



予備ヒューズ
(FTM-100D:10A, FTM-100DH:15A)



PC コネクションケーブル
SCU-20



ステレオ / モノラル
変換プラグ

取扱説明書(本書)

保証書

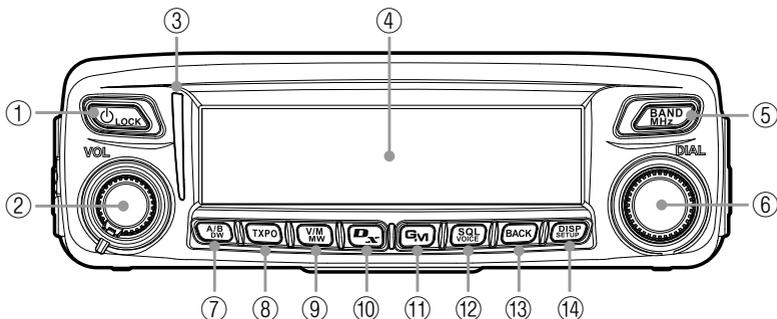
参考

各種オプション品も用意しております。
詳しくは「オプション一覧」(P.170)をご覧ください。

各部の名前と働き

フロントパネル

前面



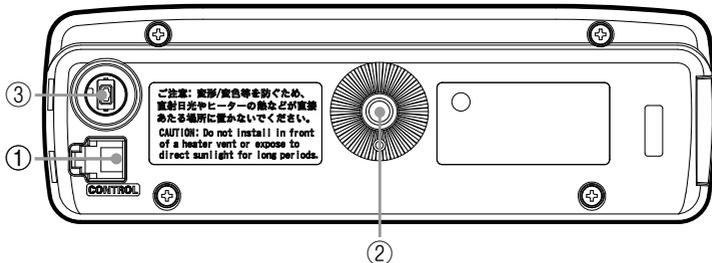
- ① 電源 / LOCK スイッチ (⏻/LOCK)
2 秒以上押しと、電源を ON/OFF できます。
電源が入っている状態で短く押しと、キーロックを ON/OFF できます。
- ② VOL ツマミ
時計回りにまわすと音量が大きくなり、反時計回りにまわすと小さくなります。
- ③ モード / ステータスインジケータ
送受信状況を上部と下部のインジケータの色で示します。

送受信	上部	下部
アナログ音声受信時	緑	緑
アナログ音声送信時	赤	赤
デジタル音声受信時	緑	青
デジタル音声送信時	赤	青
デジタルデータ受信時	緑	白
デジタルデータ送信時	赤	白
TONE 周波数や DCS コードが異なる信号の受信時	緑	青点滅

- ④ ドットマトリックス LCD ディスプレイ
- ⑤ BAND MHz キー (⏮/BAND MHz)
操作バンドのバンドを切り替えます。
1 秒以上押しと、1MHz 単位で周波数を設定できます。
- ⑥ DIAL ツマミ
 - ・ 操作バンドの周波数を設定できます。
時計回りにまわすと周波数が高くなり、反時計回りにまわすと低くなります。
 - ・ セットアップやメモリー登録、グループモニター動作などのときは、項目の選択に使用できます。

- ⑦ A/B DW キー()
短く押すたびに、操作バンドが A バンド、または B バンドに切り替わります。
1 秒以上押すたびに、デュアルワッチ機能の ON/OFF が切り替わります。
- ⑧ TXPO キー()
短く押すたびに、送信パワー(HIGH/MID/LOW)が切り替わります。
1 秒以上押すたびに、シグナリング設定が切り替わります。「特定の相手局と交信する」(P.81)を参照してください。
- ⑨ V/M MW キー()
短く押すたびに、VFO モードとメモリーモードが切り替わります。
1 秒以上押すと、メモリー書き込み画面が表示されます。
- ⑩ D/X キー()
短く押すたびに、操作バンドの通信モードが切り替わります。
参考 通信モードについては、「通信モードを切り替える」(P.39)を参照してください。
1 秒以上押すと、WIRES-X が起動します。
- ⑪ GM キー()
グループモニター(GM)機能が起動します。
1 秒以上押すと、DG-ID 番号の設定画面が表示されます。
- ⑫ SQL VOICE キー()
短く押してから DIAL をまわし、スケルチレベルを設定します。
1 秒以上押すと、VOICE モードが起動します(オプションの“FVS-2”装着時)。
- ⑬ BACK キー()
短く押すと、選択した項目や値を決定し、元の画面に戻ります。
- ⑭ DISP SETUP キー()
短く押すたびに、ディスプレイの表示(自局位置表示／相手局位置表示／GPS INFO 画面)が切り替わります。
参考 ディスプレイの表示については 19 ページを参照してください。
1 秒以上押すと、セットアップメニューが表示されます。

後面

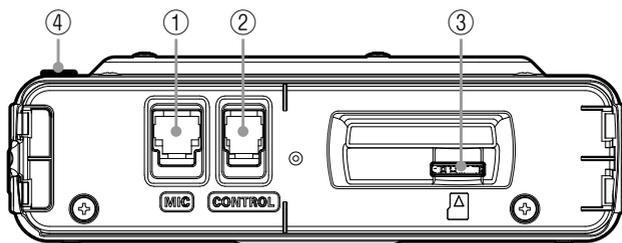


- ① CONTROL ジャック
本体と接続するためのコントロールケーブルを差し込みます。
- ② ブラケット用ネジ穴
- ③ ファームをアップデートする際に使用するスイッチ

注意 通常は、ゴムキャップを付けておいてください。

本体

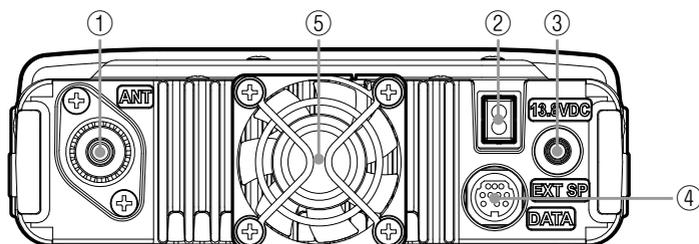
前面



- ① MIC ジャック
付属のマイクロホンのケーブルを差し込みます。
- ② CONTROL ジャック
フロントパネルと接続するためのコントロールケーブルを差し込みます。
- ③ microSD カードスロット
- ④ ファームをアップデートする際に使用するスイッチ

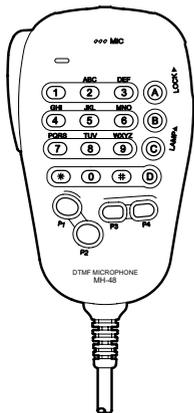
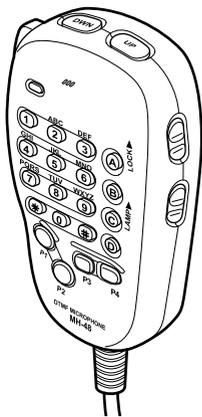
注意 通常は、ゴムキャップを付けておいてください。

後面



- ① ANT 端子
アンテナを接続します。
- ② 13.8VDC
付属の DC 電源ケーブル(ヒューズ付き)を接続します。
- ③ EXT SP ジャック
オプションの外部スピーカーを接続します。
- ④ DATA ジャック
外部ターミナルユニットやパソコン用インターフェースユニットなどとの接続のためのケーブルまたはリモート操作ケーブルを接続します。
- ⑤ 冷却ファン (FTM-100DH のみ)

マイクロホン(MH-48A6JA)

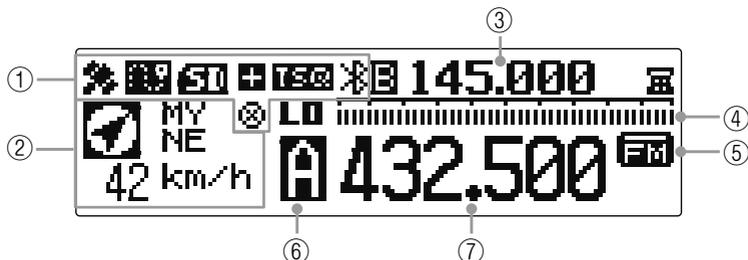


- [UP] 周波数が1ステップ分大きくなります。
- [DWN] 周波数が1ステップ分小さくなります。
- [LOCK] [UP][DWN]キーと[P1]~[P4]キーをロック / ロック解除します。
- [LAMP] マイク本体のランプを点灯 / 消灯します。
- [MIC] 送信のときに音声を取り込みます。
- [1]~[0] 数値を入力します。
- [*] 操作バンドの動作モード(VFO/ メモリー)を切り替えます。
- [#] GM(グループモニター)機能が動作します。
- [A] 操作バンドをAバンドに切り替えます。
- [B] 操作バンドをBバンドに切り替えます。
- [C] スケルチレベルを調節します。
- [D] ディスプレイの表示を切り替えます。
- [P1] スケルチをOFFにします。
- [P2] ホームチャンネルを呼び出して受信します。
- [P3] 通信モードが切り替わります。
- [P4] 送信出力を変更します。
- [PTT] 本機を送信状態に切り替えます。

参考

[P1] ~ [P4] にはお好きな機能を割り当てるができます。セットアップメニューの [8 CONFIG] → [10 MIC PROGRAM KEY] で選択します (P.137)。

画面の説明



- ① アイコン表示部
GPS 捕捉時、GPS ロガー機能動作時、microSD カード使用時、レピーターシフト方向、CTCSS/DCS 動作時、Bluetooth 使用時、APRS 機能動作時に、それぞれのアイコンが表示されます。
- ② 相手局位置表示／自局位置表示
相手局位置情報、および自局位置が表示されます。**[DISP]** キーを短く押すたびに、表示が切り替わります。
- ③ サブバンド周波数表示部
VFO モード時は、サブバンド名(A または B)、およびサブバンドの周波数が表示されます。
メモリーモード時は、メモリーした周波数、またはメモリータグを表示します。
- ④ S メーター表示部
S メーターが表示されます。スケルチ調整時は、スケルチレベルが表示されます。送信時は、パワーインジケーターとして動作します。
- ⑤ 通信モード表示部
アナログ、デジタルなどのモードを略号で表示します。
自動的に相手の通信モードに合わせるオートモード AMS のときは、略号の上部にバーが表示されます。
参考 AMS の動作は、セットアップメニューの**[2 TX/RX]→[3 AMS TX MODE]**で変更できます。
- ⑥ 操作バンド名／メモリーチャンネル／送信出力表示部
VFO モードでは、操作バンド名(A または B)が表示されます。
メモリーモードでは、A バンドの場合は**[M A]**とメモリーチャンネル番号、B バンドの場合は**[M B]**とメモリーチャンネル番号が表示されます。
また、送信出力が「LO」のときは**LO**、「MID」のときは**MID**が表示されます。
- ⑦ 周波数表示部
操作バンドの周波数が表示されます。

●GPS INFO 画面

相手局表示画面から **[DISP]** を短く押すと、GPS INFO 画面が表示されます。

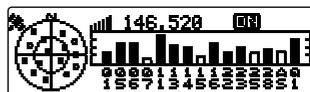
天空のコンパス、および各衛星番号の信号入力レベルを表示します。□は、捕捉していない衛星を示します。■は、捕捉している衛星を示します。

参考 [1 DISPLAY] → [4 GPS INFORMATION] で、「1 LOCATION」(位置表示)または「2 FREQUENCY」(周波数表示)を選択できます。

[位置表示]



[周波数表示]



文字を入力する

自局のコールサインやメモリーチャンネルのタグなどを入力するときの、文字の入力方法を以下に説明します。

文字種を切り替える

[TXPO] を押します(上に **[A/Z/3]** が表示されています)。押すごとに、次の順番で文字種が切り替わります。

英大文字→(カナ)→記号→英小文字→数字

参考 「カナ」は、メモリータグや GM 機能のメッセージ編集時に使用できます。APRS 機能使用時、およびコールサインの編集時は使用できません。

入力した文字を消去する

[V/M/MW] を押します(上に **[CLR]** が表示されています)。

現在のカーソル位置の文字、およびカーソルの右側すべての文字が消去されます。

カーソルを左に移動する

[P<] を押します(上に **[←]** が表示されています)。

カーソルを右に移動する

[P>] を押します(上に **[→]** が表示されています)。

ひとつ前の文字を消す

[SOLE] を押します(上に **[←X]** が表示されています)。

入力を完了する

[DISP] を押します。入力をキャンセルする場合は、**[BACK]** を押します。

無線機を設置する

設置上のご注意

本機を設置するときは、次のことにご注意ください。

- ◎ 直射日光の当たる所、高温になる所、湿気の多い所、ホコリなどが多い所、極端に振動が多い所に設置しないでください。
- ◎ 長時間使用すると本体が温かくなりますので、放熱の妨げにならないような場所に設置してください。
- ◎ 本機の上にものを置かないでください。
- ◎ ツマミまたはコントロールケーブルだけを持って、フロントパネルを持ち上げないでください。
- ◎ 本機の電源は直流(DC)13.8V仕様です。
車載機として使用する場合は、自動車のバッテリーが12V仕様であることを確認してください。大型車などの24Vバッテリーには絶対に接続しないでください。
- ◎ 交流(AC)100V電源には絶対に接続しないでください。
- ◎ ご使用になる外部電源装置の設置状態によって、ノイズが混入する恐れがありますので、ご注意ください。
- ◎ テレビ、ラジオなどの近くに設置すると、テレビ、ラジオからのノイズ影響を受けたり、放送受信障害(TVI、BCI)の原因となりますので、できるだけ離してください。特に室内アンテナなどのアンテナエレメントの近くに本体を設置しないでください。

車載運用時の設置場所について

●フロントパネル

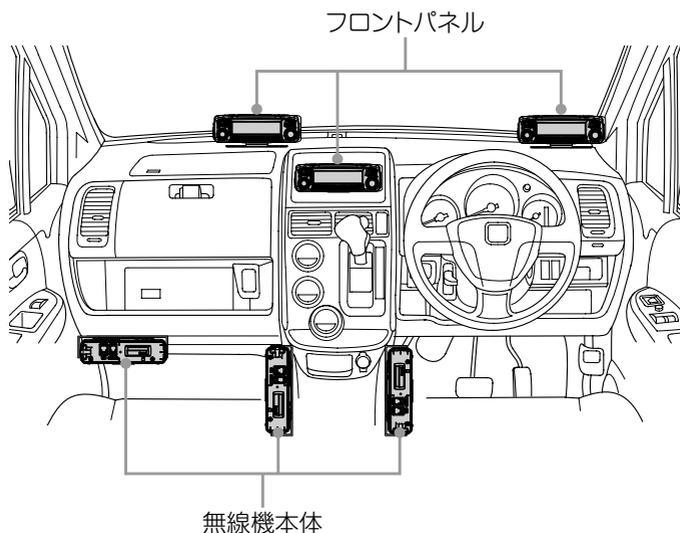
GPS 衛星を効率よく受信するため、車内のダッシュボードの上またはセンターコンソールの前面に設置することをおすすめします。フロントパネルの設置方法は 26 ページを参照してください。

参考 GPS 受信用のアンテナは、フロントパネルに内蔵されています。



●本体

車内のダッシュボードの下またはセンターコンソールの横に設置することをおすすめします。本体の設置方法は 25 ページを参照してください。



アンテナについて

アンテナは送受信に極めて重要な部分です。無線機が性能を十分に発揮できるかは、アンテナの種類や特性に大きく左右されますので、次のことにご注意ください。

- ◎ 運用目的および設置条件に適したアンテナをご使用ください。
- ◎ 運用周波数帯に適合したアンテナをご使用ください。
- ◎ アンテナの給電点インピーダンスと同軸ケーブルの特性インピーダンスが 50 Ω のものをご使用ください。
- ◎ 整合インピーダンス 50 Ω のアンテナで VSWR (定在波比) が 1.5 以下になるように調整してください。
- ◎ 同軸ケーブルは、できるだけ短くなるように配線してください。

アンテナを設置する

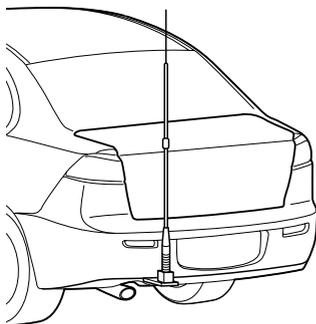
● 車載運用時のアンテナ設置

自動車の後部(リアバンパー、トランク、リアゲートなど)にアンテナ基台を取り付け、アンテナを設置してください。

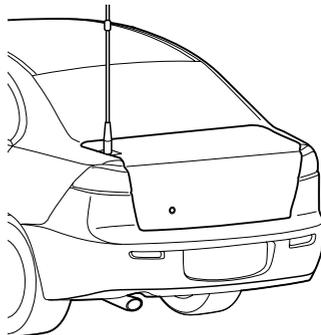
注意

- アンテナ基台のアースは、車体にしっかり接地してください。
- 市販の車載アンテナに同梱された同軸ケーブルを使用するときも、できるだけ短くなるように配線してください。
- 同軸ケーブルを車内に配線するとき、引き込み口から雨水が入らないようにご注意ください。

バンパー型



トランク型



● 固定局運用時のアンテナ設置

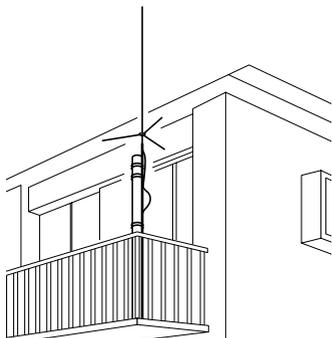
屋外アンテナを使用する場合、無指向性アンテナと指向性アンテナがあります。

- GP(グランドプレーン)アンテナなどの無指向性アンテナは、ローカル局やモバイル局との交信に適しています。
- 八木アンテナなどの指向性アンテナは、遠距離局や特定局との交信に適しています。

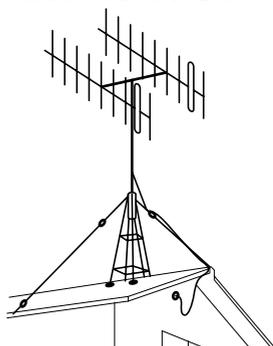
注意

- 同軸ケーブルは、アンテナの直下でループ(たるみ)を作り、アンテナ自体に同軸ケーブルの自重がかからないように設置してください。
- アンテナが倒れたり、強風で飛ばされないように、支線の張り方や固定補助など配慮して設置してください。

GP アンテナ
(ベランダに取り付けた例)



八木アンテナ
(屋根に取り付けた例)



本体を設置する

付属のブラケット「MMB-36」で、本体を設置します。

1 設置する場所を選ぶ

注意 しっかり固定できる場所をお選びください。

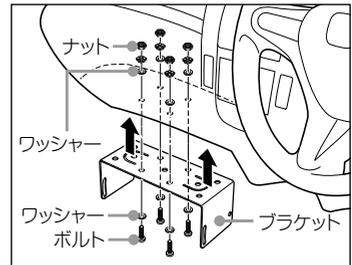
参考 「車載運用時の設置場所について」(P.22)も参考にしてください。

2 ブラケットを取り付ける位置に穴をあける

ブラケットのボルト穴の位置にあわせて、設置場所に直径 6mm 以上の穴を 4 箇所あけます。

3 ブラケットを取り付ける

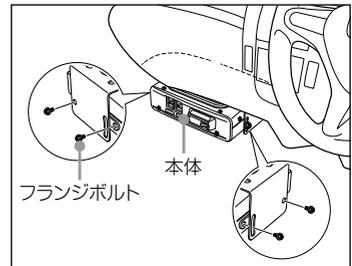
付属のボルト、ナット、ワッシャーでブラケットを固定します。



4 本体をブラケットに取り付ける

図のように、付属のフランジボルトでブラケットに本体を取り付けます。

参考 フランジボルトの固定位置により、角度を変更できます。



フロントパネルを設置する

付属のブラケットで、フロントパネルを設置します。

注意

ブラケットは、フロントパネルを設置する場所にあわせて手で曲げられます。ブラケットを曲げる場合は、けがをしないよう十分にご注意ください。

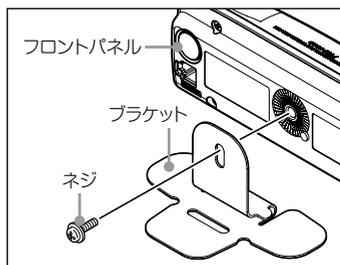
1 設置する場所を選ぶ

注意 できるだけ凹凸や傾きのない安定した場所をお選びください。

参考 「車載運用時の設置場所について」(P.22)も参考にしてください。

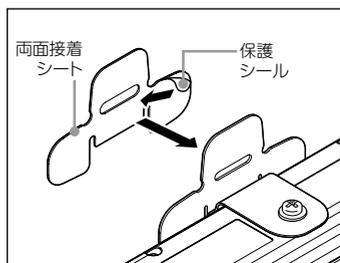
2 ブラケットをフロントパネルに取り付ける

図のように、付属のネジでフロントパネルにブラケットを取り付けます。



3 ブラケットに両面接着シートを貼る

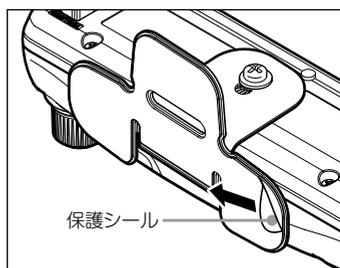
付属の両面接着シートの保護シールを剥がして、ブラケットの底面に貼ります。



4 設置する場所に取り付ける

ブラケットに貼った両面接着シートの裏側の保護シールを剥がし、フロントパネルを設置場所に貼り付けます。

注意 設置する場所にホコリやゴミなどないようにしてから貼り付けてください。



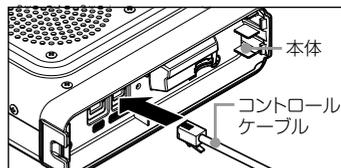
無線機を接続する

フロントパネルを本体と接続する

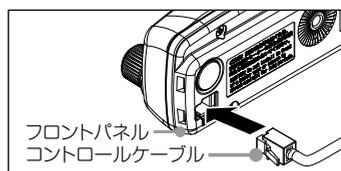
注意

必ず本体の電源を切ってから接続してください。

- 1 付属のコントロールケーブルを本体に接続する
本体前面の [CONTROL] ジャックに、「カチッ」と音がするまでコントロールケーブルのコネクタを差し込みます。



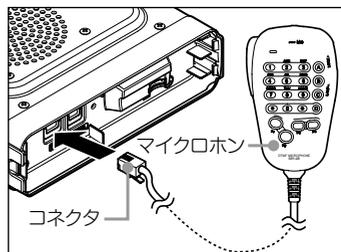
- 2 フロントパネルにコントロールケーブルを接続する
フロントパネル後面の [CONTROL] ジャックに、「カチッ」と音がするまでコントロールケーブルのコネクタを差し込みます。



マイクロホンを接続する

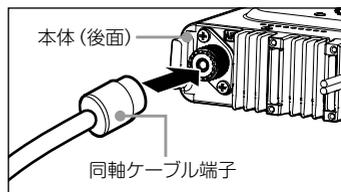
- 1 付属のマイクロホンを取り外す場合は、本体前面の [MIC] ジャックに、マイクロホンのコネクタを「カチッ」と音がするまで差し込みます。

- 参考**
- ・ マイクロホンを取り外す場合は、コネクタのツメを押しながら引き抜きます。
 - ・ オプションのマイクエクステンションキット [MEK-2] を使用すると、MEK-2 に付属のマイク延長ケーブル（約 3m）で、付属のマイクロホンでは届かない場所への設置が可能になります。



アンテナを接続する

- 1 アンテナにつないだ同軸ケーブルを本体に接続する
本体後面の [ANT] 端子に、同軸ケーブルの端子を差し込み、まわし締めます。



電源を接続する

車載バッテリーとの接続

本機を車載移動局として使用する場合は、自動車のバッテリーを電源として使用します。

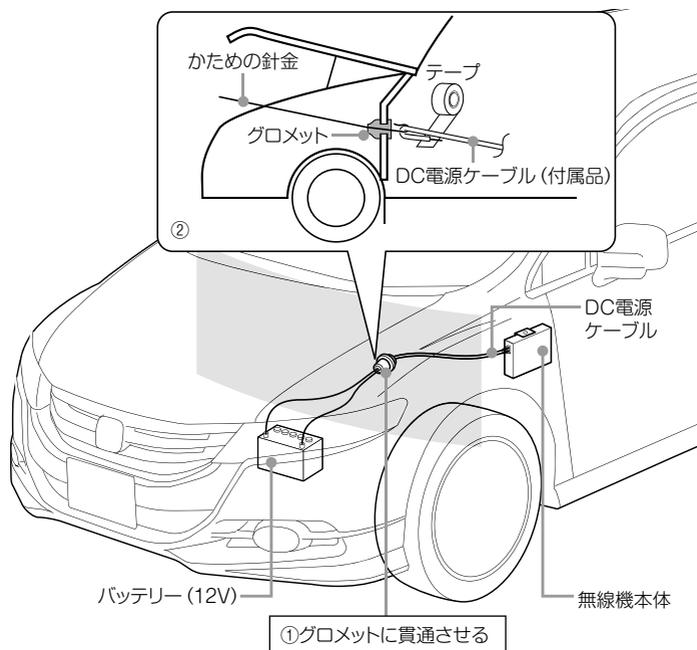
注意

- 車体にバッテリーのマイナス(-)電極が接続してある、マイナス接地の自動車でご使用ください。
- 自動車のバッテリーが 12V 仕様であることを確認してください。大型車などの 24V バッテリーには接続しないでください。
- 車内のシガーライターから電源をとる方法で接続しないでください。

(1) 車内からエンジンルームへの配線

DC 電源ケーブルはグロメットを通してエンジンルームへ引き込みます。

- 1 エンジンルームから車内へ針金を送り込む
かための針金をエンジンルーム側からグロメットに貫通させます。
- 2 送り込んだ針金の先端に、付属の DC 電源ケーブルの裸線端を絡ませる
- 3 針金の先端を折り曲げ、テープで巻き付ける
- 4 針金をエンジンルームへ引き戻す
DC 電源ケーブルがエンジンルームへ引き込まれます。
- 5 テープを剥がして DC 電源ケーブルを針金から外す

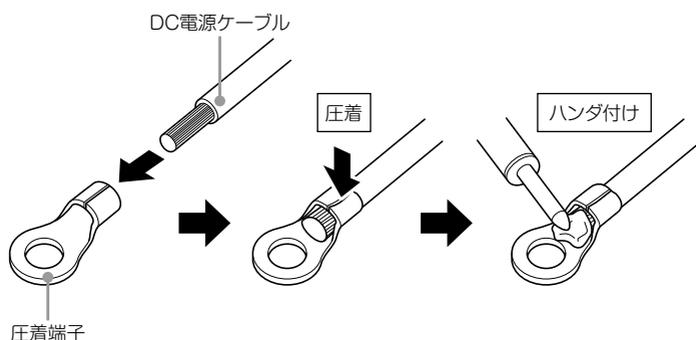


(2) 電源ケーブルの接続

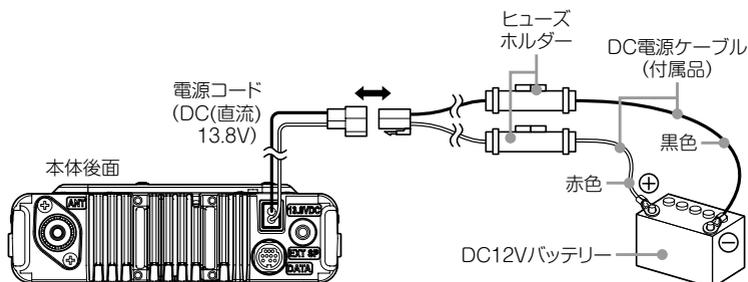
注意

- 付属、または指定以外の DC 電源ケーブルを使用しないでください。
- DC 電源ケーブルの上に物をのせたり、踏みつけたりしないでください。
- DC 電源ケーブルのヒューズホルダーを切断して使用しないでください。
- バッテリー接続時は、極性(プラスとマイナス)を間違えないでください。

- 1 バッテリーからマイナス(-)端子を外す
作業中のショートを防止します。
- 2 圧着端子を DC 電源ケーブルの裸線端に取り付ける
市販の端子を入手し、赤色線(+)と黒色線(-)の両方に圧着またはハンダ付けします。



- 3 DC 電源ケーブルの赤色線(+)をバッテリーのプラス(+)端子に接続する
注意 DC 電源ケーブルの端子が浮いたり外れたりしないように、しっかりと固定してください。
- 4 外していたバッテリーのマイナス(-)端子を取り付ける
- 5 DC 電源ケーブルの黒色線(-)をバッテリーのマイナス(-)端子に接続する
注意 DC 電源ケーブルの端子が浮いたり外れたりしないように、しっかりと固定してください。
- 6 DC 電源ケーブルを本体に接続する
本体の電源コードのコネクタに、DC 電源ケーブルのコネクタを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



外部電源装置との接続

本機を固定局として使用する場合は、外部電源装置を使用します。

注意

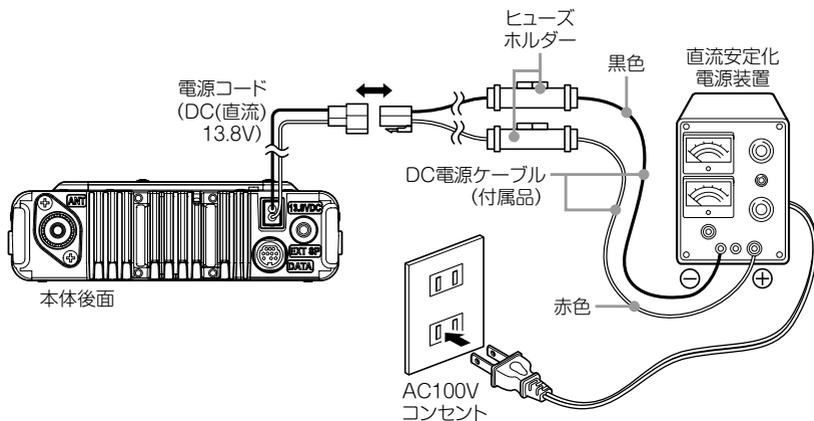
- 外部電源装置には、直流(DC) 13.8V、電流量 12A 以上 (FTM-100D) または 20A 以上 (FTM-100DH) を供給できるものを使用してください。
- 必ず外部電源装置の電源を切った状態で、接続してください。

1 DC 電源ケーブルを外部電源装置に接続する

付属の DC 電源ケーブルの赤色線 (+) を外部電源装置のプラス (+) 端子に、黒色線 (-) を外部電源装置のマイナス (-) 端子に接続します。

2 DC 電源ケーブルを本体に接続する

本体の電源コードのコネクタに、DC 電源ケーブルのコネクタを「カチッ」と音がするまで差し込みます。



microSD カードをセットする

本機では、市販の microSD カードを使用すると、次のようなことができます。

- 本機の情報バックアップする
- GPS ログデータを保存する
- GM 機能や WIRES-X 機能でダウンロードしたデータを保存する
- 複数の無線機間で保存したデータを交換する

使用できる microSD カード

本機では、2GB の microSD カードと 4GB、8GB、16GB、32GB の microSDHC カードをお使いいただけます。

注意

- microSD カードまたは microSDHC カードは本製品には付属していません。
- 市販されているすべての microSD カードと microSDHC カードの動作を保証するものではありません。

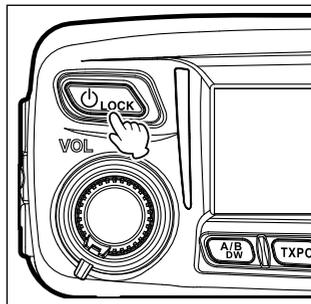
microSD カード使用時のご注意

- microSD カードを曲げたり、重い物を上に載せたりしないでください。
- microSD カードの端子面を素手で触れないでください。
- 他の機器で初期化した microSD カードを本機で使用すると、正常に記録できない場合があります。他の機器で初期化した microSD カードを使用される場合も、本機で初期化しなおしてください。(メモリカードの初期化方法は 33 ページを参照してください)
- microSD カードにデータを書き込み中、または読み込み中に、microSD カードを抜いたり、本機の電源を切らないでください。
- 本機の microSD カードスロットには、microSD カード以外のものを挿入しないでください。
- 挿入した microSD カードは、無理に引き抜かないでください。
- 1 つの microSD カードを長期間使用すると、書き込みまたは消去などができなくなることがあります。書き込みまたは消去などできないときは寿命ですので、新しい microSD カードをご使用ください。
- microSD カード内のデータ破損による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

microSD カードをセットする

microSD カードを取り付ける

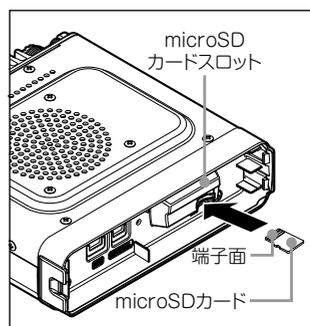
- 1  を 2 秒以上押し、本体の電源を切る



- 2 microSD カードスロットに microSD カードを押し込む

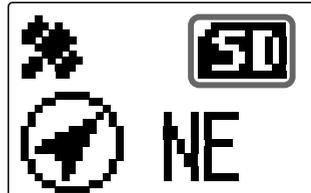
microSD カードの端子面を上にして、「カチッ」と音がするまで押し込みます。

- 注意**
- microSD カードの向きに注意して差し込んでください。
 - microSD カードの端子部分を手で触れないでください。



その後電源を入れると、ディスプレイの右上に  アイコンが表示されます。

- 参考** カードの容量によりアイコンが表示されるまで時間がかかる場合があります。



microSD カードを取り外す

- 1  を 2 秒以上押し、本体の電源を切る
- 2 microSD カードを押し込む
「カチッ」と音がして microSD カードが押し出されます。
- 3 microSD カードスロットから microSD カードを引き抜く

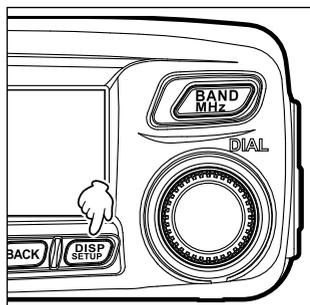
microSD カードを初期化する

新しい microSD カードを使用するときは、次の手順で初期化してください。

注意

初期化すると、microSD カードに記録されているすべてのデータが消去されます。使用中の microSD カードを初期化する場合は、microSD カードの内容をご確認ください。

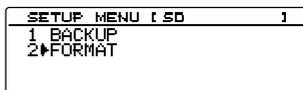
- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして **[11 SD]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[2 FORMAT]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
フォーマット確認画面が表示されます。



- 4 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
microSD カードが初期化されます。

参考 初期化を中止する場合は、DIAL をまわして **[Cancel]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押します。

初期化が終わると「Completed」と表示され、メニューリストに戻ります。



受信する

電源を入れる

- 1  を 2 秒以上押す
電源が入り、画面に表示があらわれます。

<デジタルと APRS のコールサインが同じ場合>

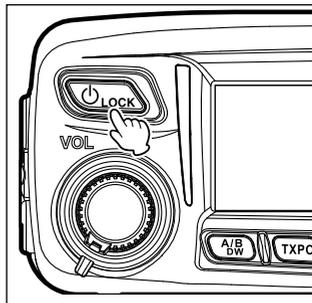


<デジタルと APRS のコールサインが異なる場合>

左側にデジタルのコールサイン、右側に APRS のコールサインが表示されます。



- 参考** ・ お買い上げのあと初めて電源を入れたとき、またはリセット後は、自局のコールサインを入力するよう求める画面が表示されます。
・ 2 回目以降は、初回に入力した自局のコールサインが表示されます。



電源を切る

- 1  を 2 秒以上押す
画面の表示が消え、電源が切れます。

コールサインを入力する

お買い上げのあと初めて電源を入れたとき、または本機をリセットしたあとは、自局のコールサインを入力する画面が表示されます。

コールサインは、デジタルモードでの交信のとき、発信局の識別などに利用されます。



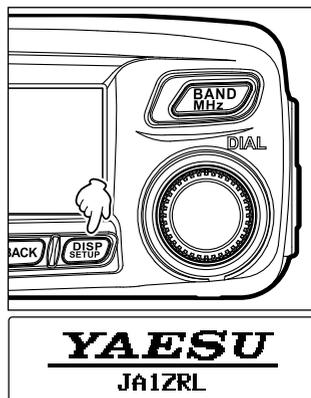
- 1 DIAL をまわして文字を選択し、 を押す

- 参考** ・ 英数字とハイフンで 10 文字まで入力できます。
・ 文字入力の操作方法は、「文字を入力する」(P.20)を参照してください。



- 2 **DISP** を押す
画面が切り替わります。

入力したコールサインが画面下部に表示されたあと、周波数表示画面に切り替わります。

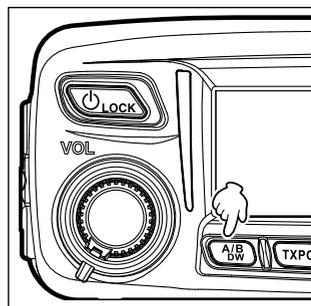


操作バンドを切り替える

画面には、2つの運用バンドが上下2段に表示されます。周波数や電波型式を変えることができるバンドは片方だけで、これを「操作バンド」と呼び、下段に表示されます。ます。操作バンドではない方は「サブバンド」と呼び、上段に表示されます。

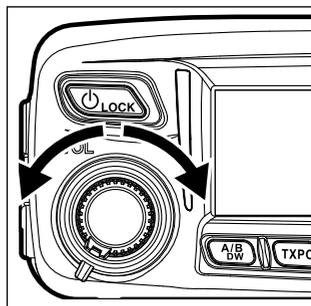
- 1 **A/B** を押す
押すたびに、操作バンドが A バンド、または B バンドに切り替わります。

注意 操作バンドと同時にサブバンドを受信することはできません。



音量を調節する

- 1 VOL をまわす
時計回りにまわすと音量が大きくなり、反時計回りにまわすと小さくなります。



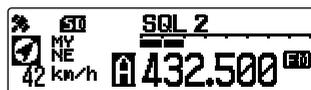
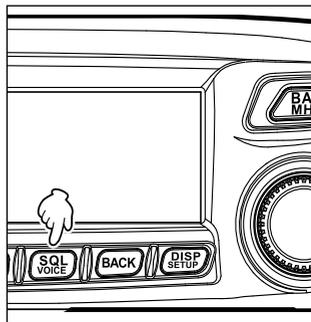
スケルチのレベルを調節する

信号が入感していないときの耳障りなノイズを消去できます。AバンドとBバンドで個別に調節できます。スケルチのレベルを上げるとノイズは消えやすくなりますが、弱い電波が入感しにくくなる場合があります。必要に応じて調節してください。

1 を押す

サブバンドの表示部、およびSQLメーターに、現在のスケルチレベルが表示されます。

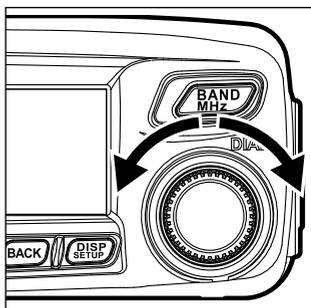
参考 デジタルモード時は、スケルチレベルが0でもノイズは出ません。



2 DIAL をまわしてスケルチのレベルを調節する

サブバンド表示部のスケルチレベルの数値、およびSQLメーターのレベル表示が変更されます。

参考 メーターが切り替わったあと、またはDIALをまわしたあと、3秒間何も操作しないと、通常画面に戻ります。

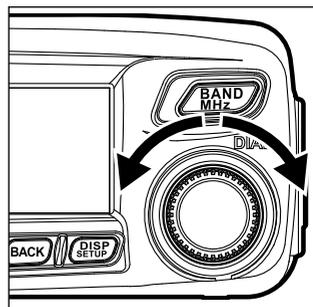


周波数をあわせる

● DIAL を使う

1 DIAL をまわす

時計回りにまわすと周波数が高くなり、反時計回りにまわすと低くなります。



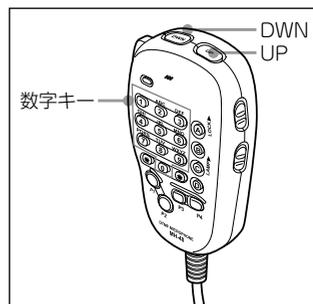
● マイクロホンを使う

[UP]と[DWN]を使う

[UP]を押すと周波数が高くなり、[DWN]を押すと低くなります。

数字キーを使う

①～⑨の数字キーを押して、直接周波数を入力します。

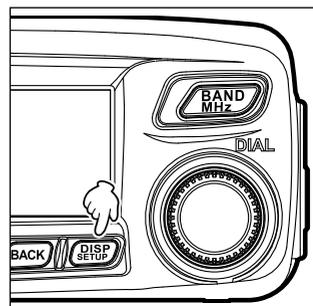


周波数ステップを変える

DIAL やマイクロホンの[UP] / [DWN]キーの操作で1回に変わる周波数の量(ステップ)を変えることができます。

1 **[DISP SETUP]**を1秒以上押す

セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして**[8 CONFIG]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す



メニューリストが表示されます。

- 3 DIAL をまわして**[7 FM AM STEP]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す



- 4 DIAL をまわして周波数ステップを選択する
次の順番で周波数ステップが切り替わります。
[AUTO]→[5.00 KHz]→[6.25 KHz]→
[8.33 KHz]→[10.00 KHz]→[12.50 KHz]→
[15.00 KHz]→[20.00 KHz]→[25.00 KHz]→
[50.00 KHz]→[100.00 KHz]



参考 ・工場出荷値：AUTO

- ・8.33kHz ステップは、Air バンドでのみ選択できます。
- ・480MHz 以上の周波数では、5kHz、6.25kHz、15kHz のステップは選択できません。

- 5 **[DISP SETUP]**を1秒以上押す
周波数ステップが設定され、もとの画面に戻ります。

参考 **[BACK]**を3回押ししても戻ります。

運用モードを切り替える

周波数などを自由に設定できる VFO モードと、メモリーしたチャンネルを呼び出して運用するメモリーモードを切り替えることができます。

- 1 操作バンドを決める

- 2 **[VIM MW]**を押す

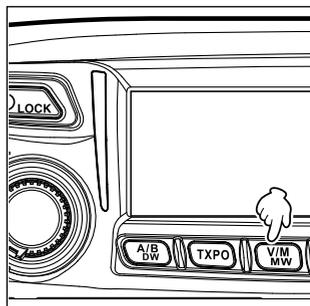
メモリーモードに切り替わります。

操作バンド名表示部に、**[M A]**または**[M B]**と、メモリーチャンネル番号が表示されます。

参考 ・A バンドの場合は、**[M A]**が表示されます。

- ・B バンドの場合は、**[M B]**が表示されます。

メモリーチャンネルに名前(タグ)を付けている場合は、周波数表示部、またはサブバンド表示部にタグが表示されます。



- 3 もう一度**[VIM MW]**を押す
VFO モードに切り替わり、最後に受信していた周波数に戻ります。

通信モードを切り替える

本機には、受信した信号に合わせて4つの通信モードを自動的に選択するAMS (Automatic Mode Select)機能が搭載されています。

自動的に相手局の通信モードに合わせるため、C4FM デジタル信号だけでなく、アナログ信号も自動で認識されます。

[P_x]を押して、ディスプレイに「**○○***」を表示させます。

※表示は受信した信号により異なります。



通信モードを固定して運用する場合は、**[P_x]**で通信モードを切り替えてください。

[P_x]を押すたびに、通信モードが次のように切り替わります。

[FM] (AMS) → **[DN]** (V/D モード) → **[VW/DW]** (FR モード) → **[FM]** (アナログ)

運用モード	表示	モードの説明
AMS (Automatic Mode Select)	○○	受信した信号に合わせて、4つの通信モードを自動的に選択します。 (○○部は受信した信号により表示が異なります) AMS機能の動作を、セットアップメニューの設定で変更することができます。「AMS機能時の送信モードを設定する(3 AMS TX MODE)」(P.125)を参照してください。
V/D モード (音声 / データ同時通信モード)	DN	デジタル音声信号の伝送と同時に、音声信号のエラーを検出・修正するため通話が途切れにくくなります。C4FM Digitalの基本モードです。
Voice FR モード (音声フルレートモード)	VW	12.5kHzの帯域をすべて使用してデジタル音声データを伝送します。高音質な音声通信が可能です。
Data FR モード (高速データ通信モード)	DW	12.5kHzの帯域をすべてデータ通信に使用する高速データ通信モードです。 画像通信では自動的にこのモードに切り替わります。
アナログ FM モード	FM	FMモードを使用したアナログ通信モードです。 デジタルモードでは音声途切れのような信号強度の弱い状態で使用すると効果的です。

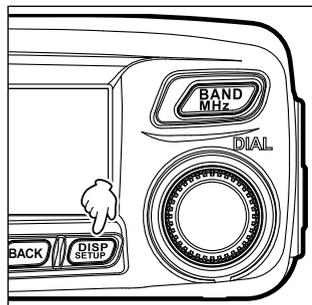
注意

- V/D モード(ディスプレイの表示は“DN”)では、通話時の電波に位置情報が含まれていますが、Voice FR モード(ディスプレイの表示は“VW”)では、位置情報が含まれません。
- 平成 21 年総務省告示第 179 号の注 22 により、呼出周波数(145.000MHz および 433.000MHz)では、デジタルモードでの送信は禁止されています。
- デジタルモードの呼出周波数は、145.30MHz と 433.30MHz を使用できます。

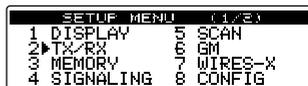
電波型式を切り替える

アナログモードでは、「AUTO」、「MANUAL (FM)」、「MANUAL (AM)」を選択できます。工場出荷時は、周波数に応じて自動的に最適な電波型式に切り替わる「AUTO(オートモード)」に設定されています。

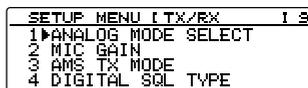
- 1 操作バンドを決める
- 2 **(DISP/SETUP)** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[2 TX/RX]** を選択し、**(DISP/SETUP)** を押す
メニューリストが表示されます。



- 4 DIAL をまわして **[1 ANALOG MODE SELECT]** を選択し、**(DISP/SETUP)** を押す
電波形式の設定値が表示されます。



- 5 DIAL をまわし、電波形式を選択する
「1 AUTO」: 周波数帯に適した電波型式に自動的に切り替わります。

「2 MANUAL (FM)」: FM に切り替わります。

「3 MANUAL (AM)」: AM に切り替わります。

参考 工場出荷値 : 1 AUTO

- 6 **(DISP/SETUP)** を 1 秒以上押す
電波型式が設定され、前の画面に戻ります。

参考 **(BACK)** を 3 回押ししても戻ります。

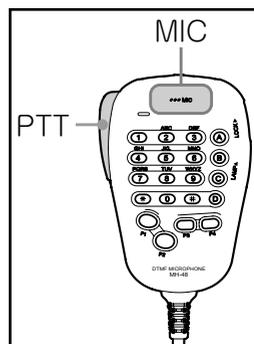
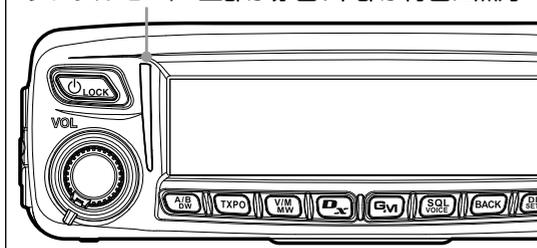


交信する

送信する

- 1 マイクロホンの【PTT】を押しつづける
アナログモードの場合、モード / ステータスインジケータの上下が赤色に点灯します。
デジタルモードの場合、モード / ステータスインジケータの上部が赤色、下部が青色に点灯します。

アナログモード：上下が赤色に点灯
デジタルモード：上部が赤色、下部が青色に点灯



- 2 マイクロホンの【MIC】に向かって話す
参考 マイクロホンを口元から 5cm ほど離して話してください。
- 3 【PTT】を放す
モード / ステータスインジケータが消灯し、受信状態に戻ります。

参考

- ・長時間の連続送信はできるだけ避けてください。本体の温度が上昇し、発熱などの原因で故障ややけどの原因になります。
- ・送信できない周波数では、ディスプレイに「ERROR TX FREQ」が表示されます。
- ・オプションの「クーリングファン SMB-201」を使用すると、長時間の連続送信による本機の発熱を、効率的に冷却できます。

送信出力を調節する

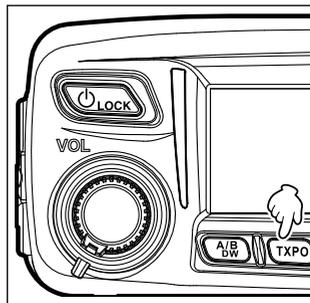
距離が近い相手と交信するときや、電力消費を抑えたいときは、送信出力を下げても交信できます。

- 1 **[TXPO]** を押す

[TXPO] を押すたびに、次の順番で送信出力が切り替わります。

[HIGH]→[LOW]→[MID]

モデル	HIGH	MID	LOW
FTM-100D	20W	10W	1W
FTM-100DH	50W	20W	5W

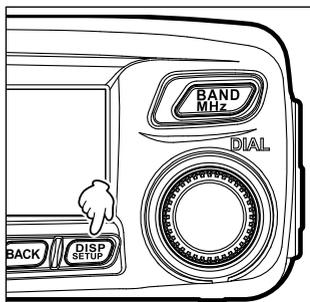


マイクロホンの感度を調節する

マイクロホンの感度(マイクゲイン)を調節することができます。

- 1 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す

セットアップメニューが表示されます。



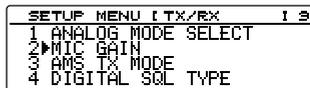
- 2 **DIAL** をまわして**[2 TX/RX]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

メニューリストが表示されます。



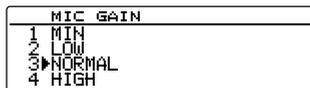
- 3 **DIAL** をまわして**[2 MIC GAIN]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

マイクゲインの設定値が表示されます。



- 4 **DIAL** をまわし、マイクゲインを選択する
[1 MIN]→[2 LOW]→[3 NORMAL]→[4 HIGH]

参考 工場出荷値：3 NORMAL



- 5 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す

感度が設定され、もとの画面に戻ります。

参考 **[BACK]** を3回押ししても戻ります。

FM モードで交信する

- 1 操作バンドを決める
- 2 電波型式を「MANUAL (FM)」にする
- 3 DIAL をまわし、周波数をあわせる
- 4 マイクロホンの【PTT】を押しながら話す

参考

ハーフデビエーション(変調度を半分にする機能)も利用できます。セットアップメニューの【2 TX/RX】→【7 HALF DEVIATION】で「1 ON」を選択してください。

レピータで交信する

本機には、受信周波数をレピータの周波数(439.000 ~ 440.000MHz)にあわせるだけで、自動的にレピータで交信できる ARS (Automatic Repeater Shift) 機能が搭載されています。

- 1 受信周波数をレピータの周波数にあわせる



- 2 【PTT】を押しして送信する

送信時は 88.5Hz のトーン信号と、受信周波数より 5MHz 低い周波数で電波が発射されます。

参考

セットアップメニューでレピータの設定を変更できます。

- ・【8 CONFIG】→【4 AUTO REPEATER SHIFT】 ARS 機能の動作をオフにできます。
- ・【8 CONFIG】→【5 REPEATER SHIFT】 レピータのシフト方向が設定できます。
- ・【8 CONFIG】→【6 REPEATER SHIFT FREQ】 レピータのシフト幅が変更できます。

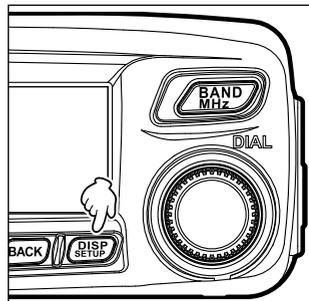
88.5Hz 以外のトーン信号を使っているレピータで交信する

トーン信号の周波数を設定してから交信します。

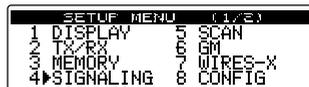
1 受信周波数をレピータの周波数にあわせる



2 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



3 **DIAL** をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。



4 **DIAL** をまわして **[1 TONE SQL FREQ]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
周波数が表示されます。



5 **DIAL** をまわして周波数を選択する



6 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
トーン周波数が設定され、もとの画面に戻ります。

参考 **[BACK]** を 3 回押しても戻ります。

7 **[PTT]** を押して送信する

送信時は設定したトーン信号と、受信周波数より 5MHz 低い周波数で電波が発射されます。

参考

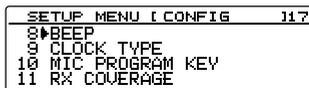
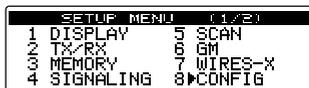
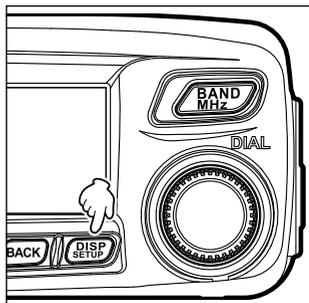
設定した内容は、メモリーに登録できます(「メモリーに書き込む」(P.55))。

その他の設定

ビーブ音の音量を変更する

キー操作するときには鳴る操作確認音(ビーブ音)の音量を変更できます。

- 1 **DISP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**DISP** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[8 BEEP]** を選択し、**DISP** を押す
音量の設定値が表示されます。
- 4 DIAL をまわして音量を選択する
「1 OFF」→「2 LOW」→「3 HIGH」
参考 工場出荷時：2 LOW
- 5 **DISP** を 1 秒以上押す
ビーブ音の音量が設定され、もとの画面に戻ります。
参考 **BACK** を 3 回押ししても戻ります。

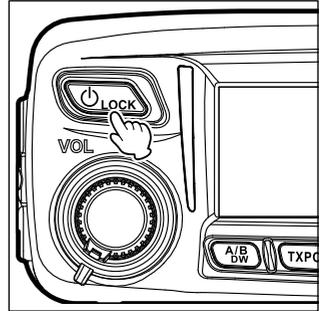


DIAL とボタンをロックする

運用中に誤って周波数などが変化しないように、DIAL とボタンをロックできます。

参考 VOL はロックされません。

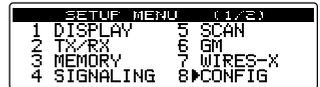
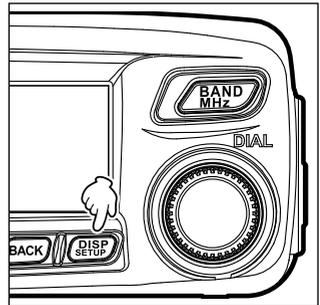
- 1  を短く押す
ディスプレイに「LOCK」と表示され、もとの画面に戻ります。
もう一度  を短く押すと、ロックを解除できます。ディスプレイに「UNLOCK」と表示され、もとの画面に戻ります。



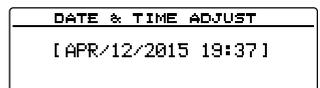
日付と時刻をあわせる

本機には時計が内蔵されていますので、お使いになる前に、時刻をあわせてください。

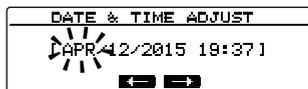
- 1  を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして [8 CONFIG] を選択し、 を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして [1 DATE & TIME ADJUST] を選択し、 を押す



現在設定されている日付と時刻が表示されます。

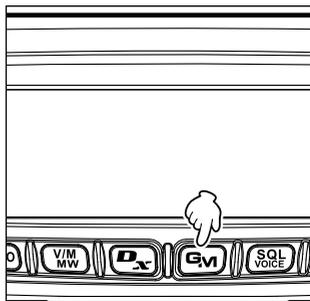


- 4 (DISP SETUP) を押す
「月」が点滅します。



- 5 DIAL をまわして月を設定する
6 (GM) を押す(上に **←→** が表示されています)
「日」が点滅します。

参考 戻る場合は (Dx) を押します(上に **←** が表示されています)。



- 7 DIAL をまわして日を設定する
8 (GM) を押す(上に **←→** が表示されています)
「年」が点滅します。
参考 戻る場合は (Dx) を押します(上に **←** が表示されています)。
9 DIAL をまわして年を設定する
10 (GM) を押す(上に **←→** が表示されています)
「時」が点滅します。
参考 戻る場合は (Dx) を押します(上に **←** が表示されています)。
11 DIAL をまわして時を設定する
12 (GM) を押す(上に **←→** が表示されています)
「分」が点滅します。
参考 戻る場合は (Dx) を押します(上に **←** が表示されています)。
13 DIAL をまわして分を設定する
14 (DISP SETUP) を押す
日時が設定され、設定画面に戻ります。
15 (DISP SETUP) を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。
備考 (BACK) を 3 回押しても戻ります。

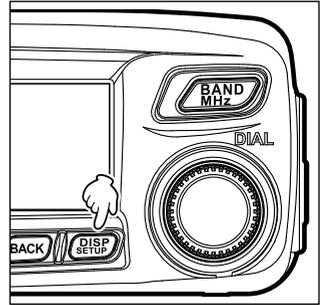
参考

- ・時計の精度は常温で月差 30 秒です。温度などの使用条件によっては精度が異なる場合があります。
- ・GPS から信号を受信すると、時刻が自動的にセットされます。
- ・本機をはじめてお使いになるとき、まれに時計の精度が低くなる場合があります。この場合は、もう一度時刻をあわせてください。
- ・カレンダーは、西暦 2000 年 1 月 1 日～西暦 2099 年 12 月 31 日まで表示できます。

ディスプレイの明るさを調節する

ディスプレイの明るさやコントラストを変更できます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 **DIAL** をまわして **[1 DISPLAY]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。



- 3 **DIAL** をまわして **[2 LCD BRIGHTNESS]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
レベルを選択する画面が表示されます。



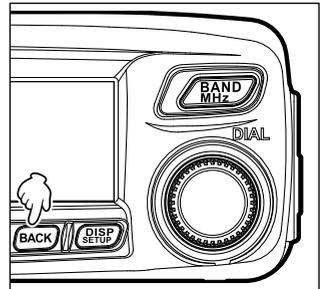
- 4 **DIAL** をまわして明るさのレベルを選択する
次の 7 段階から選べます。
[MIN][2][3][4][5][6][MAX]



参考 工場出荷時：MAX

- 5 **[BACK]** を押す

参考 設定を終了する場合は、**[DISP SETUP]** を 1 秒以上押します。
続けてコントラストを調整する場合は、手順 6 に進んでください。



- 6 **DIAL** をまわして **[3 LCD CONTRAST]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
レベルを選択する画面が表示されます。



- 7 **DIAL** をまわしてコントラストのレベルを選択する
次の 7 段階から選べます。
[-3][-2][-1][0][+1][+2][+3]



参考 工場出荷時：0

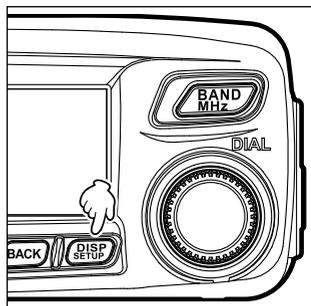
- 8 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
 コントラストが設定され、もとの画面に戻ります。

参考 **[BACK]** を 3 回押しても戻ります。

設定を初期値に戻す(オールリセット)

本機の設定やメモリー内容を、工場出荷時の値に戻すことができます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
 セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして**[13 RST/CLONE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

メニューリストが表示されます。



- 3 DIAL をまわして**[1 FACTORY RESET]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 4 DIAL をまわして**[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
備考 リセットを中止するときは、**[Cancel]** を選択します。



「ピッポッパッ」とビープ音が鳴り、コールサインの入力画面が表示されます。



- 5 コールサインを入力する
 コールサインを入力します。文字の入力方法については、「文字を入力する」(P.20)を参照してください。
- 6 **[DISP SETUP]** を押す
 コールサインが設定され、周波数画面が表示されます。

注意

オールリセットすると、メモリーに登録した内容はすべて消去されます。メモリーに登録した内容は、必ず紙などに記録するか、microSDメモリーカードにバックアップしてください。microSDメモリーカードへのバックアップについては、「セットアップメニュー：11 SDメニューの操作」(P.146)を参照してください。

デジタルグループ ID (DG-ID) 機能

デジタルグループ ID (DG-ID) は、二桁の ID 番号を使って簡単な操作で仲間だけと交信を楽しむことができる機能です。あらかじめ仲間同士で 00 から 99 までの二桁の番号から好きな番号を選びます。この ID 番号は送信と受信で別々に設定できるようになっていますが、送信、受信とも同じ ID 番号に設定しておけば、同じ ID 番号の仲間の音声だけを聞くことができます。

DG-ID 番号 00 はすべての ID 番号がついた信号を認識しますので、通常は、送信、受信とも ID 番号を 00 に設定しておけば、相手の送信 DG-ID 番号に関係なく、デジタル C4FM モードの全ての相手局の信号を聞くことができます。

受信の DG-ID 番号を 00 以外の数字に設定してありますと、同じ DG-ID 番号以外の受信音声を聞くことができませんのでご注意ください。

DG-ID 機能を使って交信する

参考

- この機能を利用するためには DG-ID 機能を持った C4FM デジタルトランシーバーが必要です。
- DG-ID 機能に対応していない C4FM デジタルトランシーバーは、最新のファームウェアにアップデートすることで DG-ID 機能をお使いいただけます。最新のファームウェアは当社のウェブサイトからダウンロードできます。

DG-ID 番号を“00”以外にして特定の仲間とだけ交信する

例：仲間同士の DG-ID 番号を“50”に設定する

- 1 **[Qw]** を 1 秒以上押す

DG-ID 番号の設定画面が表示されます。

参考 DG-ID 番号の設定中にて **[DISP]** を長押しすると、ワンタッチで送信と受信の DG-ID 番号を“00”に戻すことができます。

DG-ID SETUP			LOG
DG-ID TX	[00]		
DG-ID RX	[00]		

- 2 **[Qw]** を押す

送信の DG-ID 番号 (DG-ID TX) の数字が点滅します。

DG-ID SETUP			LOG
DG-ID TX	[:00]		
DG-ID RX	[00]		

- 3 DIAL をまわして、送信の DG-ID 番号を“50”に設定する

- 4 **[Qw]** を押してから、DIAL をまわして受信の DG-ID (DG-ID RX) を選択する

DG-ID SETUP			LOG
DG-ID TX	[50]		
DG-ID RX	[00]		

- 5 **[Qw]** を押す

受信の DG-ID 番号 (DG-ID RX) の数字が点滅します。

- 6 DIAL をまわして、受信の DG-ID 番号を“50”に設定する

DG-ID SETUP			LOG
DG-ID TX	[50]		
DG-ID RX	[:50]		

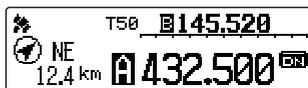
7  を 1 秒以上押す

DG-ID 番号が設定され、通常画面に戻ります。

- ・これで DG-ID 番号が同じ仲間同士で、周波数をあわせて交信が可能になります。
- ・ディスプレイの上部に送信の DG-ID 番号が表示されます。

参考 工場出荷時は送信と受信の DG-ID 番号は“00”に設定されています。

- ・通常の使用では送信と受信の DG-ID 番号を“00”にしてください。

8  を押すと、GM(グループモニター)機能が動作し、GM 機能をオンにしている同じ DG-ID 番号を持った仲間が交信可能範囲にいるかをチェックします。

- ・ディスプレイの上部に GM アイコンと送信の DG-ID 番号が交互に表示されます。
- ・同じ周波数で GM 運用中の交信圏内局のコールサインと信号の強さを最大 24 局まで確認できます。
- ・DIAL をまわして相手局を選択することができます。

9 GM(グループモニター)機能を終了するには、 を押します

参考 受信の DG-ID 番号を“00”以外に設定すると、同じ DG-ID 番号の信号以外は受信できませんのでご注意ください。

- ・距離や方位の表示は相手局の信号に位置情報が含まれている場合だけです。
- ・GM 機能で位置情報を送信できるトランシーバーは以下のとおりです。(2017 年 11 月現在) FTM-400XD/FTM-400D シリーズ、FTM-100D シリーズ、FT2D、FT1XD、FT1D、FT-991A ※、FT-991 ※
(※ 手動または外部 GPS 機器を接続して緯度経度の設定が必要です。)

デジタルパーソナル ID (DP-ID) 機能

C4FM デジタル通信では、送信電波に個々のトランシーバーが持つ個別 ID 情報が含まれています。DP-ID 機能は、この個別 ID 情報を使ってグループ通信を行うものです。家族や親しい友人とお互いのトランシーバーに相手局の DP-ID を登録しておけば、仲間とのグループ通信に普段使っているデジタルグループ ID (DG-ID) ナンバーが、お互いに異なっても DG-ID ナンバーを合わせ直さなくても、PTT スイッチを押すだけでそのまま交信ができます。

参考

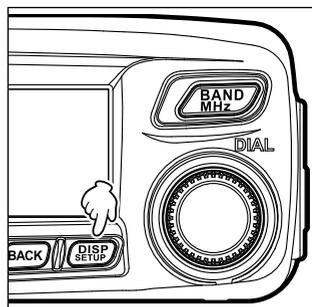
- この機能を利用するためには DP-ID 機能を持った C4FM デジタルトランシーバーが必要です。
- DP-ID 機能に対応していない C4FM デジタルトランシーバーは、最新のファームウェアにアップデートすることで DP-ID 機能をお使いいただけます。最新のファームウェアは当社のウェブサイトからダウンロードできます。

相手局の DP-ID を登録する

参考

- DP-ID は一度登録すれば削除するまで記憶されています。
- お互いのトランシーバーが近くにある状態で登録をしてください。
- 受信の DG-ID コードを“00”に設定していると、常に全ての C4FM デジタル局の信号を受信しますので、DP-ID 機能を使うときは受信の DG-ID コードを“00”以外に設定することをおすすめします。

- 1 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして **[6 GM]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[1 DP-ID LIST]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
DP-ID リスト画面が表示されます。



- 4 この状態で登録する相手局のトランシーバーを C4FM デジタルモードで送信します。

相手局の信号を受信すると、登録の確認画面がポップアップしてコールサインが表示されます。

- 参考** ・すでに登録されているトランシーバーの信号を受信したときは、DP-ID LIST の表示は変わりません。
 ・すでに登録されているトランシーバーを異なるコールサインで登録したときは、すでに DP-ID LIST に登録されているコールサインが変更されます。



- 5 **[DISP SETUP]** を押して登録する

- ・ DP-ID LIST 画面に戻ります。
- ・登録を行わない場合には DIAL ツマミをまわして、“Cancel” を選択して **[DISP SETUP]** を押します。
- ・続けて登録をする場合は、手順 4～5 を繰り返します。
- ・最大 24 局まで登録できます。



- 6 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す

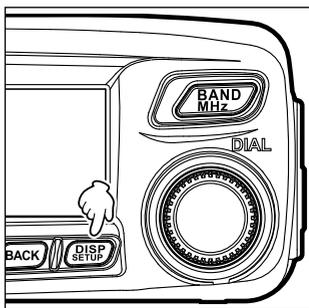
設定が保存され、もとの画面に戻ります。

- ・相手局のトランシーバーにも、同様の操作をしてグループ内のすべてのトランシーバーの DP-ID を登録します。
- ・以上で DP-ID の設定は終わりです。

登録した DP-ID を削除する

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す

セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして **[6 GM]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。

- 3 DIAL をまわして **[1 DP-ID LIST]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

DP-ID リスト画面が表示されます。

- 4 DIAL をまわして削除する DP-ID を選択する

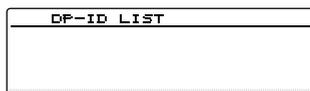


5  を押す

削除の確認画面が表示されます。

6 DIAL をまわして “OK?” を選択し  を押して削除する

- ・ DP-ID LIST 画面に戻ります。
- ・ 削除を行わない場合には DIAL ツマミをまわして、“Cancel” を選択して  を押します。
- ・ 続けて削除をする場合は、手順 4～6 を繰り返します。

7  を 1 秒以上押す

設定が保存され、もとの画面に戻ります。

メモリーを使う

本機では、よく使う周波数をメモリーしておくことができ、運用のたびに周波数を合わせる手間が省けます。また、メモリーを使った次のような機能も搭載されています。

- ・受信したくないメモリーチャンネルをスキャン中にスキップさせる (P.68)
- ・指定したメモリーチャンネルだけをスキャンする (P.67)
- ・指定した周波数範囲(同じ周波数帯)だけをスキャンする「プログラマブルメモリースキャン(PMS)」(P.70)

さらに、通常のメモリーチャンネルや PMS メモリーチャンネルでは、各チャンネルに、個別の運用周波数やアナログモード時の電波型式、その他の運用情報などもメモリーできます。

- ・運用周波数
 - ・電波型式*
 - ・メモリータグ
 - ・レピータ情報
 - ・トーン情報
 - ・DCS 情報
 - ・空線スケルチ情報
 - ・メモリースキップ情報
 - ・送信出力
- *デジタルモードとアナログモードの情報はメモリーされません。

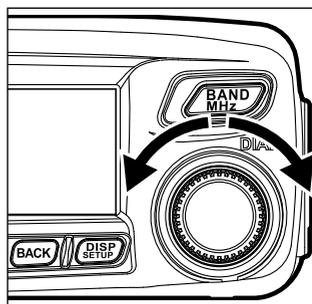
メモリーに書き込む

注意

メモリーした内容は、誤操作や静電気または電氣的雑音を受けたときに消失する場合があります。また、故障や修理の際にも消失する場合があります。メモリーに登録した内容は、必ず紙などに記録するか、microSD カードに書き込んでください。

A バンド B バンドそれぞれ、500 チャンネルのメモリーが使用できます。

- 1 VFO モードに切り替える
- 2 DIAL で周波数をあわせる
メモリーに書き込む周波数を選択します。



- 3 **[V/M MW]** を 1 秒以上押す
MEMORY WRITE 画面が表示されます。

空いているメモリーチャンネルに、周波数が自動的に表示されます。

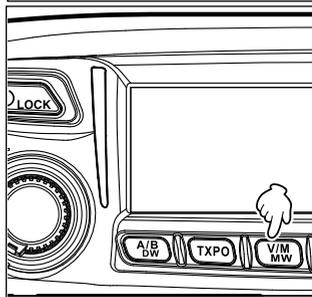
参考 ・メモリーチャンネルに名前をつけるときは、ここで「メモリーに名前をつける」(P.59)の手順 4～12 を参考に入力してください。

・指定メモリーを設定する場合、「指定メモリーを設定する」(P.67)の手順 4 を実行します。

・スキップメモリーを設定する場合、「スキップメモリーを設定する」(P.68)の手順 4 を実行します。

- 4 DIAL をまわしてメモリーチャンネルを選ぶ

参考 **[TXPO]** を押すと、100 チャンネルずつ先に進みます。



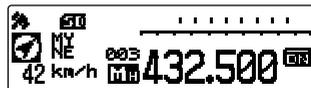
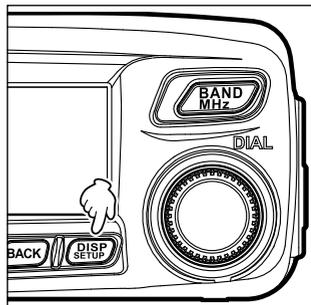
メモリーを使う

5 **DISP** を押す

メモリーの書き込みが終了し、ディスプレイに周波数とメモリーチャンネル番号が表示されます。

参考 ・すでに書き込まれているメモリーに、新しい周波数を上書きすることもできます。

- ・ **V/M MW** を押すと VFO モードに戻ります。



参考

- ・工場出荷時は、Aバンドのメモリーチャンネル1に145.000MHzが、Bバンドのメモリーチャンネル1に433.000MHzが登録されています。他の周波数に変更できますが、削除はできません。
- ・メモリーに名前をつけることもできます。「メモリーに名前をつける」(P.59)を参照してください。
- ・AバンドBバンドそれぞれ9組のPMS用メモリーチャンネルにも書き込むことができます。「プログラマブルメモリスキャン(PMS)」(P.69)を参照してください。

メモリーを呼び出す

1 **V/M MW** を押す

メモリーモードに切り替わり、ディスプレイに最後に使用したメモリーチャンネルが表示されます。

- ### 2 **DIAL** をまわしてメモリーチャンネルを選択する
- もう一度 **V/M MW** を押すと、VFO モードに戻ります。

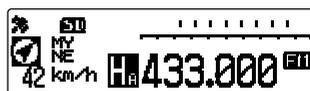
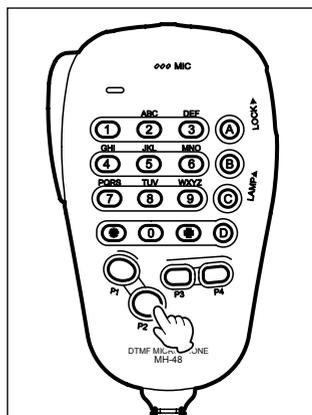


参考

未登録のメモリーチャンネルはスキップされます。

ホームチャンネルを呼び出す

- 1 マイクロホンの **[P2]** を押す
ディスプレイにホームチャンネルが表示されます。
参考 DIAL で周波数を変えると VFO モードに戻ります。



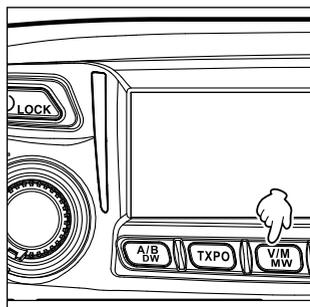
もう一度 **[P2]** を押すと VFO モードに戻り、ホームチャンネルを呼び出す前に選択していた周波数がディスプレイに表示されます。

参考 工場出荷時、144MHz 帯のホームチャンネルには 145.000MHz、430MHz 帯のホームチャンネルには 433.000MHz が登録されています。

ホームチャンネルの周波数を変更する

工場出荷時に設定されたホームチャンネルの周波数を変更できます。

- 1 VFO モードに切り替える
- 2 DIAL で周波数をあわせる
- 3 **[V/M MW]** を 1 秒以上押す
MEMORY WRITE 画面が表示されます。



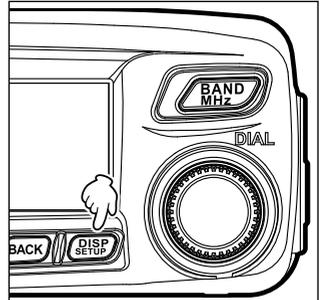
メモリーを使う

4 DIAL をまわして **[HOME]** を選ぶ



5 **[DISP SETUP]** を押す

上書き確認画面が表示されます。



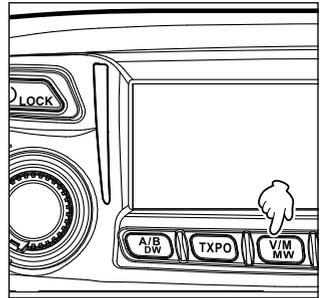
6 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
ホームチャンネルへの書き込みが終了し、変更した
ホームチャンネル周波数が表示されます。



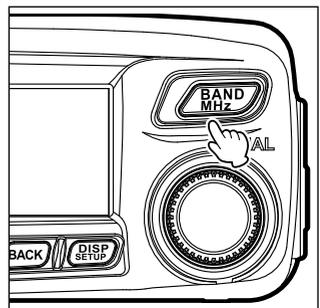
参考 中止するときは **[Cancel]** を選択して **[DISP SETUP]** を押しま
す。

メモリーを消去する

1 **[V/M MW]** を 1 秒以上押す
MEMORY WRITE 画面が表示されます。



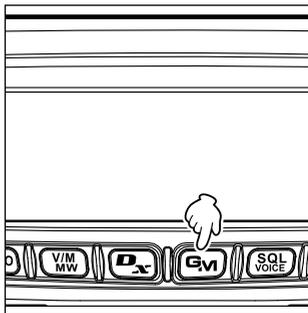
2 **[BAND MHz]** を押す(左側に **[LIST]** が表示されています)



- 3 DIAL をまわして消去するメモリーを選ぶ



- 4 **[Gv]** を押す (上に **[DEL]** が表示されています) 消去確認画面が表示されます。



- 5 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押すメモリーが消去され、表示が空欄に変わります。



- 参考** ・ **[Cancel]** を選択して **[DISP SETUP]** を押すと、メモリー消去をキャンセルできます。
 ・ 続けて他のメモリーを消去するには、手順 3～5 を繰り返します。

注意

メモリーチャンネル 1 とホームチャンネルは、消去できません。

- 6 **[BACK]** を押す
 もとの画面に戻ります。

メモリーに名前をつける

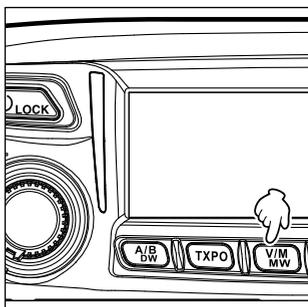
メモリーチャンネルやホームチャンネルには、コールサインや放送局名などの名前(メモリータグ)がつけられます。

メモリータグは、半角で 8 文字までの長さで、次の文字が入力できます。

・英字(大文字 / 小文字)、数字、記号、カタカナ

例 : 「YM グループ 01」という名前をつける

- 1 **[V/M MW]** を 1 秒以上押す
 MEMORY WRITE 画面が表示されます。

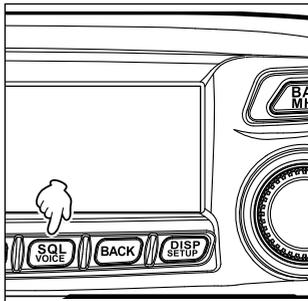


- 2 **[BAND]** を押す(左側に**LIST**が表示されています)
- 3 名前をつけるメモリーチャンネルを選ぶ

参考 ホームチャンネルに名前をつける場合は、ホームチャンネルを選んでください。



- 4 **[SQL VOICE]** を押す(上に**TAG**が表示されています)
周波数表示右側の[| | | | |]の左端にカーソルが移動します。



- 5 DIAL をまわして**[Y]**を選び、**[GM]** を押す(上に**→**が表示されています)
「Y」が入力され、カーソルが右に移動します。

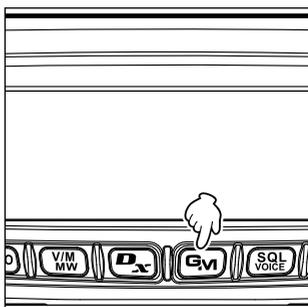
参考 入力した文字を消去する場合、**[VIM MW]** を押します(上に**CLR**が表示されています)。



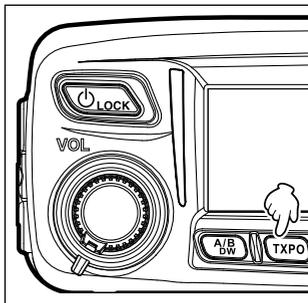
- 6 DIAL をまわして**[M]**を選び、**[GM]** を押す(上に**→**が表示されています)
「M」が入力され、カーソルが右に移動します。

参考 ・カーソルを左に移動する場合、**[Dx]** を押します(上に**←**が表示されています)。

・入力した文字を削除してカーソルを左に移動する場合、**[SQL VOICE]** を押します(上に**X**が表示されています)。



- 7 **[TXPO]** を押す(上に**TX/E**が表示されています)
カタカナが入力できる状態になります。
- 8 DIAL をまわして**[グ]**を選び、**[GM]** を押す(上に**→**が表示されています)
「グ」が入力され、カーソルが右に移動します。
- 9 DIAL をまわして**[ル]**を選び、**[GM]** を押す(上に**→**が表示されています)
「ル」が入力され、カーソルが右に移動します。



- 10 DIAL をまわして【-】を選び、**(GM)** を押す(上に**→**が表示されています)
「-」が入力され、カーソルが右に移動します。
- 11 DIAL をまわして【ブ】を選び、**(GM)** を押す(上に**→**が表示されています)
「ブ」が入力され、カーソルが右に移動します。
- 12 **(TXPO)** を 3 回押す(上に**MEM**が表示されています)
数字が入力できる状態になります。
- 13 DIAL をまわして【0】を選び、**(GM)** を押す(上に**→**が表示されています)
「0」が入力され、カーソルが右に移動します。
- 14 DIAL をまわして【1】を選ぶ
「1」が入力されます。
- 15 **(DISP SETUP)** を押す
入力した名前が周波数の右側に表示されます。



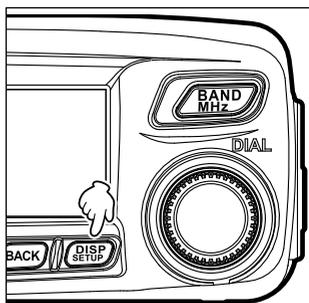
- 16 **(DISP SETUP)** を押す
入力した名前がメモリーされ、もとの画面に戻ります。入力したメモリータグが表示されます。



メモリータグの表示方法を変える

メモリーにつけた名前と周波数の表示方法を、チャンネルごとに選べます。

- 1 **(DISP SETUP)** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして【3 MEMORY】を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして【1 ALPHA TAG SIZE】を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
設定項目が表示されます。
- 4 DIAL をまわして表示方法を選択する
「1 LARGE」:メモリータグを大きく、周波数を小さくします。
「2 SMALL」:メモリータグを小さく、周波数を大きく表示します。



参考 工場出荷時: 2 SMALL

メモリーを使う

- 5 (DISP) を 1 秒以上押す

表示の大きさが設定され、もとの画面に戻ります。

参考 上記手順以外にも、(BAND) を 1 秒以上押すたびに表示が切り替わります。

LARGE



SMALL



スプリットメモリー

受信周波数を登録済みのメモリーチャンネルに、別の周波数を送信周波数として登録できます。

- 1 VFO モードで登録する送信周波数を選択する

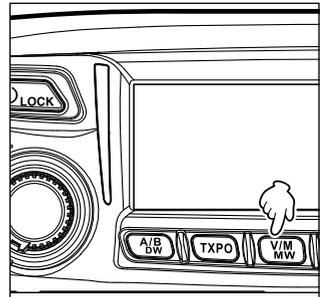
- 2 (VM) を 1 秒以上押す

MEMORY WRITE 画面が表示されます。

空いているメモリーチャンネルに、周波数が自動的に表示されます。

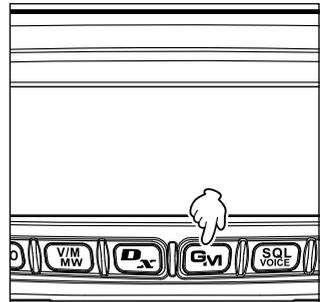
- 3 DIAL をまわして送信周波数を登録するメモリーチャンネルを選ぶ

参考 (TXPO) を押すと、100 チャンネルずつ先に進みます。



- 4 (Gv) を押す(上に TXin が表示されています)

確認の画面が表示されます。



- 5 DIAL をまわして [OK?] を選択し、(DISP) を押す

送信周波数が登録され、メモリーモード画面が表示されます。



参考 別の周波数を送信周波数として登録したメモリーチャンネルは、左側に [Tx] が表示されます。また、別の周波数を送信周波数として登録したメモリーチャンネルを選択しているとき、ディスプレイには [Tx] が表示されます。

信号を探す

本機は、信号がある周波数やメモリーチャンネルを探すスキャン機能を搭載しています。次の5つの方法でスキャンできます。

- VFO スキャン
VFO モードでスキャンします。
- 全メモリーチャンネルスキャン
メモリーされたすべてのチャンネルをスキャンします。
- 指定メモリーチャンネルスキャン
指定したメモリーチャンネルだけをスキャンします。
- スキップメモリスキャン
指定したメモリーチャンネルをスキャン中にスキップさせます。
- プログラブルメモリスキャン
指定した周波数範囲だけをスキャンします。

VFO スキャン

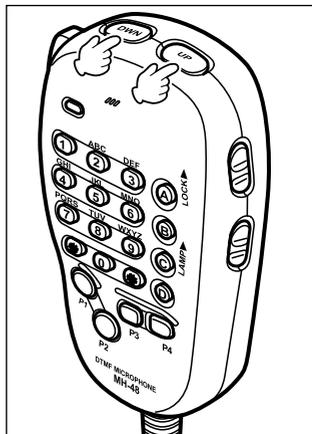
- 1 スキャンするバンドを選択し、VFO モードに切り替える
- 2 マイクロホンの【UP】、または【DWN】を1秒以上押す

【UP】を押したときは、周波数の高い方向に向かってスキャンが開始されます。

【DWN】を押したときは、周波数の低い方向に向かってスキャンが開始されます。

スキャン中は、周波数表示のデシマルポイントが点滅します。

信号を受信すると、3秒間スキャンが停止し、その後スキャンが再開されます。



スキャンする

- 参考** ・ セットアップメニューの【5 SCAN】→【2 SCAN DIRECTION】でスキャン開始時の方向(UP/DOWN)が設定できます。これは、セットアップメニューの【8 CONFIG】→【10 MIC PROGRAM KEY】で、マイクの【P1】～【P4】のいずれかに【SCAN】を割り当てた場合に、【SCAN】を押してスキャンを開始したときの、スキャン開始方向の設定です。
- ・ スキャン中も、マイクロホンの【UP】または【DWN】を1秒以上押すか、または DIAL をまわすと、スキャンの方向を変えることができます。
 - ・ セットアップメニューの【5 SCAN】→【3 SCAN RESUME】でスキャンが停止したときの動作が設定できます(次ページ参照)。
 - ・ スキャン中も次の手順でスケルチレベルを調節できます。

SQL VOICE を押す→ DIAL をまわす

● スキャンを中止するには

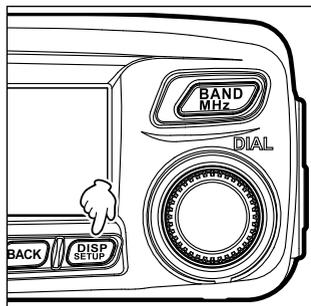
スキャンを中止するときは、マイクロホンの [PTT] を押します (送信状態にはなりません)。

■ スキャンストップ時の受信方法を設定する

スキャンが停止したときの受信方法は、次の 3 種類から選択できます。

- (1) 設定した時間で受信したあと、スキャンを再開します。1 秒、3 秒、5 秒の中から選択できます。
- (2) 信号が消えるまで受信し、信号が消えてから 2 秒後にスキャンを再開します (BUSY)。
- (3) スキャンを中止し、その周波数を受信します (HOLD)。

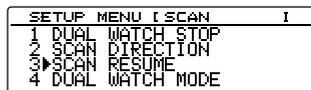
- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セッアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして **[5 SCAN]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[3 SCAN RESUME]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
受信方法の選択項目が表示されます。



- 4 DIAL をまわして受信方法を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
「BUSY」→「HOLD」→「1sec」→「3sec」→「5sec」

参考 工場出荷値：3sec



- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
スキャンストップ時の受信方法が設定され、もとの画面に戻ります。

参考

ここで設定した内容は、「VFO スキャン」「メモリスキャン」「プログラマブルメモリスキャン」に適用されます。

メモリスキャン

メモリーに登録された周波数を、メモリーチャンネル番号順にスキャンします。

- 1 メモリーモードに切り替える
- 2 マイクロホンの【UP】、または【DWN】を1秒以上押す

【UP】を押したときは、メモリーチャンネル番号の大きい方向に向かってスキャンが開始されます。

【DWN】を押したときは、メモリーチャンネル番号の小さい方向に向かってスキャンが開始されます。

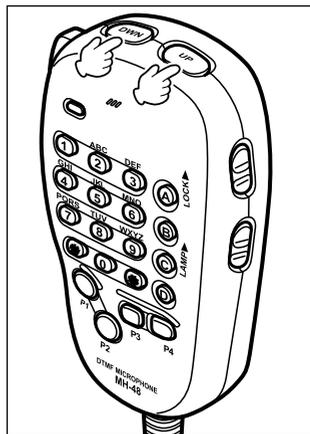
スキャン中は、周波数表示のデシマルポイントが点滅します。

信号を受信すると、3秒間スキャンが停止し、その後スキャンが再開されます。

参考・セットアップメニューの【5 SCAN】→【2 SCAN DIRECTION】でスキャン開始時の方向(UP/DOWN)が設定できます。これは、セットアップメニューの【8 CONFIG】→【10 MIC PROGRAM KEY】で、マイクの【P1】～【P4】のいずれかに【SCAN】を割り当てた場合に、【SCAN】を押してスキャンを開始したときの、スキャン開始方向の設定です。

- ・スキャン中も、マイクロホンの【UP】または【DWN】を1秒以上押すか、またはDIALをまわすと、スキャンの方向を変えることができます。
- ・セットアップメニューの【5 SCAN】→【3 SCAN RESUME】でスキャンが停止したときの動作が設定できます(前ページ参照)。
- ・スキャン中も次の手順でスケルチレベルを調節できます。

SQL VOICE を押す→DIALをまわす



●スキャンを中止するには

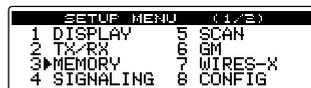
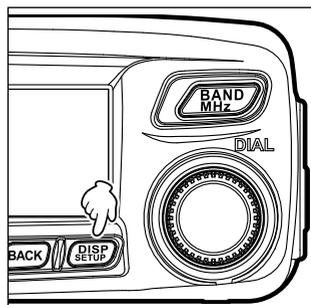
スキャンを中止するときは、マイクロホンの【PTT】を押します(送信状態にはなりません)。

スキャン方法を選ぶ

すべてのメモリーをスキャンするか、指定したメモリーだけをスキャンするか設定できます。

- 1 **[DISP/SETUP]** を 1 秒以上押す
 セットアップメニューが表示されます。

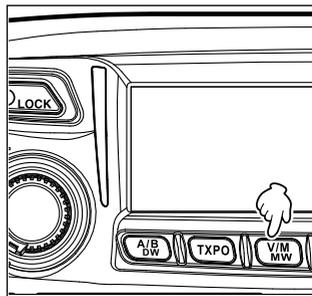
 - 2 DIAL をまわして **[3 MEMORY]** を選択し、**[DISP/SETUP]** を押す
 メニューリストが表示されます。
 - 3 DIAL をまわして **[2 MEMORY SCAN TYPE]** を選択し、**[DISP/SETUP]** を押す
 設定項目が表示されます。
 - 4 DIAL をまわして設定を選択する
 - 1 ALL MEMORY :
 すべてのメモリーをスキャンします。
 - 2 SELECT MEMORY
 指定したメモリーだけをスキャンします。
- 参考** ・工場出荷時：1 ALL MEMORY
- 5 **[DISP/SETUP]** を 1 秒以上押す
 スキャン方法が設定され、もとの画面に戻ります。



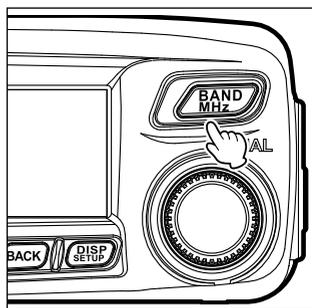
指定メモリーを設定する

セットアップメニューで[2 MEMORY SCAN TYPE]を[2 SELECT MEMORY]に設定した場合にスキャンされるメモリーを指定します。

- 1  を1秒以上押す
MEMORY WRITE 画面が表示されます。



- 2  を押す(左側に**LIST**が表示されています)



- 3 DIAL をまわして指定するメモリーを選ぶ



- 4  を2回押す(上に**SKP**が表示されています)
メモリーチャンネル番号表示の右側に「▶」が点灯します。この状態が「SELECT」です。指定メモリーチャンネルだけをスキャンするときのスキャン対象です。



参考 ・ 選択を解除する場合は、もう一度を押します。「▶」が消灯します。
・ 続けて他のメモリーを指定する場合は、手順3～4を繰り返します。

- 5  を押す
もとの画面に戻り、メモリーチャンネル番号の左側に「▶」が表示されます。

参考 上記手順1.～5.以外にも、指定したいメモリーを呼び出しているときに  を2回押すと、指定メモリーを設定することができます。

指定メモリーチャンネルだけをスキャンする

- 1 スキャンするバンドを選択してからメモリーモードに切り替える
- 2  を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。

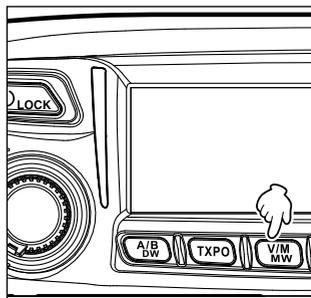
- 3 DIAL をまわして [3 MEMORY] を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 4 DIAL をまわして [2 MEMORY SCAN TYPE] を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
設定項目が表示されます。
- 5 DIAL をまわして [2 SELECT MEMORY] を選択する
- 6 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。
- 7 マイクロホンの **[UP]**、または **[DWN]** を 1 秒以上押す
指定メモリーに設定されたメモリーチャンネルだけをスキャンします。

参考 ・ **[UP]** を押したときは、メモリーチャンネル番号の大きい方向に向かってスキャンされます。**[DWN]** を押したときは、メモリーチャンネル番号の小さい方向に向かってスキャンされます。
 ・ 信号を受信すると、3 秒間スキャンが停止し、その後スキャンが再開されます。
 ・ スキャンを中止する場合は、マイクロホンの **[PTT]** を押します (送信状態にはなりません)。

スキップメモリーを設定する

受信したくないメモリーチャンネルをスキャン中にスキップさせることができます。

- 1 **[VM MW]** を 1 秒以上押す
MEMORY WRITE 画面が表示されます。



- 2 **[BAND]** を押す (左側に **[LIST]** が表示されています)
- 3 DIAL をまわして指定するメモリーを選ぶ



- 4 **[OK]** を押す (上に **[SKP]** が表示されています)
メモリーチャンネル番号表示の右側に「▶」が点滅します。この状態が「SKIP」です。メモリースキャン時にスキップされます。



参考 ・ 選択を解除する場合は、**[OK]** を 2 回を押します。「▶」が消灯します。
 ・ 続けて他のメモリーを指定する場合は、手順 3～4 を繰り返します。

- 5 **[DISP SETUP]** を押す
もとの画面に戻り、メモリーチャンネル番号の左側に「▶」が点滅表示されます。

参考 上記手順 1. ～ 5. 以外にも、スキップしたいメモリーを呼び出しているときに **[BAND]** を押すと、スキップメモリーを設定することができます。

プログラマブルメモリスキャン(PMS)

専用のメモリーチャンネルを使って、同じ周波数帯内の指定した周波数範囲内だけをスキャンできます。

周波数範囲は、あらかじめ PMS 用のメモリーチャンネルに登録しておきます。

プログラマブルメモリーに書き込む

PMS メモリーチャンネルには、9 組(LP1/UP1 ~ LP9/UP9)の周波数範囲を設定できます。

スキャンしたい周波数範囲の下限周波数をメモリーチャンネルの「LP*」に、上限周波数を「UP*」に登録します。

同じチャンネル番号[*](1 ~ 9 の数字)のメモリーを 1 組の PMS チャンネル「P*」として扱います。

例：下限周波数 433.200MHz、上限周波数 433.700MHz を P1 チャンネルにメモリーする場合

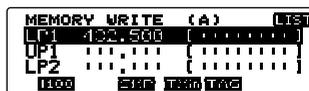
- 1 VFO モードに切り替える
- 2 DIAL をまわして周波数を選択する
下限に設定する周波数(433.200MHz)にあわせませす。

注意 下限(LP1)に設定する周波数は、上限(UP1)より低い周波数を設定してください。

- 3 $\left(\frac{V}{MW}\right)$ を 1 秒以上押す
MEMORY WRITE 画面が表示されます。

- 4 DIAL をまわして **[LP1]** を選択する

参考 メモリーに名前をつけることもできます(☞ P.59)。



- 5 $\left(\frac{DISP}{SETUP}\right)$ を押す
もとの画面に戻り、メモリーした周波数とメモリーチャンネル番号が表示されます。

- 6 $\left(\frac{V}{MW}\right)$ を押して VFO モードに切り替える
- 7 DIAL をまわして周波数を選択する
上限に設定する周波数(433.700MHz)にあわせませす。

- 8 $\left(\frac{V}{MW}\right)$ を 1 秒以上押す
MEMORY WRITE 画面が表示されます。

- 9 DIAL をまわして **[UP1]** を選択する

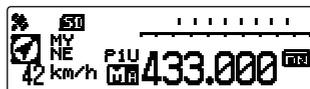
参考 メモリーに名前をつけることもできます(☞ P.59)。

- 10 $\left(\frac{DISP}{SETUP}\right)$ を押す
もとの画面に戻り、メモリーした周波数とメモリーチャンネル番号が表示されます。

下限周波数 LP1



上限周波数 UP1



プログラマブルメモリスキャンをする

- 1 を押してメモリーモードに切り換える
- 2 下限周波数または上限周波数の PMS メモリーを呼び出す
- 3 マイクロホンの **[UP]** または **[DOWN]** を 1 秒以上押す
プログラマブルメモリスキャンが開始されます。

- 参考** ・信号を受信すると、3 秒間スキャンが停止し、その後スキャンが再開されます。
 ・プログラマブルメモリスキャンを停止する場合は、マイクロホンの **[PTT]** を押します (PMS モードは解除されません)。
 ・PMS モードを解除するには、プログラマブルメモリスキャン停止中に を押します。
 ・スキャン中も次の手順でスケルチレベルを調節できます。

を押す → DIAL をまわす

注意

下限周波数 / 上限周波数が正しく設定されていない場合は、プログラマブルメモリスキャンは動作しません。

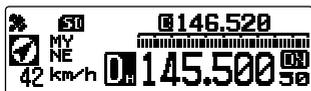
- 参考** セットアップメニューの **[8 CONFIG]** → **[10 MIC PROGRAM KEY]** で、マイクの **[P1]** ~ **[P4]** のいずれかに **[SCAN]** を割り当てられます。 **[P1]** ~ **[P4]** に機能を割り当てる方法については、「マイクロホンのプログラムキーを設定する (10 MIC PROGRAM KEY)」(P.137) を参照してください。 **[P1]** ~ **[P4]** を使用した操作方法は、以下のとおりです。

- 1 を押してメモリーモードに切り替える
- 2 下限周波数または上限周波数の PMS メモリーを呼び出す
- 3 **[SCAN]** を割り当てたマイクロホンの **[P1]** ~ **[P4]** のいずれかのキーを押す

ホームチャンネルを監視する

本機には、設定した時間ごとにホームチャンネルの信号を確認し、信号がある場合はその信号を受信する、デュアルレシーブ機能(デュアルウォッチ(DW)ともいいます)を搭載しています。

例：[145.500MHz]を受信しながら5秒ごとにホームチャンネルを確認する場合



受信中の周波数

約5秒間隔でホームチャンネルを監視します。



ホームチャンネルで信号を受信するとその信号がなくなるまで受信を続け、信号がなくなった後、約3秒後にデュアルレシーブを再開します。

注意

工場出荷時、144MHz帯のホームチャンネルには145.000MHz、430MHz帯のホームチャンネルには433.000MHzが登録されています。必要に応じて変更してください(※P.57)。

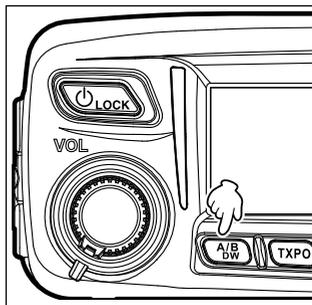
デュアルレシーブを使う

- 1 DIAL をまわし、受信する周波数またはメモリーチャンネルにあわせる
- 2 $\left(\frac{A/B}{DW}\right)$ を1秒以上押す

デュアルレシーブが開始され、約5秒ごとにホームチャンネルの周波数を受信します。

セットアップメニューの[5 SCAN] → [4 DUAL WATCH MODE]で、ホームチャンネルを確認する間隔(時間)を変更できます(P.72)。

ホームチャンネルに信号がある場合は、その信号がなくなるまで受信しつづけます。



スキキャンする

- デュアルレシーブを解除するにはもう一度 $\left(\frac{A/B}{DW}\right)$ を1秒以上押します。

デュアルレシーブの再開設定をする

ホームチャンネルの信号がなくなったときのデュアルレシーブの再開条件を、次の2通りから選択できます。

- (1) 3秒経過したあと、デュアルレシーブを再開します(AUTO)。
- (2) デュアルレシーブを中止し、ホームチャンネルを受信しつづけます(HOLD)。

- 1 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして**[5 SCAN]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す
メニューリストが表示されます。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

- 3 DIAL をまわして**[1 DUAL WATCH STOP]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す
設定項目が表示されます。

SETUP MENU [SCAN] 1	
1 DUAL WATCH STOP	
2 SCAN DIRECTION	
3 SCAN RESUME	
4 DUAL WATCH MODE	

- 4 DIAL をまわして再開条件を選択する
「1 AUTO」、または「2 HOLD」を選択します

参考 工場出荷値：1 AUTO

DUAL WATCH STOP	
1 AUTO	
2 HOLD	

- 5 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
デュアルレシーブの再開条件が設定され、もとの画面に戻ります。

デュアルレシーブ機能のチャンネル受信時間を設定する

デュアルレシーブ機能実行中のHOMEチャンネルを確認する間隔を設定します。

- 1 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして**[5 SCAN]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

- 3 DIAL をまわして**[4 DUAL WATCH MODE]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す

SETUP MENU [SCAN] 1	
1 DUAL WATCH STOP	
2 SCAN DIRECTION	
3 SCAN RESUME	
4 DUAL WATCH MODE	

- 4 DIAL をまわし、HOMEチャンネルを確認する間隔を選択する。

[0.3sec]～[10sec]のいずれかを選択します。

参考 工場出荷時：5.0 sec

補足 HOMEチャンネルの受信時間は0.3sec固定です。

DUAL WATCH MODE	
[5.0 sec]	

- 5 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
HOMEチャンネルを確認する間隔が設定され、もとの画面に戻ります。

GPS 機能を使う

本機は GPS 受信ユニットを内蔵しており、常に位置情報を受信し表示することができます。位置情報は、たとえば次のようなときに利用できます。

よく交信する他局をメモリーして交信圏内にいるかを確認する

▶▶▶ 別冊『GM 編 取扱説明書』を参照

他局とデータ通信で位置情報やメッセージをやりとりする

▶▶▶ 別冊『APRS 編 取扱説明書』を参照

GPS とは？

GPS(Global Positioning System)は、全地球測位システムともいわれ、地球上の現在位置を調べるための人工衛星による測位システムです。アメリカ国防省が開発した軍事用のシステムで、高度約 20000km にある約 30 個の GPS 衛星のうち、上空の 3 個以上の衛星から信号を受け取り、数mの誤差で現在の位置情報(緯度・経度・高度など)が取得できます。また、GPS 衛星に搭載された原子時計から正確な時刻が受信できます。本機は、準天頂衛星みちびき(QZSS)に対応した、高感度 66ch GPS アンテナを標準装備しています。測位時間を短縮し、位置情報の精度も向上しています。

GPS で測位する

1  を 1 秒以上押して電源を入れる

衛星のサーチが開始されます。サーチ中は画面左上に  アイコンが点滅表示されます。衛星を捕捉すると  アイコンが点灯します。

参考 衛星を捕捉するのに数分かかる場合があります。

・衛星を 3 個以上捕捉できない場合、 アイコンは点滅を続けます。このときは測位できないため、位置情報を利用できません。



GPS 測位について

測位とは、衛星の軌道情報と電波の伝播時間のデータから自分の位置を計算することをいいます。測位するには衛星が 3 個以上捕捉されている必要があります。測位がうまくできない場合は、なるべく建物から離れ障害物の少ない天空の開けた場所へ移動してください。

●誤差について

測位する周辺の環境により数百 m の誤差が生じることがあります。測位する条件によっては 3 個の衛星でも測位できますが、下記の条件で精度が悪くなったり測位できなくなったりすることがあります。

- ・高層ビルの間
- ・建物の間の狭い道路
- ・室内やビルの陰
- ・高圧線の下や高架の下
- ・森や林など樹木の間
- ・トンネルの中や地下
- ・熱線反射ガラス越しでの使用
- ・強い磁気を発生する場所

●長期間使用していなかった場合

本機をお買い上げ後初めて GPS 機能を使用する場合や、長期間使用していなかった場合は、衛星をサーチするため測位時間が数分かかります。また、一度電源を切り数時間後に再び使用する場合も、衛星をサーチするため測位時間が数分かかります。

衛星の捕捉状況を確認する

現在地で捕捉されている衛星とその信号の強さを、レーダー状の画面で見ることが出来ます。

1 (DISP) を短く 2 回押す

レーダー状の GPS 画面が表示され、捕捉した GPS 衛星の番号と信号強度がグラフで表示されます。

□は、捕捉していない衛星を示します。■は、捕捉している衛星を示します。また、信号強度グラフの上には自局位置(緯度と経度)が表示されます。



参考 ・もう一度(DISP)を押すと、元の画面に戻ります。

・セットアップメニューの[1 DISPLAY]→[4 GPS INFORMATION]で、信号強度グラフの上の表示を周波数表示に変更できます。

位置情報を表示する

自局の現在の位置情報を表示する

通常画面の周波数表示の左側に、自局の現在の位置情報が表示されます。自局の進行方向を示すコンパス、および自局移動速度が表示されます。



デジタルモードで相手局の位置情報を表示する

C4FM デジタルの V/D モードでは、GPS から得た位置情報を音声信号と同時に通信していますので、交信をおこなっている間でも、リアルタイムで相手局の位置と距離を表示することができます。

1 (DISP) を短く 1 回押す

周波数表示の左側に、相手局の現在の位置情報が表示されます。相手の方位を示すコンパス、および相手局までの距離が表示されます。



参考

セットアップメニューの[10 APRS]→[11 APRS UNITS]で、各種データの表示単位が変更できます。

位置情報を記録する(GPS ログ機能)

自局の位置情報を、定期的に microSD カードに記録(保存)することができます。

- 1 (DISP/SETUP) を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして [8 CONFIG] を選択し、(DISP/SETUP) を押す
メニューリストが表示されます。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

- 3 DIAL をまわして [17 GPS LOG] を選択し、(DISP/SETUP) を押す
GPS ログ機能の OFF と記録する間隔を選ぶ画面が表示されます。

SETUP MENU (CONFIG) 117	
14 TOT	
15 Bluetooth PAIRING	
16 GPS DATUM	
17 GPS LOG	

参考 「OFF」を選択すると記録されません。

- 4 DIAL をまわして [1 ON[xx sec]] を選択し、(DISP/SETUP) を押す

GPS LOG	
1 ON [10 sec]	
2 OFF	

参考 工場出荷時：2 OFF

- 5 DIAL をまわし、位置情報を記録する間隔を選択する
[1 sec][2 sec][5 sec][10 sec][30 sec][60 sec]

参考 工場出荷時：10 sec

- 6 (DISP/SETUP) を 1 秒以上押す
位置情報を記録する間隔が設定され、もとの画面に戻ります。画面に [17] が点灯します。

また、設定した間隔での位置情報の記録が開始されます。

参考

- 位置情報は、手順 4 で「OFF」を選択するか、本機の電源を OFF にするまで続けて記録されます。
- もう一度手順 5 で記録する間隔を選択するか、本機の電源をいったん OFF にしてから ON にすると、同一日付内であれば同じファイルに続けて位置情報が記録されます。
- データは「GPSymmdd.log」の名称で保存されています。
「ymmdd」部分は、記録開始時の年(yy)、月(mm)、日(dd)を表しています。

パソコンで軌跡を確認する

保存した位置情報のログデータを使用して、市販の地図ソフト上に軌跡を表示させることができます。

- 1 本機の電源をオフにする
- 2 microSD カードを抜く
参考 「microSD カードを取り外す」(P.32)を参照してください。
- 3 市販のメモリカードリーダーなどを使用して、microSD カードをパソコンに接続する
- 4 microSD カード内の「FTM100D」フォルダを開く
- 5 「GPSLOG」フォルダを開く
 データは「GPSyymmdd.log」の名称で保存されています。
 「yymmdd」部分は、記録開始時の年(yy)、月(mm)、日(dd)を表しています。
- 6 市販の地図ソフトにデータをインポートする
 地図上に軌跡が表示されます。

参考

- ・インポートや表示などの方法は、お使いになる地図ソフトの取扱説明書をご覧ください。
- ・本機とパソコンを直接接続して、位置情報を利用することもできます。「外部機器と接続して使う」(P.108)を参照してください。

その他の設定

●測地系を変える

セットアップメニューの[8 CONFIG]→[16 GPS DATUM]で設定します。
 測位の基準である測地系を選ぶことができます。

- 「1 WGS-84」: 世界測地系を使って測位します。全世界で標準的に使われています。
- 「2 TOKYO MEAN」: 日本測地系を使って測位します。日本(東京)で測位するときに、誤差を小さくできます。

参考

- ・測地系を変えると、位置情報が400m程度ずれます。
- ・通常は「WGS-84」のままで使用してください。

●タイムゾーンを変える

セットアップメニューの[8 CONFIG]→[3 TIME ZONE]で設定します。
 UTC(Coordinated Universal Time)に対する時差を、30分単位で変えられます。

APRS 機能とは？

アマチュア無線で GPS の位置情報を表示する機能にはいろいろな種類がありますが、APRS (Automatic Packet Reporting System) は WB4APR Bob Bruninga 氏が提唱するフォーマットを使用して、自局位置やメッセージ等のデータ通信を行うシステムです。

相手局から APRS 信号を受信すると、本機のディスプレイに自局から見た相手局の方向、距離、速度等が表示されます。



APRS 機能を使用する際は、自局のコールサインやシンボルなどの設定 (初期設定) が必要です。

詳細は、別途用意している APRS 編の取扱説明書を参照してください (当社ウェブサイトからダウンロードしてください)。

GM 機能とは？

GM(グループモニター)機能は、同じ周波数で GM 機能を動作させている局や DN モードで運用している局が通信範囲内にいるかどうかを自動的に確認して、コールサインごとに距離と方位などの情報を画面に表示させます。

仲間の誰が通信圏内にあるかわかるだけでなく、仲間との位置関係が瞬時に確認できる便利な機能です。

さらにこの機能を使って、仲間との間で、メッセージや画像などのデータを送ることもできます。



参考

- GM 機能は、アナログモードでは動作しません。GM 機能を動作させると、自動的に操作バンドは DN モードに切り替わります。
- GM 機能が動作中に画像データを送信するときは、自動的に FR モード(高速データ通信モード)に切り替わります。データの送信が終了すると、自動的にもとの V/D モード(音声 / データ同時通信モード)に戻ります。

基本的な使いかた

GM 機能は、GM 機能を動作させているすべての局を表示(最大 24 局)させることができます。

詳細は、別途用意している GM 編の取扱説明書を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードしてください)。

●GM 機能を動作させているすべての局を表示させる

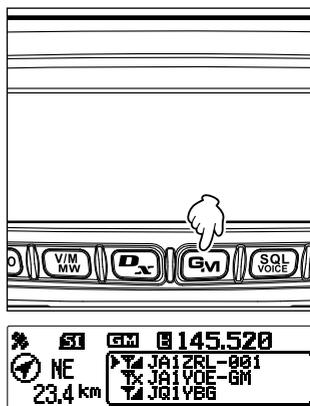
1 操作バンドで周波数をあわせる

2 **GM** を押す

GM 機能が動作し、同じ周波数で GM 機能を動作させている局または、DN モードで運用している交信圏内局を 24 局まで表示します。

参考 ・ 交信圏内の局は **T** が表示されます。

・ 交信圏外の局は **Tx** が表示されます。



WIRES-X 機能を使う

WIRES-X 機能とは？

WIRES-X とは、インターネットを経由して相手と接続するシステムです。これにより、相手が遠距離であっても、交信が可能になります。

WIRES-X に接続すると、本機のディスプレイに WIRES-X のルームや相手のコールサインが表示されます。

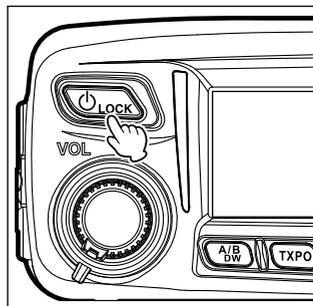


WIRES-X のノード局を開設するには、別売りの WIRES-X 接続用キット“HRI-200”が必要です。詳細は、別途用意している WIRES-X 編の取扱説明書を参照してください（当社ウェブサイトからダウンロードしてください）。

FTM-100D/H をノード局用の無線機として使用する

FTM-100D/FTM-100DH をノード局用の無線機として使用することができます。

- 1 を 1 秒以上押し、電源を OFF にする

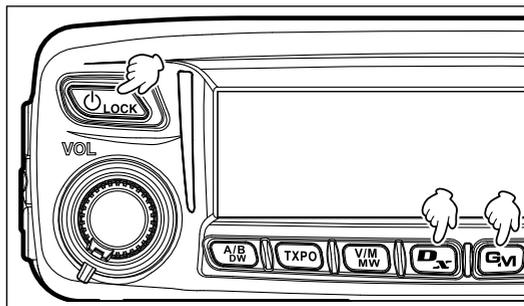


- 2 と を同時に押しながら、 を 1 秒以上押し、電源を ON にする

FTM-100D/FTM-100DH がノード局モードになります。再度、手順 1～2 を実行すると、ノード局モードが解除されます。

参考 ・ を 1 秒以上押しすと、ディスプレイの表示を全消去できます（モードやステータスインジケータも消灯します）。もう一度 を押しすと、ディスプレイが表示されます。

- ・ を押すたびに、サブバンドの表示が時計→電源電圧→周波数に切り替わります。
- ・ DIAL をまわすと、コントラストを調節できます。



特定の相手局と交信する

トーンスケルチを使う

本機は CTCSS (Continuous Tone-coded Squelch System) を搭載しており、設定したトーン周波数と同じ周波数を含んだ信号を受信したときにだけ音を聞くことができます。あらかじめ相手局とトーン周波数をあわせておくことにより、静かな待ち受けができます。

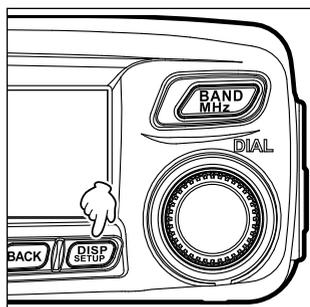
注意

CTCSS は、デジタルモードでは動作しません。はじめに **[P]** キーを使って通信モードを AMS (オートモードセレクト機能) またはアナログモード (FM) に切り替えてください。

トーン周波数を設定する

トーン周波数は 67.0Hz ~ 254.1Hz の 50 種類から選べます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[1 TONE SQL FREQ]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 DIAL をまわして周波数を選ぶ
参考 工場出荷時：88.5Hz
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
トーン周波数が設定され、もとの画面に戻ります。
参考 **[BACK]** を 3 回押しでも戻ります。



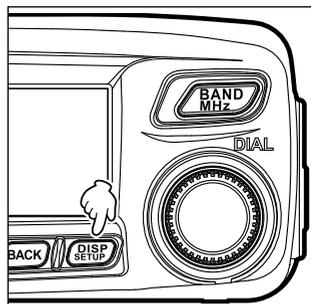
SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [SIGNALING 1]	
1 TONE SQL FREQ	
2 DCS CODE	
3 AUTO DIALER	
4 SQL TYPE	

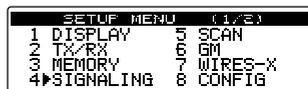
TONE SQL FREQ	
88.5	Hz
[88.5]	[Hz]
88.5	Hz
88.5	Hz

トーンスケルチを使う

- 1 **DISP SETUP** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



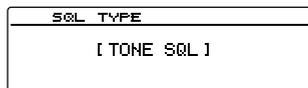
- 2 DIAL をまわして**[4 SIGNALING]**を選択し、**DISP SETUP** を押す
メニューリストが表示されます。



- 3 DIAL をまわして**[4 SQL TYPE]**を選択し、**DISP SETUP** を押す



- 4 DIAL をまわして**[TONE SQL]**を選択し、**DISP SETUP** を1秒以上押す



参考 ・DIAL を回すと、スケルチタイプが次の順で切り替わります。

[OFF] [TONE ENC] [TONE SQL] [REV TONE]
[DCS] [PR FREQ] [PAGER] [DCS ENC] * [TONE DCS] * [DCS TSQL] * [JR FREQ]

※これらのスケルチタイプは、セットアップメニューの**[4 SIGNALING]** → **[9 SQL EXPANSION]** を「1 ON」にすると表示されるようになります。

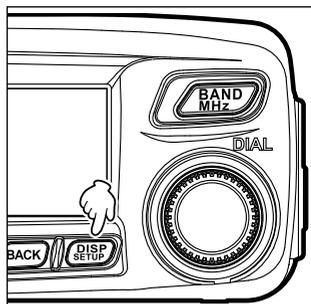
・上記手順1～4以外にも、**TXPD** を1秒以上押すたびにスケルチタイプが切り替わります。

ディスプレイに**TSQ**が表示されます。設定した周波数のトーン信号を受信したときにだけスケルチが開きます。

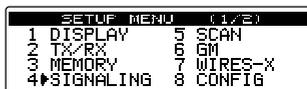
参考 同じトーン信号を含んだ電波を受信したときにベル音(ビーブ音)を鳴らすことができます。「相手からの呼び出しをベルで知らせる」(P.89)を参照してください。

トーン信号を送出する

- 1 **DISP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



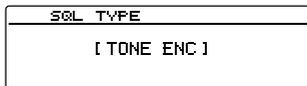
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
メニューリストが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[4 SQL TYPE]** を選択し、**DISP SETUP** を押す



- 4 DIAL をまわして **[TONE ENC]** を選択し、**DISP SETUP** を 1 秒以上押す



参考 ・DIAL を回すと、スケルチタイプが次の順で切り替わります。

[OFF]「TONE ENC」「TONE SQL」「REV TONE」
「DCS」「PR FREQ」「PAGER」「DCS ENC」*「TONE DCS」*「DCS TSQL」*「JR FREQ」

※これらのスケルチタイプは、セットアップメニューの**[4 SIGNALING]** → **[9 SQL EXPANSION]** を「1 ON」にすると表示されるようになります。

・上記手順 1～4 以外にも、**TXPD** を 1 秒以上押すたびにスケルチタイプが切り替わります。

ディスプレイに**ENC**が表示されます。

- 5 マイクロホンの**[PTT]**を押す
[PTT]を押している間、トーン信号を含んだ電波を送信します。

デジタルコードスケルチを使う

本機は DCS (Digital Coded Squelch) 機能を搭載しており、設定した DCS コードと同じコードを含んだ信号を受信したときにだけ音を聞くことができます。あらかじめ相手局と DCS コードをあわせておくことにより、静かな待ち受けができます。

注意

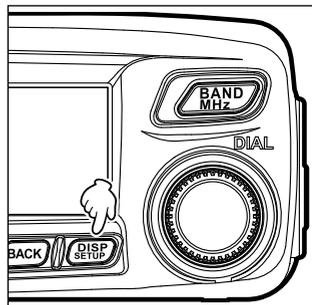
DCS は、デジタルモードでは動作しません。はじめに **[Dx]** キーを使って通信モードを AMS (オートモードセレクト機能) またはアナログモード (FM) に切り替えてください。

DCS コードを設定する

DCS コードは 023 ~ 754 の 104 種類から選べます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す

セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

メニューリストが表示されます。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

- 3 DIAL をまわして **[2 DCS CODE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

SETUP MENU [SIGNALING] 3	
1 TONE SQL FREQ	
2 DCS CODE	
3 AUTO DIALER	
4 SQL TYPE	

- 4 DIAL をまわして DCS コードを選

参考 工場出荷時：023

DCS CODE	
▶ 023	
025	
026	
031	

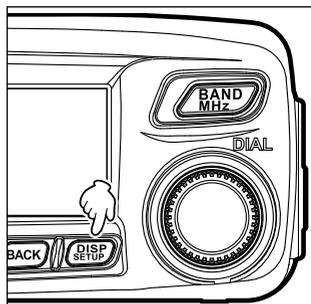
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す

トーン周波数が設定され、もとの画面に戻ります。

参考 **[BACK]** を 3 回押ししても戻ります。

DCS を使う

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



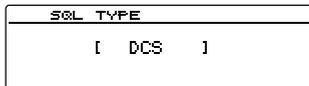
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[4 SQL TYPE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 4 DIAL をまわして **[DCS]** を選択し、**[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す



参考 ・ DIAL を回すと、スケルチタイプが次の順で切り替わります。

[OFF] [TONE ENC] [TONE SQL] [REV TONE]
[DCS] [PR FREQ] [PAGER] [DCS ENC] * [TONE DCS] * [DCS TSQL] * [JR FREQ]

※これらのスケルチタイプは、セットアップメニューの **[4 SIGNALING] → [9 SQL EXPANSION]** を「1 ON」にすると表示されるようになります。

・ 上記手順 1～4 以外にも、**[TXPD]** を 1 秒以上押すたびにスケルチタイプが切り替わります。

ディスプレイに **[DCS]** が表示されます。

設定した DCS コードを受信したときにだけスケルチが開きます。

参考 同じ DCS コードを含んだ信号を受信したときにベル音(ビーブ音)を鳴らすことができます。「相手からの呼び出しをベルで知らせる」(P.89)を参照してください。

新ページャー機能を使う

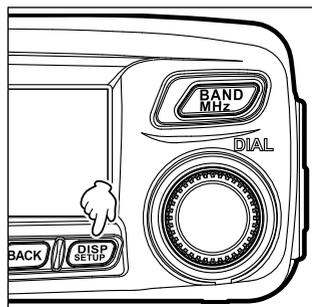
2つの CTCSS トーンを組み合わせたページャーコードを使って、特定の局だけを呼び出す機能です。

注意

新ページャー機能は、デジタルモードでは動作しません。はじめに **[Dx]** キーを使って通信モードを AMS(オートモードセレクト機能)またはアナログモード(FM)に切り替えてください。

自局のコードを設定する

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[6 PAGER CODE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コードを設定する画面が表示されます。
- 4 DIAL をまわして **[RX CODE 1]** 選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コードが点滅します。
- 5 DIAL をまわしてコードを選び、**[DISP SETUP]** を押す
1つ目のコードを 01 ~ 50 のなかから選びます。
参考 工場出荷時：05
- 6 DIAL をまわして **[RX CODE 2]** 選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コードが点滅します。
- 7 DIAL をまわしてコードを選び、**[DISP SETUP]** を押す
2つ目のコードを 01 ~ 50 のなかから選びます。
参考 工場出荷時：47



SETUP MENU [1] 1/21	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [SIGNALING] 1/3	
6 PAGER CODE	
7 PRG REV TONE	
8 BELL RINGER	
9 SQL EXPANSION	

PAGER CODE	
▶ RX CODE1 [05]	
RX CODE2 [47]	
TX CODE1 [05]	
TX CODE2 [47]	

PAGER CODE	
RX CODE1 [05]	
▶ RX CODE2 [47]	
TX CODE1 [05]	
TX CODE2 [47]	

- 8 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
 自局のコードが設定され、もとの画面に戻ります。

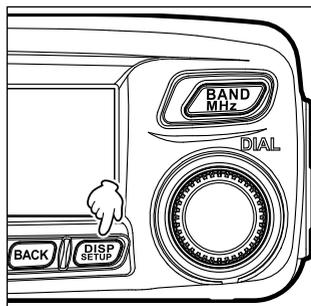
参考 **[BACK]** を 3 回押しても戻ります。

参考

- ・ 2 つのコードは、「05 47」と「47 05」のように、違う順番でも同じコードとして認識します。
- ・ 3 局以上で同じコードに設定すると、グループ全員を一斉に呼び出せます。

新ページャー機能を動作させる

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
 セットアップメニューが表示されます。



- 2 **DIAL** をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 メニューリストが表示されます。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GW
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

- 3 **DIAL** をまわして **[4 SQL TYPE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

SETUP MENU [SIGNALING] 9	
1 TONE SQL FREQ	
2 DCS CODE	
3 AUTO DIALER	
4 SQL TYPE	

- 4 **DIAL** をまわして **[PAGER]** を選択し、**[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す

SQL TYPE
[PAGER]

参考 **DIAL** を回すと、スケルチタイプが次の順で切り替わります。

[OFF] [TONE ENC] [TONE SQL] [REV TONE] [DCS] [PR FREQ] [PAGER] [DCS ENC] * [TONE DCS] * [DCS TSQL] * [JR FREQ]

※これらのスケルチタイプは、セットアップメニューの **[4 SIGNALING]** → **[9 SQL EXPANSION]** を「1 ON」にすると表示されるようになります。

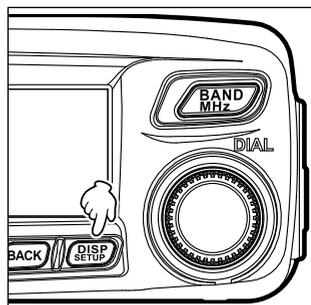
・ 上記手順 1 ~ 4 以外にも、**[TXPO]** を 1 秒以上押すたびにスケルチタイプが切り替わります。

ディスプレイに **PAG** が表示されます。

操作バンドがページャーでの待ち受け状態になります。

特定の局を呼び出す

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 **DIAL** をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

- 3 **DIAL** をまわして **[6 PAGER CODE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コードを設定する画面が表示されます。

SETUP MENU [SIGNALING] 1 3	
6 PAGER CODE	
7 PRG REV TONE	
8 BELL RINGER	
9 SQL EXPANSION	

- 4 **DIAL** をまわして **[TX CODE 1]** 選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コードが点滅します。

PAGER CODE	
RX CODE1 [05]	
RX CODE2 [47]	
▶ TX CODE1 [05]	
TX CODE2 [47]	

- 5 **DIAL** をまわしてコードを選び、**[DISP SETUP]** を押す
1 つ目のコードを 01 ~ 50 のなかから選びます。

参考 工場出荷時：05

- 6 **DIAL** をまわして **[TX CODE 2]** 選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コードが点滅します。

PAGER CODE	
RX CODE1 [05]	
RX CODE2 [47]	
TX CODE1 [05]	
▶ TX CODE2 [47]	

- 7 **DIAL** をまわしてコードを選び、**[DISP SETUP]** を押す
2 つ目のコードを 01 ~ 50 のなかから選びます。

参考 工場出荷時：47

- 8 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
相手のコードが設定され、もとの画面に戻ります。

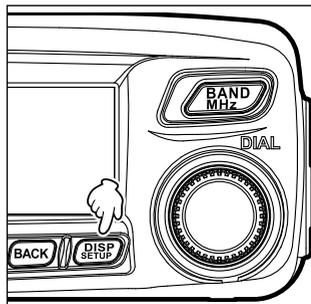
参考 **[BACK]** を 3 回押しても戻ります。

- 9 「新ページャー機能を動作させる」(P.87)を参照し、**PAGER** 機能を動作させる
- 10 マイクロホンの **[PTT]** を押す
相手局を呼び出します。

相手からの呼び出しをベルで知らせる

トーンスケルチ、DCS、新ページャーでの通信のとき、相手局から信号を受信したことを知らせるため、ベル音(ビープ音)を鳴らすことができます。

- 1 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



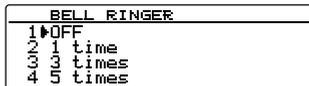
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
メニューリストが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[8 BELL RINGER]** を選択し、**DISP SETUP** を押す



- 4 DIAL をまわしてベルが鳴る回数を選ぶ
「1 OFF」「2 1 time」「3 3 times」「4 5 times」「5 8 times」「6 CONTINUOUS (連続)」



参考 工場出荷時：1 OFF

- 5 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
ベル音が設定され、もとの画面に戻ります。

参考 **BACK** を 3 回押しても戻ります。

その他のスケルチ機能

●リバース トーン

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[4 SQL TYPE]で[REV TONE]を選択します。

音声がないときにトーン信号が送出され、音声が入るとトーン信号が消える通信方式です。

●JR 以外の空線スケルチ

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[4 SQL TYPE]で[PR FREQ]を選択します。

特定の空線信号を受信したときに、空線信号音を消して待ち受けすることができます。空線信号は、セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[7 PRG REV TONE]で、300Hz～3000Hzの間の周波数を100Hz単位で設定できます。

●JR の空線スケルチ

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[4 SQL TYPE]で[JR FREQ]を選択します。

JRの鉄道無線で通話していないときに聞こえる、「ピー」という2280Hzの空線信号音を消して待ち受けすることができます。

●DCS 送信

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[4 SQL TYPE]で[DCS ENC]を選択します。

送信時にDCSコードを送出します。

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[9 SQL EXPANSION]を「1 ON」にしたときにだけ使うことができます。

●トーン送信 /DCS 受信

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[4 SQL TYPE]で[TONE DCS]を選択します。

送信時はトーン信号を送出し、受信時はDCSで待ち受けします。

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[9 SQL EXPANSION]を「1 ON」にしたときにだけ使うことができます。

●DCS 送信 / トーン受信

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[4 SQL TYPE]で[DCS TSQL]を選択します。

送信時はDCSコードを送出し、受信時はトーンスケルチで待ち受けします。

セットアップメニューの[4 SIGNALING]→[9 SQL EXPANSION]を「1 ON」にしたときにだけ使うことができます。

DTMF 機能を使う

DTMF (Dual Tone Multi Frequencies)は、プッシュホン回線の電話をかけたときに受話器から聞こえる「ピポッパッ」音のことです。本機は、マイクロホンのキーを使ったりメモリーを呼び出したりして、DTMF コード送出できます。

メモリーには最大 16 桁の DTMF コードを 9 チャンネルまで登録できます。フォーンパッチから公衆回線に接続するときを使う電話番号などを登録しておく便利です。

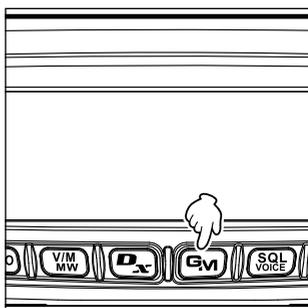
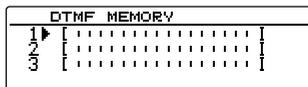
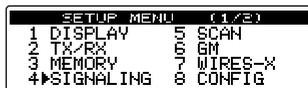
DTMF コードは次のような周波数の組み合わせで発信されます。

参考

	1209Hz	1336Hz	1477Hz	1633Hz
697Hz	1	2	3	A
770Hz	4	5	6	B
852Hz	7	8	9	C
941Hz	*	0	#	D

DTMF コードを登録する

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[5 DTMF MEMORY]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
DTMF メモリー画面が表示されます。
- 4 DIAL をまわして登録するチャンネルを選択し、**[DISP SETUP]** を押す
右側の [| | | | | | | | | | | | |] の左端にカーソルが移動します。
- 5 DIAL をまわして DTMF コードを選択し、**[GM]** を押す(上に **[←]** が表示されています)
参考 DTMF コードは、マイクロホンの文字キーでも入力できます。
- 6 手順 5 を繰り返す
参考 ・カーソルを左に移動する場合、**[Dx]** を押します(上に **[←]** が表示されています)。
・入力した文字を削除してカーソルを左に移動する場合、**[SQL VOICE]** を押します(上に **[X]** が表示されています)。
- 7 **[DISP SETUP]** を押す
DTMF コードが設定されます。
参考 続けてほかのチャンネルを登録するときは、手順 4～6 を繰り返します。



便利な機能

- 8 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
DTMF コードが設定され、もとの画面に戻ります。

参考 **[BACK]** を 3 回押しても戻ります。

登録した DTMF コードを送出する

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[3 AUTO DIALER]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
AUTO DIALER 画面が表示されます。
- 4 DIAL をまわして「1 ON」を選ぶ
DIAL をまわすたびに「1 ON」「2 OFF」が切り替わります。

SETUP MENU (DIALER)			
1	DISPLAY	5	SCAN
2	TX/RX	6	GM
3	MEMORY	7	WIRES-X
4	SIGNALING	8	CONFIG

SETUP MENU [SIGNALING] 1 3			
1	TONE SQL FREQ		
2	DCS CODE		
3	AUTO DIALER		
4	SQL TYPE		

AUTO DIALER	
1	ON
2	OFF

- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。画面の右上に **[DTMF]** が表示されます。
参考 **[BACK]** を 3 回押しても戻ります。
- 6 マイクロホンの **[PTT]** を押したまま、マイクロホンの数字キーで、送出する DTMF コードを登録したチャンネルの番号を押す
自動的に DTMF コードが送出されます。
- 7 マイクロホンの **[PTT]** を放す
DTMF コード送出中は、**[PTT]** を放しても送信状態を保持します。

マニュアルで DTMF コードを送出する

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[4 SIGNALING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[3 AUTO DIALER]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
AUTO DIALER 画面が表示されます。

SETUP MENU (DIALER)			
1	DISPLAY	5	SCAN
2	TX/RX	6	GM
3	MEMORY	7	WIRES-X
4	SIGNALING	8	CONFIG

SETUP MENU [SIGNALING] 1 3			
1	TONE SQL FREQ		
2	DCS CODE		
3	AUTO DIALER		
4	SQL TYPE		

4 DIAL をまわして「2 OFF」を選ぶ

DIAL をまわすたびに「1 ON」「2 OFF」が切り替わります。

5 **DISP** SETUP を 1 秒以上押す

もとの画面に戻ります。画面の右上の  が消灯します。

参考 **BACK** を 3 回押しても戻ります。

6 マイクロホンの **PTT** を押したまま **[0]** ~ **[9]**、**[*]**、**[#]**、**[A]** ~ **[D]** を押す7 マイクロホンの **PTT** を放す

DTMF コード送出中は、**PTT** を放しても送信状態を保持します。

タイマー機能を使う

APO 機能を使う

APO(Automatic Power-off)機能を ON にすると、一定の時間何も操作がなかったときに自動的に本機の電源が切れます。電源が切れる約 1 分前にピープ音で知らせます。車のバッテリーにつないでいるときなど、電源の切り忘れによるバッテリーの消耗を防ぐことができます。

- 1 **[DISP/SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP/SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[13 APO]** を選択し、**[DISP/SETUP]** を押す
操作後電源が切れるまでの時間を選ぶ画面が表示されます。
- 4 DIAL をまわして電源が切れるまでの時間を選ぶ
次の 14 段階から選べます。
「0.5 hour」「1.0 hour」「1.5 hour」「2.0 hour」
「3.0 hour」「4.0 hour」「5.0 hour」「6.0 hour」
「7.0 hour」「8.0 hour」「9.0 hour」「10.0 hour」
「11.0 hour」「12.0 hour」
参考 「OFF」を選択すると、APO 機能は動作しません。
- 5 **[DISP/SETUP]** を 1 秒以上押す
APO 機能が ON になり、もとの画面に戻ります。
参考 **[BACK]** を 3 回押ししても戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [CONFIG] 117	
13 APO	
14 TOT	
15 Bluetooth PAIRING	
16 GPS DATUM	

APO	
[0.5 hour]	

TOT 機能を使う

TOT(Timeout Timer)機能を ON にすると、送信状態が続いたときに、あらかじめ指定した時間が経過すると自動的に受信状態に戻ります。受信状態に戻る約 10 秒前にピープ音で知らせます。* 誤操作による不要電波の送出やバッテリーの消耗を防ぐことができます。

※ピープ音は通信モードが C4FM デジタルモードのときは鳴りません。

- 1 (DISP) を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして [8 CONFIG] を選択し、(DISP) を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして [14 TOT] を選択し、(DISP) を押す
自動的に受信状態に戻るまでの時間を選ぶ画面が表示されます。
- 4 DIAL をまわして受信状態になるまでの時間を選ぶ
次の 8 段階から選べます。
[1 min][2 min][3 min][5 min][10 min]
[15 min][20 min][30 min]
参考 [OFF] を選択すると、TOT 機能は動作しません。
- 5 (DISP) を 1 秒以上押す
TOT 機能が ON になり、もとの画面に戻ります。
参考 (BACK) を 3 回押しても戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GW
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [CONFIG] 1/7	
14 TOT	
15 Bluetooth PAIRING	
16 GPS DATUM	
17 GPS LOG	

TOT
[1 min]

メッセージや画像をやり取りする

デジタルモードで運用中は、メッセージ(テキスト)や画像を受信できます。送受信したメッセージや画像のリストは、共通のリストにメモリーされます。

注意

- メッセージや画像を受信するときは、あらかじめ() を押し、通信モードを AMS (オートモードセレクト機能) またはデジタルモードに切り替えてください。
- メッセージや画像を送信するときは、自動的にデジタルモードに切り替わります。
- 画像を取り込むときは、本機に microSD カードをセットしてください() 。

参考

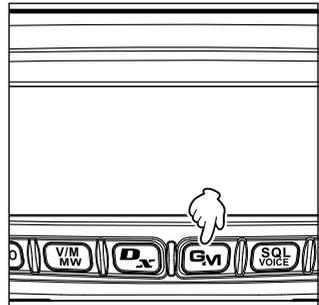
デジタルモードには次の3種類があります。詳しくは「通信モードを切り替える」(P.39)を参照してください。

- ・V/D モード(音声/データ同時通信モード)
- ・Voice FR モード(音声フルレートモード)
- ・Data FR モード(高速データ通信モード)

メッセージや画像のリストを見る

送受信したデータを一覧形式で見ることができます。また、一覧からデータを選んで内容を確認することができます。

- 1  を 1 秒以上押す
「LOG SELECT」画面が表示されます。



- 2 DIAL をまわして  MESSAGE] または  PICT] を選択し、() を押す

 MESSAGE] を選択した場合は、「GM MESSAGE」画面が表示されます。



 PICT] を選択した場合は、「GM PICT」画面が表示され、画像ファイルの一覧とタイムスタンプが表示されます。



() (上に  が表示されています) を押すと、画像サイズ表示に切り替わります。() を押すたびに表示が切り替わります。



参考 アイコンの左に表示されている  は、画像が正常に受信されていることを示します。

参考 LOG リスト左端のアイコンは、次のような内容を表しています。

NEW	新しいメッセージの作成／送信
	受信したメッセージ(未読)
	受信したメッセージ(既読)
	送信したメッセージ
	送信に失敗したメッセージ
	受信した画像(未読)
	受信した画像(既読)
	送信した画像
	送信に失敗した画像

参考 新しく取り込まれたデータほど一覧の上位に表示されます。

- ・ **[V/M MW]** を押す(上に **END** が表示されています)と、一覧の末尾を表示します。
データ件数が多い場合、末尾が表示されるまで時間がかかる場合があります。末尾が表示される前に **[PTT]** を押すと、動作を途中でキャンセルすることができます。
- ・ **[TXPO]** を押す(上に **TOP** が表示されています)と、一覧の先頭を表示します。

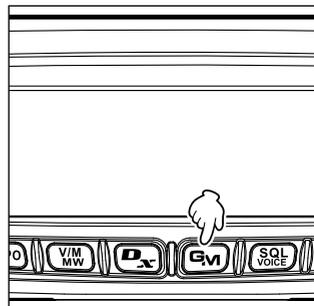
- 3 **DIAL** をまわして確認する情報を選択し、**[DISP]** を押す
選択した情報が表示されます
- 4 **[BACK]** を 2 回押す
もとの画面に戻ります。

メッセージや画像を整理する

いらなくなったデータをメモリーや microSD カードから消去できます。

内容表示画面で消去する

- 1 消去したいデータの内容を表示する
- 2 **[Gv]** を押す(上に **DEL** が表示されています)
確認画面が表示されます。



メッセージや画像をやり取りする

- 3 DIAL をまわして [OK?] を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
消去が始まります。

消去が完了すると、データの一覧に戻ります。

一覧のデータが1つずつ繰り上がります。

参考 消去を中止する場合は、[Cancel] を選択して **[DISP SETUP]** を押します。



一覧から消去する

- 1 データの一覧で、DIAL をまわして消去したいデータを選ぶ
2 **[GM]** を押す(上に**[DEL]**が表示されています)
確認画面が表示されます。

- 3 DIAL をまわして [OK?] を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
消去が始まります。

消去が完了すると、データの一覧に戻ります。

一覧のデータが1つずつ繰り上がります。

参考 消去を中止する場合は、[Cancel] を選択して **[DISP SETUP]** を押します。



メッセージや画像を取り込む

運用中の周波数で、デジタルモードで発信されたメッセージや画像がある場合、メッセージまたは画像の内容が、本機のディスプレイに一定時間表示されます。また、メッセージは本機のメモリーに、画像は本機にセットした microSD カードに取り込まれます。

メッセージ受信時



画像受信時



参考

- 画像データを受信中は、送信者のコールサインと、データの受信が完了するまでの目安を記す ">>>>" が表示されます。
- 対応していない形式などのためにメッセージが取り込まれなかった場合は、「[Not Completed]」と表示されます。
- microSD カードの空き容量が足りないために画像が取り込まれなかった場合は「[Insufficient SD's Memory]」と表示されます。

メッセージや画像を送る

本機からメッセージや画像を発信できます。発信したデータは、同じ周波数でデジタルモードで運用しているすべての局で受信されます。

データを送る方法には、次の3種類があります。

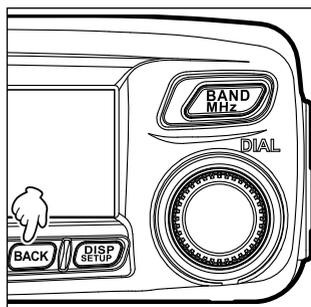
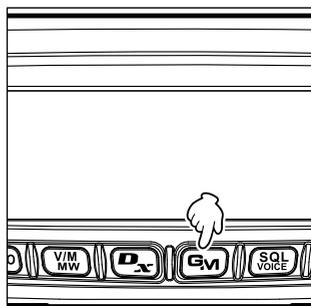
- (1) 新規にメッセージを作成して送る
- (2) 取り込まれたメッセージや画像に返信 (REPLY) する
- (3) 取り込まれたメッセージや画像を転送 (FORWARD) する

メッセージを作成して送る

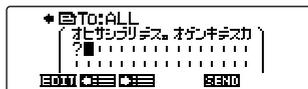
新規に作成した MESSAGE を送信します。

- 1 **[GM]** を 1 秒以上押す
「LOG SELECT」画面が表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[GM MESSAGE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
「GM MESSAGE」画面が表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[NEW]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 **[TXPO]** を押す(上に **[EDIT]** が表示されています)
メッセージ入力画面が表示されます。
- 5 「文字を入力する」(P.20)を参照し、メッセージを入力する
- 6 **[BACK]** を押す
メッセージの全文が表示されます。

- 参考** ・入力したメッセージを保存する場合は **[Dx]** を押します(上に **[+]** が表示されています)。詳細については、「定型文を登録する」(P.101)を参照してください。
- ・入力を続ける場合は **[TXPO]** を押します(上に **[EDIT]** が表示されています)。



- 7 (S/L)を押す(上に**SEND**が表示されています)
メッセージが送信されます。



参考 送信を中止する場合は(BACK)を押します。

メッセージの送信が完了すると「Completed」と表示され、メッセージ一覧画面に戻ります。送信したメッセージのタグが、一覧の先頭に追加されます。

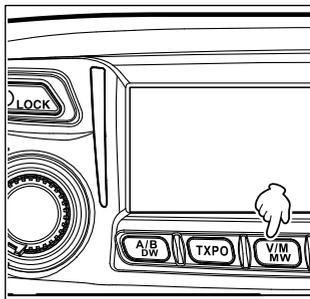
定型文を使う

本機には、次のような 43 のこのメッセージ用定型文があらかじめメモリーされているので、文字入力の手間を省くことができます。

QRM	Merry Christmas!	OK!
QRP	ソラク クラサイ	NG!
QRT	MSG オクッテ	リョウカイ!
QRX	PICT オクッテ	ゴ`メシ!
QRZ	マタ MSG オクルネ	ダ`イ`ョウゴ`!
QSY	マタ PICT オクルネ	モクスコシマッテネ
アリカトウ`サ`イマシタ	オクレマス	イマ QSO デ`キナイ
オハヨク`サ`イマス	ジ`ユクタイ`オクレマス	モクシクアリマセン
オツカシマデ`ス	スク`イキマス	ヨソクオネガ`イマス
オヒサシブ`リデ`ス	マッテマス	ハコウシマス
コンニチハ	ムカエニキテ!	チュウシマス
コンパ`ンハ	カンパ`ッテ!!	インキシマス
オヤミナサイ	Thank you!	シキウ
Happy birthday!	アリカトウ	
A HAPPY NEW YEAR	ゴ`メシナサイ	

- 「メッセージを作成して送る」(P.99)の手順 1 ~ 3 にしたがってメッセージ詳細画面を表示する
- (V/M MW)を押す(上に**+**が表示されています)
ディスプレイ上部に定型文が表示されます。

参考 「01」~「10」には、最大 16 文字のテキストを登録できます。詳細については、「定型文を登録する」(P.101)を参照してください。



- DIAL をまわして使用する定型文を選択し、(DISP)を押す



定型文がメッセージテキストとして表示されます。



- 4  を押す(上に  が表示されています)
ディスプレイ上部の定型文が消えます。



- 5 文字を追加する場合は、「メッセージを作成して送る」(P.99)の手順4～5にしたがって文字を入力する

● 定型文を登録する

最大 80 文字のテキストを、10 個まで定型文として登録できます。

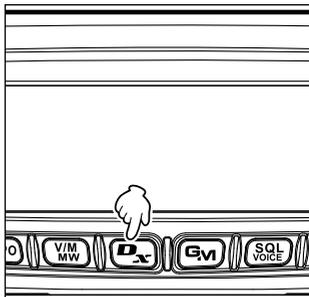
登録したテキストは、あらかじめ用意されている 43 個の定型文と同じように選んで使用できます。

- 1 「メッセージを作成して送る」(P.99)の手順1～5にしたがってテキストを入力する

参考 英数字、記号、カナが使用できます。

- 2  を押す

- 3  を押す(上に  が表示されています)
ディスプレイ上部に定型文欄が表示されます。



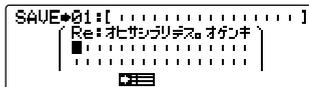
- 4 DIAL をまわして登録する番号を選択し、 を押す

参考 「01」～「10」まで選択できます。

テキストが定型文としてメモリーされ、定型文欄が消えます。

参考 ・すでに定型文が登録されている番号に登録すると、以前の定型文は上書きされます。

- ・登録を中止する場合は、もう一度  を押します(上に  が表示されています)。



メッセージや画像に返信(REPLY)する

確認した MESSAGE や PICT の差し出し局に返信します。

- 1 **[GM]** を 1 秒以上押す
「LOG SELECT」画面が表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[GM  MESSAGE]** または **[GM  PICT]** を選択し、**[SETUP]** を押す
[GM  MESSAGE] を選択した場合は、「GM MESSAGE」画面が表示されます。
[GM  PICT] を選択した場合は、「GM PICT」画面が表示されます。
- 3 DIAL をまわして返信する情報を選択し、**[RESP]** を押す
選択した情報が表示されます。



[MESSAGE の場合]



[PICT] の場合



- 4 **[Dx]** を押す(上に **[RPLY]** が表示されています)
メッセージ入力画面が表示されます。
- 5 返信メッセージを入力する
「メッセージを作成して送る」(P.99)の手順を参照して、返信メッセージを入力します。
参考 ・返信(REPLY)の場合は、自動的に MESSAGE/PICT の差し出し局のコールサインが宛先に指定されます。
・差し出し局のコールサイン(名前)が宛先に指定されても、同じ周波数で GM 運用中の交信圏内にいる局は、メッセージまたは画像を見ることができます。
- 6 **[BACK]** を押す
メッセージの全文が表示されます。
- 7 **[SQL VOICE]** を押す(上に **[SEND]** が表示されています)
メッセージが返信されます。メッセージ、または画像の送信が完了すると「Completed」と表示され、メッセージ一覧画面、または画像一覧画面に戻ります。

メッセージや画像を転送(FORWARD)する

確認した MESSAGE や PICT を転送します。

- 1 **[GM]** を 1 秒以上押す
「LOG SELECT」画面が表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[GM MESSAGE]** または **[GM PICT]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
[GM MESSAGE] を選択した場合は、「GM MESSAGE」画面が表示されます。
[GM PICT] を選択した場合は、「GM PICT」画面が表示されます。
- 3 DIAL をまわして転送する情報を選択し、**[DISP]** を押す
選択した情報が表示されます。



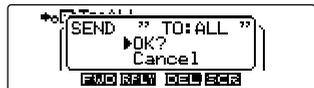
[MESSAGE の場合]



[PICT] の場合



- 4 **[VIM]** を押す (上に **[FWD]** が表示されています)
「SEND "to: ALL"」と表示されます。
- 5 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メッセージまたは画像が送信されます。メッセージ、または画像の送信が完了すると「Completed」と表示され、メッセージ一覧画面、または画像一覧画面に戻ります。



本機データをほかの無線機にコピーする

メモリーチャンネルやセットアップメニューの設定内容などを、別のFTM-100DまたはFTM-100DHにコピーできます。よく交信する仲間同士と設定を合わせるときなどに便利です。

microSD カードを使う

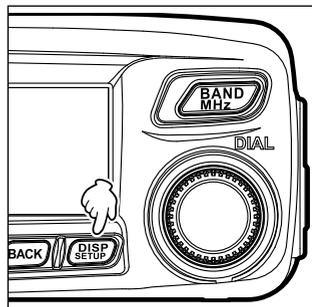
microSD カードを使うと、FTM-100D または FTM-100DH に保存されているデータの種類を選んでコピーできます。

データを microSD カードにコピーする

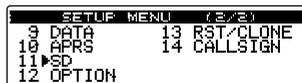
- 1 microSD カードを本体に装着する

参考 「microSD カードを取り付ける」(P.32)を参照してください。

- 2 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



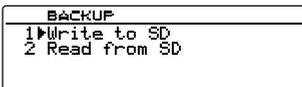
- 3 DIAL をまわして **[11 SD]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。



- 4 DIAL をまわして **[1 BACKUP]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コピー方向を選ぶ画面が表示されます。



- 5 DIAL をまわして **[1 Write to SD]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
コピーするデータの種類の画面が表示されます。

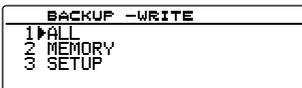


「1 ALL」: すべてのデータをコピーします。

「2 MEMORY」: メモリーチャンネルだけをコピーします。

「3 SETUP」: セットアップメニューの設定内容だけをコピーします。

- 6 DIAL をまわしてコピーするデータを選択し、**[DISP SETUP]** を押す
確認画面が表示されます。



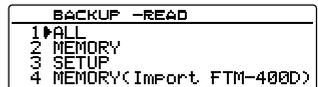
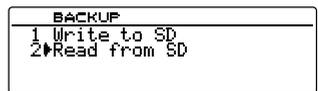
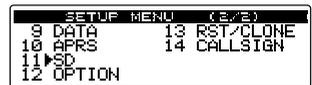
- 7 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
手順 6 で選んだデータが microSD カードにコピーされます。コピー中は、「Writing…」が表示され、コピーが完了すると表示が消えます。
- 8 **(DISP SETUP)** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。



microSD カードからデータをコピーする

- 1 microSD カードをコピー元の FTM-100D または FTM-100DH に装着して、データをコピーする
- 2 microSD カードを取り外し、コピー先の FTM-100D または FTM-100DH に装着する
- 3 **(DISP SETUP)** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 4 DIAL をまわして **[11 SD]** を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
メニューリストが表示されます。
- 5 DIAL をまわして **[1 BACKUP]** を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
コピー方向を選ぶ画面が表示されます。
- 6 DIAL をまわして **[2 Read from SD]** を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
コピーするデータの種類を選ぶ画面が表示されます。
- 7 DIAL をまわしてコピーするデータを選択し、**(DISP SETUP)** を押す
 - 1 ALL : すべてのデータをコピーします。
 - 2 MEMORY : メモリーチャンネルだけをコピーします。
 - 3 SETUP : セットアップメニューの設定内容だけをコピーします。
 - 4 MEMORY (Import FTM-400D) :
FTM-400D の microSD カードにコピーされたメモリーチャンネルをコピーします。

注意 FTM-400D でメモリーチャンネルをコピーした microSD カードを装着してください。
確認画面が表示されます。



- 8 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 手順7で選んだデータが microSD カードからコピーされます。コピー中は、「Reading・・・」が表示され、コピーが完了すると表示が消えます。

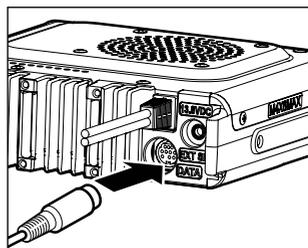


クローン機能を使う

クローン機能を使うと、本機に保存されているデータすべてを別の FTM-100D または FTM-100DH に直接コピーできます。

例：2 台の FTM-100D でクローン機能を使う場合

- 2 台の FTM-100D の電源を切る
- オプションのクローンケーブル [CT-166] を本体後面の [DATA] ジャックにそれぞれ差し込む



- 2 台の FTM-100D の電源を入れる
- [DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
 セットアップメニューが表示されます。
- DIAL をまわして **[13 RST / CLONE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 メニューリストが表示されます。
- DIAL をまわして **[7 CLONE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 コピー方向を選ぶ画面が表示されます。
- コピー元の FTM-100D で、DIAL をまわして **[1 This radio → other]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 確認画面が表示されます。
- コピー先の FTM-100D で、DIAL をまわして **[2 Other → This radio]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 確認画面が表示されます。
- コピー先の FTM-100D で、DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 10 コピー元の FTM-100D で、DIAL をまわして【OK?】を選択し、**(DISP)** を押す
データがコピーされます。



コピーが終わると「Completed」と表示されます。
コピー先の FTM-100D は自動的に再起動し、コピーされたデータに基づいた画面が表示されます。

- 11 コピー元の FTM-100D で、**(DISP)** を 1 秒以上押しもとの画面に戻ります。
- 11 2 台の FTM-100D の電源を切り、クローンケーブルを抜く

注意

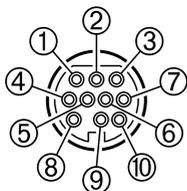
- コピー(クローン)操作中に「ERROR」と表示された場合は、クローンケーブルの接続を確認し、はじめから操作をやり直してください。
- 安全のため、大事なデータは microSD カードにバックアップしておくことをお勧めします。
- コピー(クローン)操作中に電源不良で異常終了した場合は、コピー先の FTM-100D が自動的にオールリセットされます。電源に異常がないか確認して、はじめから操作をやり直してください。

外部機器と接続して使う

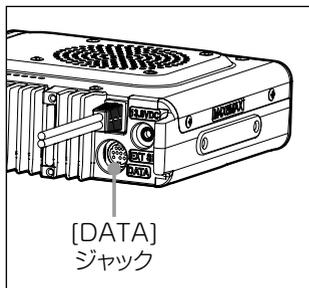
付属の PC コネクションケーブル「SCU-20」などを使うと、COM ポートとして本機をパソコンなどと接続し、次のようなことに利用できます。

- 自局の位置情報をパソコンに転送して地図ソフトに取り込む
- 本機のファームウェアをアップデートする
- パケット通信を運用する

パソコンなどとの接続には、本体後面の[DATA]ジャックを使います。[DATA]ジャックの端子配置は次のようになっています。



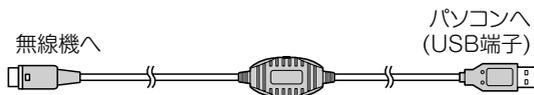
- ① PKD(パケットデータ入力)
- ② GND
- ③ PSK(PTT)
- ④ RX 9600(9600bps パケットデータ出力)
- ⑤ RX 1200(1200bps パケットデータ出力)
- ⑥ PK SQL(スケルチ制御)
- ⑦ TXD(シリアルデータ出力[無線機→PC])
- ⑧ RXD(シリアルデータ入力[無線機←PC])
- ⑨ CTS(データ通信制御)
- ⑩ RTS(データ通信制御)



パソコンと接続して使う

● 準備するもの

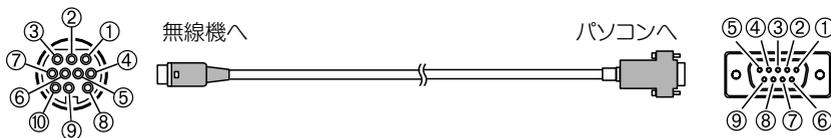
- パソコン
- PC コネクションケーブル「SCU-20」(付属)… パソコンの USB 端子に接続する場合



参考

- 必ず本機の電源を切ってから接続してください。
- PC コネクションケーブル「SCU-20」を使用する場合は、パソコンに専用のドライバーをインストールする必要があります。ドライバーとインストールマニュアルは、当社ウェブサイトからダウンロードしてご利用ください。

- データケーブル「CT-165」(オプション)… パソコンの RS-232C 端子に接続する場合



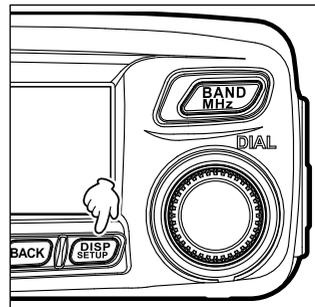
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| ① - | ① - |
| ② GND | ② TXD(シリアルデータアウトプット[無線機→PC]) |
| ③ - | ③ RXD(シリアルデータインプット[無線機←PC]) |
| ④ - | ④ - |
| ⑤ - | ⑤ GND |
| ⑥ - | ⑥ - |
| ⑦ TXD(シリアルデータアウトプット[無線機→PC]) | ⑦ CTS(データ通信制御) |
| ⑧ RXD(シリアルデータインプット[無線機←PC]) | ⑧ RTS(データ通信制御) |
| ⑨ CTS(データ通信制御) | ⑨ - |
| ⑩ RTS(データ通信制御) | |

参考

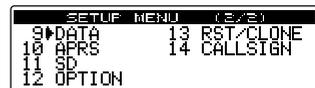
- 必ず本機の電源を切ってから接続してください。
- PC コネクションケーブル「SCU-20」を使用する場合は、パソコンに専用のドライバーをインストールする必要があります。ドライバーとインストールマニュアルは、当社ウェブサイトからダウンロードしてご利用ください。

自局の位置情報を送出する

- 1 本機の電源を入れる
- 2 **[DISP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[9 DATA]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。



- 4 DIAL をまわして **[1 COM PORT SETTING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
詳細な設定のための画面が表示されます。



- 5 DIAL をまわして**[COM OUTPUT]**を選択し、**(DISP SETUP)**を押す

COM PORT SETTING	
COM SPEED	[9600bps]
▶COM OUTPUT	[OFF]
WP FORMAT	[NMEA 9]
WP FILTER	[ALL]

- 6 DIAL をまわして「GPS OUT」を選択し、**(DISP SETUP)**を押す
次のように切り替わります。
[OFF]→[GPS OUT]→[PACKET]→[WAYPOINT]

参考 工場出荷時：OFF

- 7 DIAL をまわして**[COM SPEED]**を選択し、**(DISP SETUP)**を押す

COM PORT SETTING	
▶COM SPEED	[9600bps]
COM OUTPUT	[OFF]
WP FORMAT	[NMEA 9]
WP FILTER	[ALL]

- 8 DIAL をまわして通信速度を選択し、**(DISP SETUP)**を押す
次のように切り替わります。
[4800 bps]→[9600 bps]→[19200 bps]→[38400 bps]→[57600 bps]

参考 工場出荷時：9600 bps

- 9 **(DISP SETUP)**を1秒以上押す
もとの画面に戻ります。
位置情報データの出力が始まり、約1秒間隔で自局の位置情報がパソコンに送出されます。

参考

この位置情報を使うには、NMEA-0183 規格の GGA および RMC センテンスで動作するソフトウェアが必要です。

本機のファームウェアをアップデートする

本機のファームウェアが更新されたときは、パソコンと接続することによりアップデートできます。ファームウェアの更新版とアップデートマニュアルは当社ウェブサイトを提供いたしますので、ダウンロードしてご利用ください。

パケット通信の送受信機として使う

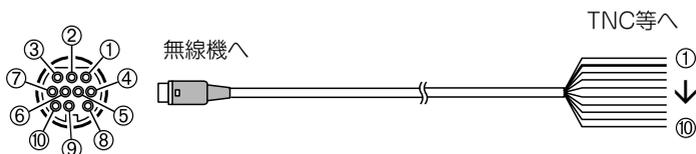
TNC(ターミナルノードコントローラ)に本機を接続すると、本機を介してパケット通信ができます。

● 準備するもの

- TNC
- パソコン
- データケーブル* … 接続する機器にあわせてご用意ください

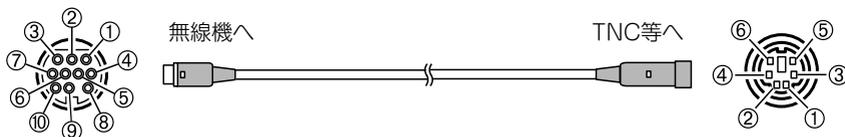
※ 次のようなオプション製品をご提供しております。

- データケーブル「CT-167」(オプション)



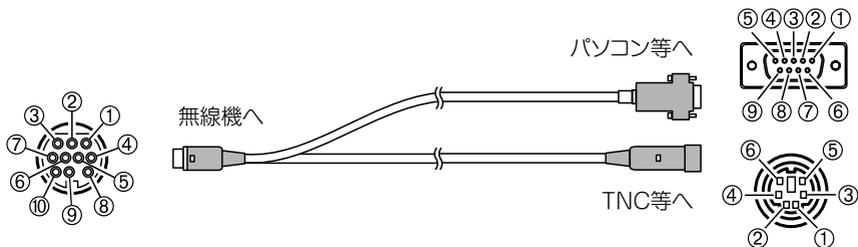
① PKD(パケットデータインプット)	① 茶	PKD(パケットデータインプット)
② GND	② 黒太線	GND
③ PSK(PTT)	③ 赤	PSK(PTT)
④ RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)	④ オレンジ	RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)
⑤ RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)	⑤ 黄	RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)
⑥ PK SQL(スケルチ制御)	⑥ 緑	PK SQL(スケルチ制御)
⑦ TXD(シリアルデータアウトプット [無線機→PC])	⑦ 青	TXD(シリアルデータアウトプット [無線機→PC])
⑧ RXD(シリアルデータインプット [無線機←PC])	⑧ グレー	RXD(シリアルデータインプット [無線機←PC])
⑨ CTS(データ通信制御)	⑨ 白	CTS(データ通信制御)
⑩ RTS(データ通信制御)	⑩ 黒	RTS(データ通信制御)

- データケーブル「CT-164」(オプション)



① PKD(パケットデータインプット)	① PKD(パケットデータインプット)
② GND	② GND
③ PSK(PTT)	③ PSK(PTT)
④ RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)	④ RX 9600(9600bps パケットデータアウトプット)
⑤ RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)	⑤ RX 1200(1200bps パケットデータアウトプット)
⑥ PK SQL(スケルチ制御)	⑥ PK SQL(スケルチ制御)
⑦ -	
⑧ -	
⑨ -	
⑩ -	

• データケーブル「CT-163」(オプション)



- ① PKD (パケットデータインプット)
- ② GND
- ③ PSK (PTT)
- ④ RX 9600 (9600bps パケットデータアウトプット)
- ⑤ RX 1200 (1200bps パケットデータアウトプット)
- ⑥ PK SQL (スケルチ制御)
- ⑦ TXD (シリアルデータアウトプット [無線機 → PC])
- ⑧ RXD (シリアルデータインプット [無線機 ← PC])
- ⑨ CTS (データ通信制御)
- ⑩ RTS (データ通信制御)

Dsub 9 ピン

- ① -
- ② TXD (シリアルデータアウトプット [無線機 → PC])
- ③ RXD (シリアルデータインプット [無線機 ← PC])
- ④ -
- ⑤ GND
- ⑥ -
- ⑦ CTS (データ通信制御)
- ⑧ RTS (データ通信制御)
- ⑨ -

DIN 6 ピン

- ① PKD (パケットデータインプット)
- ② GND
- ③ PSK (PTT)
- ④ RX 9600 (9600bps パケットデータアウトプット)
- ⑤ RX 1200 (1200bps パケットデータアウトプット)
- ⑥ PK SQL (スケルチ制御)

参考

- 必ず本機の電源を切ってから接続してください。
- TNC とパソコンの接続方法については、使用する TNC の取扱説明書などを参照してください。
- パソコンが発生する雑音によって、受信が妨害される場合があります。正常に受信できない場合は、パソコンを本機から離し、フォトカプラーやノイズフィルターを使って接続してください。

● パケット通信の動作を設定する

- 1 本機の電源を入れる
- 2 **[SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 3 **DIAL** をまわして **[9 DATA]** を選択し、**[DISP/SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 4 **DIAL** をまわして **[1 COM PORT SETTING]** を選択し、**[SETUP]** を押す
詳細な設定のための画面が表示されます。



- 5 DIAL をまわして[COM OUTPUT] を選択し、**(DISP SETUP)** を押す

```
COM PORT SETTING
COM SPEED I 9600bps
▶COM OUTPUTI OFF
WP FORMAT I NMEA 9
WP FILTER I ALL
```

- 6 DIAL をまわして「PACKET」を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
「OFF」→「GPS OUT」→「PACKET」→「WAYPOINT」

参考 工場出荷時：OFF

- 7 DIAL をまわして[COM SPEED] を選択し、**(DISP SETUP)** を押す

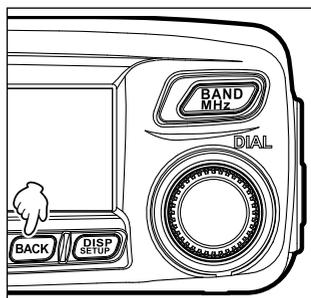
```
COM PORT SETTING
▶COM SPEED I 9600bps
COM OUTPUTI OFF
WP FORMAT I NMEA 9
WP FILTER I ALL
```

- 8 DIAL をまわして通信速度を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
次のように切り替わります。

「4800 bps」→「9600 bps」→「19200 bps」→「38400 bps」→「57600 bps」

参考 工場出荷時：9600 bps

- 9 **(BACK)** を押す



- 10 DIAL をまわして[2 DATA SPEED] を選択し、**(DISP SETUP)** を押す

詳細な設定のための画面が表示されます。

```
SETUP MENU I DATA 1
1 COM PORT SETTING
2▶DATA SPEED
3 DATA SQUELCH
```

- 11 DIAL をまわして[DATA] を選択し、**(DISP SETUP)** を押す

```
DATA SPEED
APRS:I 1200 bps I
▶DATA:I 1200 bps I
```

- 12 DIAL をまわしてパケット通信の速度を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
DIAL を回すたびに「1200 bps」と「9600 bps」が切り替わります。

参考 工場出荷時：1200 bps

- 13 **(BACK)** を押す

- 14 DIAL をまわして[3 DATA SQUELCH] を選択し、**(DISP SETUP)** を押す

詳細な設定のための画面が表示されます。

```
SETUP MENU I DATA 1
1 COM PORT SETTING
2 DATA SPEED
3▶DATA SQUELCH
```

- 15 DIAL をまわしてパケット通信のスケルチ検出方法を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
「1 TX:ON」または「2 TX:OFF」を選択します。

参考 工場出荷時：1 TX:ON

```
DATA SQUELCH
1▶TX:ON
2 TX:OFF
```

- 16 **[DISP]** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。
パケット通信ができる状態になります。
- 17 セットアップメニューでの設定に沿ってバンドと周波数を決める
- 18 VOL をまわす
本機から TNC への出力レベルが設定されます。
- 19 TNC の出力レベルを調節する
本機への入力レベルが設定されます。

注意

大量のデータを転送するときには送信時間が長くなり、本機が発熱します。長時間送信し続けると、過熱防止回路が作動して送信出力が下がります。さらに送信を続けると、過熱による故障を防ぐために、自動的に送信が中止され、受信状態になります。過熱防止回路が作動して受信状態になったときには、電源を切るか、受信状態のまま、温度が下がるまでお待ちください。

参考

オプションの「クーリングファン SMB-201」を使用すると、長時間の連続送信による本機が発熱を、効率的に冷却できます。

接続できるその他の機器

●外部スピーカー

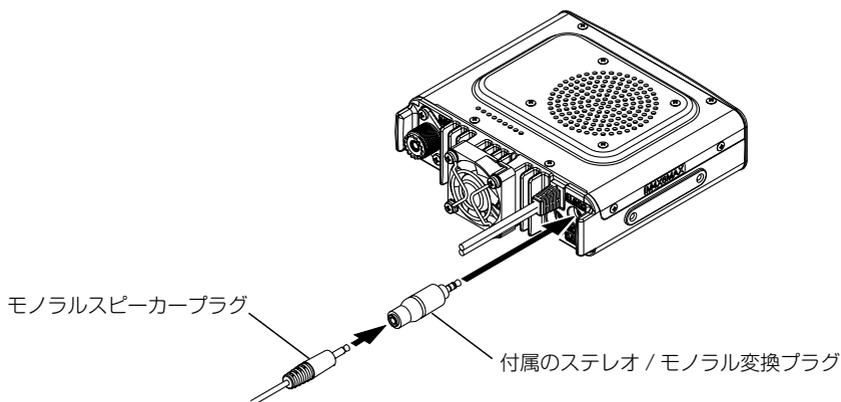
オプションの高出力・高音質防水型外部スピーカー「MLS-200-M10」を接続できます。本体後面の[EXT SP]ジャックに外部スピーカーのプラグを差し込みます。

参考

[EXT SP]ジャックに外部スピーカーを接続すると、内部スピーカーからは音が出なくなります。

注意

本機の背面にある「EXT SP ジャック」に、オプションのMLS-200-M10以外の外部スピーカーを接続する際は、必ずステレオタイプのスピーカーを使用してください(左側(L側)しか音は出ません)。モノラルタイプのスピーカーを接続すると、故障の原因になる場合があります。なお、モノラルタイプのスピーカーを使用する場合は、下図を参考に付属の「ステレオ / モノラル変換プラグ」を使用してください。



使い方にあわせて設定を変える

セットアップメニューを使うと、本機のさまざまな機能を使い方にあわせてカスタマイズできます。表示、送受信、メモリー、機器構成などのメニューに分かれており、それぞれのリストの中から調節したい項目を選択して、使いやすい設定を入力したり選んだりします。

セットアップメニューの基本操作

- 1 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわしてメニュー項目を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして設定したい項目を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 DIAL をまわし、設定値を変える
- 5 **[DISP SETUP]** を1秒以上押すか、**[PTT]**を押します。
変更した設定値が確定し、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/3)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GN
3 MEMORY	7 WIRELESS
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [DISPLAY] 1	
1 SUB DISPLAY SELECT	
2 LCD BRIGHTNESS	
3 LCD CONTRAST	
4 GPS INFORMATION	

SUB DISPLAY SELECT	
1 SUB BAND	
2 TIME	
3 VOLT	

参考 ・ **[Gv]** キーを押しても、設定値を確定させ、もとの画面に戻ることができます。

- ・ 同じメニューのほかの項目を続けて設定するときは、**[BACK]** を押します。設定値を確定させ、メニューリストの画面に戻ります。
- ・ すべての画面で **[BACK]** を押すと、もとの画面に戻ります。

参考

- ・ 一度設定したメニュー項目を再び選択してメニューリストを表示したときは、前回設定した項目がすでに選ばれた状態の画面が表示されます。
- ・ 設定値を選択中、工場出荷時の設定になったとき、ピープ音が鳴ります。

セットアップメニュー一覧

メニュー / 項目		機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
1 DISPLAY			
1	SUB DISPLAY SELECT	サブディスプレイの表示内容の設定	SUB BAND / TIME / VOLT
2	LCD BRIGHTNESS	ディスプレイの明るさの設定	MIN / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / MAX
3	LCD CONTRAST	ディスプレイのコントラストの設定	-3 / -2 / -1 / 0 / +1 / +2 / +3
4	GPS INFORMATION	GPS 情報の切り替え	LOCATION / FREQUENCY
2 TX/RX			
1	ANALOG MODE SELECT	アナログモードの設定	AUTO / MANUAL (FM) / MANUAL (AM)
2	MIC GAIN	マイクロホンの感度設定	MIN / LOW / NORMAL / HIGH / MAX
3	AMS TX MODE	送信モードの設定	AUTO / TX MANUAL / TX FM FIXED / TX DN FIXED / TX VW FIXED
4	DIGITAL POPUP TIME	情報ポップアップ時間の設定	OFF / 2 sec / 4 sec / 6 sec / 8 sec / 10 sec / 20 sec / 30 sec / 60 sec / CONTINUE
5	LOCATION SERVICE	デジタルモードでの自局位置の表示設定	ON / OFF 機能の詳細については、GM 編 取扱説明書をご覧ください。
6	STANDBY BEEP	スタンバイビープの設定	ON / OFF
7	HALF DEVIATION	ハーフデビエーションの設定	ON / OFF
3 MEMORY			
1	ALPHA TAG SIZE	メモリーチャンネルタグの表示サイズ設定	SMALL / LARGE
2	MEMORY SCAN TYPE	メモリースキャン時のスキャン方法設定	ALL MEMORY / SELECT MEMORY
4 SIGNALING			
1	TONE SQL FREQ	トーン周波数の設定	67.0 Hz ~ 254.1 Hz 88.5 Hz
2	DCS CODE	DCS コードの設定	023 ~ 754
3	AUTO DIALER	DTMF コード自動送信の設定	ON / OFF
4	SQL TYPE	スケルチタイプ設定	OFF / TONE ENC / TONE SQL / REV TONE / DCS / PR FREQ / PAGER / DCS ENC * / TONE DCS * / DCS TSQL * / JR FREQ * ※[4 SIGNALING]→[9 SQL EXPANSION]を[ON]に設定したときに表示されます。
5	DTMF MEMORY	DTMF コードの登録	1 ~ 9 通り 各 16 文字
6	PAGER CODE	ページャー個別コードの設定	RX CODE 1 : 01 ~ 50 05 RX CODE 2 : 01 ~ 50 47 TX CODE 1 : 01 ~ 50 05 TX CODE 2 : 01 ~ 50 47
7	PRG REV TONE	空線スケルチの設定	300Hz ~ 3000Hz 1500Hz
8	BELL RINGER	呼び出し音の回数設定	OFF / 1 time / 3 times / 5 times / 8 times / CONTINUOUS

使い方に合わせて設定を変える

セットアップメニュー一覧

メニュー / 項目		機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
9	SQL EXPANSION	送受信で別々のスケル チタイプの設定	ON / OFF
5 SCAN			
1	DUAL WATCH STOP	信号を受信する方法の 設定	AUTO / HOLD
2	SCAN DIRECTION	スキャンスタート時の スキャン方向の設定	UP / DOWN
3	SCAN RESUME	スキャンストップ時の 動作設定	BUSY / HOLD / 1 sec / 3 sec / 5 sec
4	DUAL WATCH MODE	デュアルレシーブ機能 実行中の受信時間の設 定	0.3 sec ~ 10 sec 5.0 sec
6 GM			
1	DP-ID LIST	登録されている DP-ID のリストを表示します	—
2	RANGE RINGER	交信圏内局確認時のベル 音の設定	OFF / ON
3	MESSAGE POPUP	メッセージのポップ アップ表示の設定	OFF / ON
4	RADIO ID CHECK	無線機ごとの固有 ID(5 桁の英数字)を表示	— (編集不可)
※機能の詳細については、GM 編 取扱説明書をご覧ください			
7 WIRES-X			
1	RPT/WIRES FREQ	レピータ / WIRES-X で 運用する周波数の設定 プリセット周波数の登 録	MANUAL / PRESET 144.000 ~ 146.000 145.780 430.000 ~ 440.000
	FREQ		
2	DG-ID	ノード局に接続する DG-ID の設定	01 ~ 99 / AUTO
※機能の詳細については、WIRES-X 編 取扱説明書をご覧ください			
8 CONFIG			
1	DATE & TIME ADJUST	本機に内蔵されている 日付、時刻の設定	月 / 日 / 年 時 : 分
2	TIME FORMAT	時刻の表示形式の設定	24 hour / 12 hour
3	TIME ZONE	タイムゾーンの設定	UTC ± 14h(0.5 h 間隔) UTC +9 : 00
4	AUTO REPEATER SHIFT	オートレピータシフト の設定	OFF / ON
5	REPEATER SHIFT	レピータシフト方向の 設定	SIMPLEX / - REPEATER / + REPEATER
6	REPEATER SHIFT FREQ	レピータシフト幅の設 定	0.000 ~ 99.950MHz
7	FM AM STEP	チャンネルステップの 設定	AUTO / 5.00 KHz / 6.25 KHz / (8.33 KHz) / 10.00 KHz / 12.50 KHz / 15.00 KHz / 20.00 KHz / 25.00 KHz / 50.00 KHz / 100.00 KHz
8	BEEP	ビーブ音の設定	OFF / LOW / HIGH
9	CLOCK TYPE	クロックシフトの設定	A / B

使い方に合わせて設定を変更する

メニュー / 項目		機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
10	MIC PROGRAM KEY	マイクロホンのPボタン設定	OFF / SQL TYPE / SCAN / HOME / DCS CODE / TONE FREQ / RPT SHIFT / REVERSE / TX POWER / SQL OFF / T-CALL / VOICE* / D_X / PR FREQ / S-LIST / MSG / REPLY / M-EDIT ※オプションのFVS-2装着時に表示されず。 P1KEY: SQL OFF P2KEY: HOME P3KEY: D_X P4KEY: TX POWER
11	RX COVERAGE	受信範囲拡張の設定	NORMAL / WIDE
12	UNIT	表示する単位の設定	METRIC / INCH
13	APO	APO 動作時間の設定	OFF / 0.5 hour ~ 12.0 hour (0.5 h間隔)
14	TOT	タイムアウトタイマーの設定	OFF / 1 min / 2 min / 3 min / 5 min / 10 min / 15 min / 20 min / 30 min
15	Bluetooth PAIRING	PIN コード設定とペアリング開始	0000 ~ 9999 6111
16	GPS DATUM	GPS 機能の測位選択	WGS-84 / TOKYO MEAN
17	GPS LOG	GPS の位置情報を記録する間隔の設定	OFF / 1 sec / 2 sec / 5sec / 10 sec / 30 sec / 60 sec
9 DATA			
1	COM PORT SETTING	COM ポートの設定	COM SPEED: 4800bps / 9600bps / 19200bps / 38400bps / 57600bps COM OUTPUT: OFF / GPS OUT / PACKET / WAYPOINT WP FORMAT: NMEA6 / NMEA7 / NMEA8 / NMEA9 WP FILTER: ALL / MOBILE / FREQUENCY / OBJECT/ITEM / DIGIPEATER / VoIP / WEATHER / YAESU / CALL RINGER / RNG RINGER
2	DATA SPEED	APRS/DATA 通信ボーレートの設定	APRS: 1200 bps / 9600 bps DATA: 1200 bps / 9600 bps
3	DATA SQUELCH	スケルチ検出設定	TX: ON / TX: OFF
10 APRS			
1	APRS COMPASS	APRS のコンパス動作設定	NORTH UP / HEADING UP
2	APRS DISTINATION	モデルコードの表示	APY*** (編集不可)
3	APRS FILTER	フィルター機能の設定	Mic-E: ON / OFF POSITION: ON / OFF WEATHER: ON / OFF OBJECT: ON / OFF ITEM: ON / OFF STATUS: ON / OFF OTHER: ON / OFF RANGE LIMIT: OFF / 1 ~ 3000km ALT.NET: ON / OFF

使い方に合わせて設定を変える

メニュー / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
4 APRS MESSAGE TEXT	定型メッセージテキストの入力	1 ~ 8 ch
5 APRS MODEM	APRS 機能の ON/OFF	OFF / ON
6 APRS MUTE	APRS 設定時の AF ミュートの ON/OFF 設定	OFF / ON
7 APRS POP-UP	ポップアップ表示させるビーコンやメッセージの表示時間設定	BEACON : OFF / 3 sec / 5 sec / 10 sec / HOLD MESSAGE : OFF / 3 sec / 5 sec / 10 sec / HOLD MYPACKET : OFF / ON
8 APRS RINGER	ビーコン着信時のベル音設定	TX BEACON : ON / OFF TX MESSAGE : ON / OFF RX BEACON : ON / OFF RX MESSAGE : ON / OFF MY PACKET : ON / OFF CALL RINGER : ON / OFF RANGE RINGER : 1km ~ 100km / OFF MSG VOICE : ON / OFF
9 APRS RINGER (CALL)	CALL RINGER 用コールサインの設定	1 ~ 8 局(それぞれ *****-*)
10 APRS TX DELAY	データ送出ディレイ時間の設定	100 ms / 150 ms / 200 ms / 250 ms / 300 ms / 400 ms / 500 ms / 750 ms / 1000 ms
11 APRS UNITS	APRS 表示の単位設定	POSITION : dd° mm.mm' / dd° mm' ss" DISTANCE : km / mile SPEED : km/h / mph / knot ALTITUDE : m / ft BARO : hPa / mb / mmHg / inHg TEMP : °C / °F RAIN : mm / inch WIND : m/s / mph / knot
12 BEACON INFO SELECT	送信ビーコン情報の設定	AMBIGUITY : OFF / 1 ~ 4 digit SPEED/COURSE : ON / OFF ALTITUDE : ON / OFF
13 BEACON STATUS TEXT	ステータステキストの入力設定	SELECT : TEXT 1 ~ 5 / OFF TX RATE : 1/1 ~ 1/8 / 1/2(FREQ) ~ 1/8(FREQ) TEXT 1 ~ 5 : NONE / FREQUENCY / FREQ & SQL & SHIFT
14 BEACON TX	ビーコンの自動送信 / 手動送信の切り替え	AUTO : OFF / ON / SMART INTERVAL : 30sec ~ 60min 5min PROPORTIONAL : ON / OFF DECAY : ON / OFF LOW SPEED : 1km/h ~ 99km/h 5km/h RATE LIMIT : 5sec ~ 180sec 60sec

メニュー / 項目	機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
15 DIGI PATH SELECT	デジピータールートの設定	OFF / WIDE1-1 / WIDE1-1,WIDE2-1
16 MY CALLSIGN (APRS)	自局のコールサイン設定	*****-**
17 MESSAGE GROUP	受信メッセージのグループフィルター設定	GROUP 1 : ALL***** GROUP 2 : CQ***** GROUP 3 : QST***** GROUP 4 : YAESU**** GROUP 5 : - GROUP 6 : - BULLETIN 1 : BLN?***** BULLETIN 2 : BLN? BULLETIN 3 : BLN?
18 MESSAGE REPLY	受信メッセージの自動応答設定	REPLY : OFF / ON CALLSIGN : *****-** REPLY TEXT : -
19 MY POSITION SET	自局位置の設定	GPS / MANUAL
20 MY POSITION	自局位置のマニュアル設定	LAT:[N °° * * * * (1* * *)] LON:[E °° * * * * (1* * *)]
21 MY SYMBOL	自局シンボルの設定	ICON 1 : [/ >] Car ICON2 : [/ R] REC.Vehicle ICON3 : [/ -] House QTH (VHF) USER : [Y Y] Yaesu Radios
22 POSITION COMMENT	ポジションコメントの設定	Off Duty / En Route / In Service / Returning / Committed / Special / Priority / Custom 0 ~ 6 / Emergency!
23 SmartBeaconing	スマートビーコニングの設定	STATUS : OFF / TYPE1 / TYPE2 / TYPE3 LOW SPEED : 2 ~ 30km/h 5km/h HIGH SPEED : 3 ~ 90km/h 70km/h SLOW RATE : 1 ~ 100min 30min FAST RATE : 10 ~ 180sec 120sec TURN ANGLE : 5 ~ 90° 28° TURN SLOPE : 1 ~ 255 26 TURN TIME : 5 ~ 180sec 30sec
24 SORT FILTER	ソート機能・フィルター機能の設定	SORT : TIME / CALLSIGN / DISTANCE FILTER : ALL / MOBILE / FREQUENCY / OBJECT/ITEM / DIGIPEATER / VoIP / WEATHER / YAESU / OTHER PACKET / CALL RINGER / RANG RINGER / 1200 bps / 9600 bps
25 VOICE ALERT	ボイスアラート機能の設定	V ALERT : NORMAL / TONE SQL / DCS / RX-TSQL / RX-DCS TONE SQL : 67.0Hz ~ 254.1Hz 100.0Hz DCS : 023 ~ 754 023

※機能の詳細については、APRS 編 取扱説明書をご覧ください

使い方に合わせて設定を変える

セットアップメニュー一覧

メニュー / 項目		機能説明	選択できる項目 (太字は工場出荷時の値)
11 SD			
1	BACKUP	本機の情報を microSD カードに読み書きする	Write to SD / Read from SD
2	FORMAT	microSD カードの初期化	—
12 OPTION			
1	Bluetooth	Bluetooth ヘッドセットの設定	AUDIO : AUTO / FIX BATTERY : NORMAL / SAVE PTT MODE : MOMENTARY / TOGGLE VOX : ON / OFF GAIN : HIGH / LOW
2	VOICE MEMORY	ボイスメモリー機能の設定	PLAY/REC : FREE 5min / LAST 30sec ANNOUNCE : AUTO / MANUAL LANGUAGE : JAPANESE / ENGLISH VOLUME : HIGH / MID / LOW RX MUTE : ON / OFF
13 RST/CLONE			
1	FACTORY RESET	すべての設定を工場出荷時の値に戻す	—
2	PRESET	プリセットの登録	—
3	RECALL PRESET	プリセットの呼び出し	—
4	MEMORY CH RESET	登録したメモリーチャンネルの消去	—
5	MEMORY CH SORT	登録したメモリーチャンネルを並べ替える	—
6	APRS RESET	APRS の設定を工場出荷時の値に戻す	—
7	CLONE	保存されているデータすべてをコピーする	This radio → other / other → This radio
8	SOFTWARE VERSION	本機のソフトウェアのバージョンを表示	MAIN CPU Ver: *.* / PANEL CPU Ver: *.* / DSP CPU Ver: *.*
14 CALLSIGN			
1	MY CALLSIGN (DIGITAL)	自局のコールサインを設定	*****

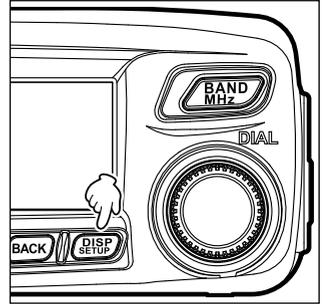
使い方に合わせて設定を変更する

セットアップメニュー：1 DISPLAY メニューの操作

表示される画面の種類を設定する (1 SUB DISPLAY SELECT)

サブディスプレイに表示する内容を設定します。

- 1 (DISP SETUP) を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして [1 DISPLAY] を選択し、(DISP SETUP) を押す



- 3 DIAL をまわして [1 SUB DISPLAY SELECT] を選択し、(DISP SETUP) を押す
サブディスプレイの表示設定画面が表示されます。



- 4 DIAL をまわし、サブディスプレイに表示させる項目を選択する

- 1 SUB BAND：サブバンドが表示されます。
- 2 TIME：時刻が表示されます。
- 3 VDD：電圧が表示されます。

参考 工場出荷時：1 SUB BAND

- 5 (DISP SETUP) を 1 秒以上押す
サブディスプレイに表示される内容が設定され、もとの画面に戻ります。



ディスプレイの明るさを設定する (2 LCD BRIGHTNESS)

ディスプレイの明るさを設定できます。

詳細については「ディスプレイの明るさを調節する」(P.48)を参照してください。

ディスプレイのコントラストを設定する (3 LCD CONTRAST)

ディスプレイのコントラストを設定できます。
詳細については「ディスプレイの明るさを調節する」(P.48)を参照してください。

GPS 情報を切り換える (4 GPS INFORMATION)

GPS INFO 画面に表示する情報を設定します。

- 1 **(DISP SETUP)** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[1 DISPLAY]** を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
- 3 DIAL をまわして **[4 GPS INFORMATION]** を選択し、**(DISP SETUP)** を押す
- 4 DIAL をまわし、表示する GPS 情報を選択する
1 LOCATION：自局位置が表示されます。
2 FREQUENCY：周波数が表示されます。
参考 工場出荷時：1 LOCATION
- 5 **(DISP SETUP)** を 1 秒以上押す
表示内容が設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1▶DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [DISPLAY] I	
1 SUB DISPLAY SELECT	
2 LCD BRIGHTNESS	
3 LCD CONTRAST	
4▶GPS INFORMATION	

GPS INFORMATION	
1▶LOCATION	
2 FREQUENCY	

セットアップメニュー：2 TX/RX メニューの操作

電波型式を設定する (1 ANALOG MODE SELECT)

アナログモードの電波型式を選べます。

詳細については「電波型式を切り替える」(P.40)を参照してください。

マイクロホンの感度を設定する (2 MIC GAIN)

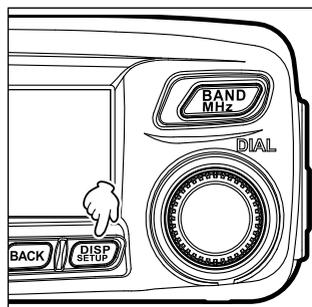
マイクロホンの感度(マイクゲイン)を設定できます。

詳細については「マイクロホンの感度を調節する」(P.42)を参照してください。

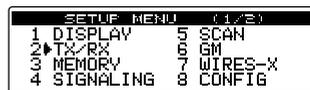
AMS 機能時の送信モードを設定する (3 AMS TX MODE)

AMS 機能時の送信モードを選べます。

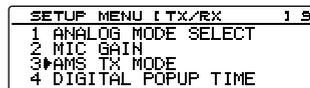
- 1 **DISP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



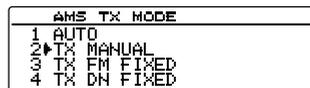
- 2 DIAL をまわして **[2 TX/RX]** を選択し、**DISP** を押す



- 3 DIAL をまわして **[3 AMS TX MODE]** を選択し、**DISP** を押す



- 4 DIAL をまわして送信モードを選択する



1 AUTO :

受信した信号に合わせて、4つの通信モードを自動的に選択します。

2 TX MANUAL :

受信した信号に合わせて、4つの通信モードを自動的に選択します。なお、マイクホンの PTT を短く押すと、デジタルモードとアナログモードを交互に切り替えることができます。

3 TX FM FIXED :

受信した信号に合わせて、4つの通信モードを自動的に選択しますが、送信時は FM モードになります。

4 TX DN FIXED :

受信した信号に合わせて、4つの通信モードを自動的に選択しますが、送信時は DN モードになります。

5 TX VW FIXED :

受信した信号に合わせて、4つの通信モードを自動的に選択しますが、送信時は VW モードになります。

- 参考** ・工場出荷時：2 TX MANUAL
 ・“**■**”が点滅時：2 TX MANUAL
 ・“**○**”が点滅時：3 TX FM FIXED / 4 TX DN FIXED / 5 TX VW FIXED
 ・“**○**”が点灯時：1 AUTO
 ※○○部は受信した信号により表示が異なります。

5 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す

AMS 機能動作時の送信モードが設定され、もとの画面に戻ります。

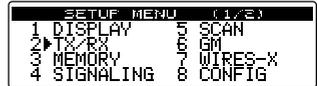
相手局情報をポップアップする時間を設定する (4 DIGITAL POPUP TIME)

相手局のコールサインなどの情報をディスプレイに表示させる時間が設定できます。

1 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す

セットアップメニューが表示されます。

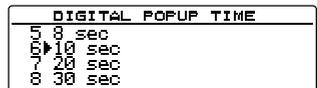
2 DIAL をまわして **[2 TX/RX]** を選択し、**DISP SETUP** を押す



3 DIAL をまわして **[4 DIGITAL POPUP TIME]** を選択し、**DISP SETUP** を押す



4 DIAL をまわしてポップアップする時間を選ぶ
 [1 OFF][2 2 sec][3 4 sec][4 6 sec][5 8 sec]
 [6 10 sec][7 20 sec][8 30 sec][9 60 sec][10 CONTINUE]



- 参考** 工場出荷時：6 10 sec

5 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す

ポップアップする時間が設定され、もとの画面に戻ります。

使い方にあわせて設定を変える

自局位置の表示方法を設定する (5 LOCATION SERVICE)

別途用意している GM 編の取扱説明書を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードしてください)。

相手局の送信終了時にビーブ音を鳴らす (6 STANDBY BEEP)

デジタル通信を行う際、相手の送信終了時に「ピッ」とビーブ音を鳴らして、送信が終わったことを知らせることができます(スタンバイビーブ機能)。

- 1 (DISP) を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして [2 TX/RX] を選択し、(DISP) を押す
- 3 DIAL をまわして [6 STANDBY BEEP] を選択し、(DISP) を押す
- 4 DIAL をまわして ON/OFF を選択する
1 ON：相手の送信終了時にビーブ音が鳴ります。
2 OFF：相手が送信を終了しても、ビーブ音は鳴りません。
参考 工場出荷時：1 ON
- 5 (DISP) を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [TX/RX] 1 9	
4 DIGITAL POPUP TIME	
5 LOCATION SERVICE	
6 STANDBY BEEP	
7 HALF DEVIATION	

STANDBY BEEP	
1 ON	
2 OFF	

ハーフデビエーションを設定する (7 HALF DEVIATION)

変調度を通常の半分に設定できます。

- 1 (DISP) を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして [2 TX/RX] を選択し、(DISP) を押す
- 3 DIAL をまわして [7 HALF DEVIATION] を選択し、(DISP) を押す

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [TX/RX] 1 9	
4 DIGITAL POPUP TIME	
5 LOCATION SERVICE	
6 STANDBY BEEP	
7 HALF DEVIATION	

セットアップメニュー：2 TX/RX メニューの操作

- 4 DIAL をまわして設定を選ぶ
1 ON：変調度が半分になります。
2 OFF：通常の変調度になります。

HALF DEVIATION	
1	ON
2	OFF

参考 工場出荷時：2 OFF

- 5 **(DISP)** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。

セットアップメニュー：3 MEMORY メニューの操作

メモリータグの表示方法を設定する (1 ALPHA TAG SIZE)

メモリーにつけた名前と周波数の表示方法を、チャンネルごとに選べます。
詳細については「メモリータグの表示方法を変える」(P.61)を参照してください。

メモリスキャン方法を設定する (2 MEMORY SCAN TYPE)

すべてのメモリーをスキャンするか、指定されたメモリーだけをスキャンするか設定できます。
詳細については「スキャン方法を選ぶ」(P.66)を参照してください。

セットアップメニュー：4 SIGNALING メニューの操作

トーン周波数を設定する (1 TONE SQL FREQ)

トーン周波数を設定できます。
詳細については「トーン周波数を設定する」(P.81)を参照してください。

DCS コードを設定する (2 DCS CODE)

DCS コードを設定できます。
詳細については「DCS コードを設定する」(P.84)を参照してください。

DTMF コードの送出方法を設定する (3 AUTO DIALER)

登録した DTMF コードの送出方法を設定できます。
詳細については「登録した DTMF コードを送出する」(P.92)を参照してください。

スケルチタイプを設定する (4 SQL TYPE)

スケルチタイプを設定します。
詳細については「特定の相手局と交信する」(P.81)を参照してください。

DTMF コードを登録する (5 DTMF MEMORY)

フォーンパッチから公衆回線に接続するときを使う電話番号などを、最大 16 桁の DTMF コードで登録できます。
詳細については「DTMF コードを登録する」(P.91)を参照してください。

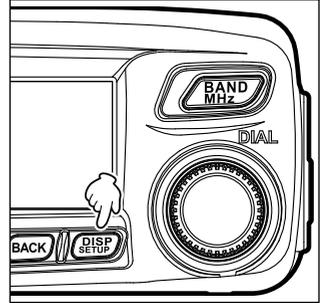
特定の局だけを呼び出す (6 PAGER CODE)

新ページャーコードを使って、特定の局だけを呼び出す機能を設定します。
詳細については「新ページャー機能を使う」(P.86)を参照してください。

JR 以外の空線スケルチを設定する
(7 PRG REV TONE)

300Hz ~ 3000Hz の間の空線スケルチの周波数を 100Hz 単位で設定できます。

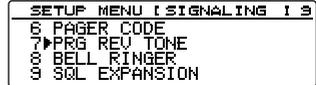
- 1 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして [4 SIGNALING] を選択し、**DISP SETUP** を押す



- 3 DIAL をまわして [7 PRG REV TONE] を選択し、**DISP SETUP** を押す



- 4 DIAL をまわして周波数を選ぶ
参考 工場出荷時：1500Hz



- 5 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
周波数が設定され、もとの画面に戻ります。

相手からの呼び出しをベルで知らせる
(8 BELL RINGER)

相手局からの呼び出しをベル音で知らせます。
詳細については「相手からの呼び出しをベルで知らせる」(P.89)を参照してください。

送受信別々のスケルチタイプを設定する (9 SQL EXPANSION)

送信と受信で別々のスケルチタイプを使用することができます。

- 1 (DISP/SETUP) を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして [4 SIGNALING] を選択し、(DISP/SETUP) を押す
- 3 DIAL をまわして [9 SQL EXPANTION] を選択し、(DISP/SETUP) を押す
- 4 DIAL をまわして設定を選ぶ
1 ON：送受信で別々のスケルチを使用します。詳細は「その他のスケルチ機能」(P.90) を参照してください。
2 OFF：送受信で同じスケルチを使用します。
参考 工場出荷時：2 OFF
- 5 (DISP/SETUP) を 1 秒以上押す
送受信時のスケルチタイプが設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (HOME)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX RX	6 GW
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [SIGNALING 1 9]	
6 PAGER CODE	
7 PRG REV TONE	
8 BELL RINGER	
9 SQL EXPANSION	

SQL EXPANSION	
1 ON	
2 OFF	

セットアップメニュー：5 SCAN メニューの操作

信号を受信する方法を設定する (1 DUAL WATCH STOP)

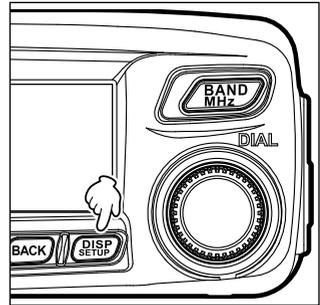
ホームチャンネルに信号が入感したときの受信方法が設定できます。
詳細については「デュアルレシーブの再開設定をする」(P.72)を参照してください。

スキャンする方向を設定する (2 SCAN DIRECTION)

セットアップメニューの[8 CONFIG]→[10 MIC PROGRAM KEY]で、マイクの[P1]～[P4]のいずれかに[SCAN]を割り当て、[SCAN]を割り当てたキーでスキャンを開始したときに、周波数またはメモリーチャンネルの高い方向へスキャンするか、低い方向へスキャンするか設定できます。

[P1]～[P4]に機能を割り当てる方法については、「マイクロホンのプログラムキーを設定する(10 MIC PROGRAM KEY)」(P.137)を参照してください。

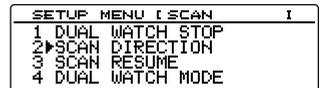
- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして [5 SCAN] を選択し、**[DISP SETUP]** を押す

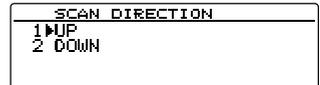


- 3 DIAL をまわして [2 SCAN DIRECTION] を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 4 DIAL をまわして設定を選ぶ

- 1 UP：周波数が高い方向またはメモリーチャンネル番号が大きい方向に向かってスキャンします。
- 2 DOWN：周波数が低い方向またはメモリーチャンネル番号が小さい方向に向かってスキャンします。



参考 工場出荷時：UP

- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
スキャンする方向が設定され、もとの画面に戻ります。

スキャンが停止したときの受信方法を設定する (3 SCAN RESUME)

スキャンが停止したときの受信方法を設定できます。詳細については、「スキャンストップ時の受信方法を設定する」(P.64)を参照してください。

デュアルレシーブ機能のチャンネル受信時間を設定する (4 DUAL WATCH MODE)

デュアルレシーブ機能実行中の HOME チャンネルを確認する時間を設定します。詳細については、「デュアルレシーブ機能のチャンネル受信時間を設定する」(P.72)を参照してください。

セットアップメニュー：6 GM メニューの操作

GM(グループモニター)機能は、同一周波数内にいる仲間が通信範囲内にいるかどうかを自動的に確認するシステムです。

詳細は、別途用意している GM 編の取扱説明書を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードしてください)。

セットアップメニュー：7 WIRES-X メニューの操作

WIRES-X 機能は、アマチュア無線の通信エリアを拡げるための、インターネットを利用した通信システムです。

詳細は、別途用意している WIRES-X 編の取扱説明書を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードしてください)。

セットアップメニュー：8 CONFIG メニューの操作

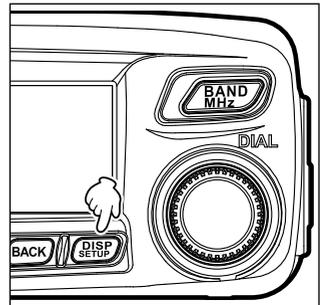
日付と時刻を設定する (1 DATE & TIME ADJUST)

本機に内蔵されている時計の日付と時刻を設定します。
詳細については「日付と時刻をあわせる」(P.46)を参照してください。

時計の表示形式を設定する (2 TIME FORMAT)

本機に内蔵されている時計の表示形式として、24 時間表示または 12 時間表示を選択します。

- 1 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
- 3 DIAL をまわして **[2 TIME FORMAT]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
時刻の表示設定画面が表示されます。
- 4 DIAL をまわして「24 hour」または「12 hour」を選択する
参考 工場出荷時：24 hour
- 5 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
時刻の表示形式が設定され、もとの画面に戻ります。



SETUP MENU (1.2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [CONFIG] 117	
1 DATE & TIME ADJUST	
2 TIME FORMAT	
3 TIME ZONE	
4 AUTO REPEATER SHIFT	

TIME FORMAT
[24 hour]

タイムゾーンを設定する(3 TIME ZONE)

本機に内蔵された時計を、GPS からの時刻データ(協定世界時)の時刻にあわせられます。工場出荷時は日本時間(UTC+9:00)にあわせてあるため、再設定の必要はありません。

タイムゾーンは、0.5 時間単位で± 14 時間まで設定できます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 3 DIAL をまわして **[3 TIME ZONE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 DIAL をまわしてタイムゾーンを選ぶ
0.5 時間刻みで± 14 時間まで設定できます。
参考 工場出荷時：UTC+9:00
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
タイムゾーンが設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [CONFIG 117	
1 DATE & TIME ADJUST	
2 TIME FORMAT	
3 TIME ZONE	
4 AUTO REPEATER SHIFT	

TIME ZONE	
[UTC +9:00]	

オートレピータシフトを設定する(4 AUTO REPEATER SHIFT)

レピータで交信するとき、レピータの周波数にあわせるだけで自動的にレピータを使う状態になるオートレピータシフト機能の ON/OFF が設定できます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 3 DIAL をまわして **[4 AUTO REPEATER SHIFT]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 DIAL をまわして設定を選択する
1 ON：オートレピータシフト機能が動作します。
2 OFF：オートレピータシフト機能は動作しません。
参考 工場出荷時：1 ON
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
オートレピータシフトが設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [CONFIG 117	
1 DATE & TIME ADJUST	
2 TIME FORMAT	
3 TIME ZONE	
4 AUTO REPEATER SHIFT	

AUTO REPEATER SHIFT	
1 ON	
2 OFF	

レピータシフトの方向を設定する (5 REPEATER SHIFT)

レピータ機能のシフト方向が設定できます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
 - 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 - 3 DIAL をまわして **[5 REPEATER SHIFT]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 - 4 DIAL をまわしてシフト方向を選択する
1 SIMPREX：シフトしません。
2 - REPEATER：周波数の低い方向へシフトしません。
3 + REPEATER：周波数の高い方向へシフトしません。
- 参考** 工場出荷時：1 SIMPLEX
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
レピータシフトの方向が設定され、もとの画面に戻ります。

```

SETUP MENU (1/28)
1 DISPLAY          5 SCAN
2 TX/RX           6 GM
3 MEMORY          7 WIRES-X
4 SIGNALING       8 CONFIG
    
```

```

SETUP MENU [CONFIG] 11?
5 REPEATER SHIFT
6 REPEATER SHIFT FREQ
7 FM AM STEP
8 BEEP
    
```

```

REPEATER SHIFT
1 SIMPLEX
2 - REPEATER
3 + REPEATER
    
```

レピータのシフト幅を設定する (6 REPEATER SHIFT FREQ)

レピータ機能のシフト幅が設定できます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
 - 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 - 3 DIAL をまわして **[6 REPEATER SHIFT FREQ]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
 - 4 DIAL をまわしてシフト幅を設定する
0.000MHz ~ 99.950MHz の間で、0.05MHz 間隔で設定できます。
- 参考** 工場出荷時：0.00MHz
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
レピータのシフト幅が設定され、もとの画面に戻ります。

```

SETUP MENU (1/28)
1 DISPLAY          5 SCAN
2 TX/RX           6 GM
3 MEMORY          7 WIRES-X
4 SIGNALING       8 CONFIG
    
```

```

SETUP MENU [CONFIG] 11?
5 REPEATER SHIFT FREQ
6 BEEP
8 CLOCK TYPE
    
```

```

REPEATER SHIFT FREQ MHz
[ 0.000MHz ]
    
```

周波数ステップを設定する(7 FM AM STEP)

ツマミやキーの操作で1回に変わる周波数値を変えることができます。
詳細については「周波数ステップを変える」(P.37)を参照してください。

ビープ音の音量を設定する(8 BEEP)

キー操作するときには鳴る操作確認音(ビープ音)を変更できます。
詳細については「ビープ音の音量を変更する」(P.45)を参照してください。

マイコンのクロックシフトを設定する (9 CLOCK TYPE)

マイコンのクロック信号を高周波による内部スプリアスとして受信しないように設定できます。通常使用時は**[1 A]**を選択してください。

- 1 **[DISP]** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして**[8 CONFIG]**を選択し、**[DISP]**を押す
- 3 DIAL をまわして**[9 CLOCK TYPE]**を選択し、**[DISP]**を押す
- 4 DIAL をまわして**[1 A]**または**[2 B]**を選択する
1 A: クロックシフト動作が自動的にON/OFFします。
2 B: 常にクロックシフト動作を動作させます。
参考 工場出荷時: 1 A
- 5 **[DISP]** を1秒以上押す
クロックシフトタイプが設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GW
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU (CONFIG) 117	
9 CLOCK TYPE	
10 MIC PROGRAM KEY	
11 RX COVERAGE	
12 UNIT	

CLOCK TYPE	
1 A	
2 B	

マイクロホンのプログラムキーを設定する (10 MIC PROGRAM KEY)

付属品のマイクロホン(MH-48)のプログラムキー(P1 ~ P4)に機能を割り当てます。

- 1 **[DISP]** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして**[8 CONFIG]**を選択し、**[DISP]**を押す

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GW
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

- 3 DIAL をまわして**[10 MIC PROGRAM KEY]**を選択し、**[DISP]**を押す

```

SETUP MENU [ CONFIG      117
10 MIC PROGRAM KEY
11 RX COVERAGE
12 UNIT
13 APO
    
```

マイクプログラムキーの設定画面が表示されます。

- 4 DIAL をまわして機能を割り当てるプログラムキー(P1 ~ P4)を選択し、**[DISP]**を押す

```

MIC PROGRAM KEY
P1KEY [ SQL OFF ]
P2KEY [ HOME ]
P3KEY [ D_X ]
P4KEY [ TX POWER ]
    
```

- 5 DIAL をまわして割り当てたい機能を選択し、**[DISP]**を押す

- 6 他のプログラムキーを設定する

手順4 ~ 5を繰り返して、他のプログラムキーに割り当てる機能を設定します。設定できる機能は、以下のとおりです。

機能	説明
OFF	プログラムキーの動作をオフにする
SQL TYPE	スケルチタイプの変更
SCAN	スキャン開始/停止(PMS時に有効)
HOME	ホームチャンネルの呼び出し
DCS CODE	DCSコード選択
STONE FREQ	トーン周波数選択
RPT SHIFT	レピーターシフト選択
REVERSE	リバース機能
TX POWER	送信出力設定
SQL OFF	スケルチオフ
T-CALL	T-CALL 機能
VOICE	現在の周波数を音声で読み上げ(オプションのFVS-2装着時に有効)
D_X	フロントパネルの [D_X] キーの動作
PR FREQ	空線スケルチの周波数設定
S-LIST	ステーションリスト呼出
MSG	メッセージリスト呼出
REPLY	APRS 返信メッセージの書き込みモード呼出
M-EDIT	APRS メッセージの書き込みモード呼出

- 7 **[DISP]**を1秒以上押す

プログラムキーに機能が割り当てられ、もとの画面に戻ります。

参考 工場出荷時：P1：SQL OFF
 P2：HOME
 P3：D_X
 P4：TX POWER

使い方に合わせて設定を変える

受信範囲を拡張する(11 RX COVERAGE)

航空無線帯(108～137MHz)や、情報無線帯(174～400MHz、480～999.99MHz)の周波数も受信できるようにできます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 3 DIAL をまわして **[11 RX COVERAGE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 DIAL をまわして受信範囲を選択する
1 NORMAL：144MHz 帯と 430MHz 帯のみ受信します。
2 WIDE：航空無線帯と情報無線帯も受信します。
参考 工場出荷時：1 NORMAL
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
受信範囲が設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GW
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU (CONFIG) 11?	
11 RX COVERAGE	
12 UNIT	
13 APO	
14 TOT	

RX COVERAGE	
1 NORMAL	
2 WIDE	

表示する単位を設定する(12 UNIT)

高度や距離、速度を表示するときの単位が設定できます。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 3 DIAL をまわして **[12 UNIT]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 DIAL をまわして単位の表示方法を選択する
1 METRIC：単位をメートル法で表示させます。
2 INCH：単位をインチ法で表示させます。
参考 工場出荷時：1 METRIC
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
表示する単位が設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/2)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GW
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU (CONFIG) 11?	
12 UNIT	
13 APO	
14 TOT	
15 Bluetooth PAIRING	

UNIT	
1 METRIC	
2 INCH	

自動的に電源を切る(13 APO)

一定の時間何も操作しないと、自動的に本機の電源が切れるように設定できます。詳細については「APO 機能を使う」(P.94)を参照してください。

連続送信時間を制限する(14 TOT)

送信状態が続いたときに、あらかじめ指定した時間がたつと自動的に受信状態に戻るよう設定できます。詳細については「TOT 機能を使う」(P.95)を参照してください。

Bluetooth ヘッドセットの PIN コードを設定する(15 Bluetooth PAIRING)

本機に装着した Bluetooth ユニットに、使用するヘッドセットを識別させます。詳細については「Bluetooth ヘッドセットを認識させる」(P.155)を参照してください。

GPS 機能の測地系を設定する(16 GPS DATUM)

GPS 機能の測位の基準である測地系が設定できます。

- 1 **[DISP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**[DISP]** を押す
- 3 DIAL をまわして **[16 GPS DATUM]** を選択し、**[DISP]** を押す
- 4 DIAL をまわして測地系を選択する
 - 1 WGS-84：世界測地系を使って測位します。全世界で標準的に使われています。
 - 2 TOKYO MEAN：日本測地系を使って測位します。日本(東京)で測位するときに、誤差が小さくできます。

参考 工場出荷時：1 WGS-84

- 5 **[DISP]** を 1 秒以上押す
GPS 機能の測地系が設定され、もとの画面に戻ります。

SETUP MENU (1/8)	
1 DISPLAY	5 SCAN
2 TX/RX	6 GM
3 MEMORY	7 WIRES-X
4 SIGNALING	8 CONFIG

SETUP MENU [CONFIG] 117	
14 TOT	
15 Bluetooth PAIRING	
16 GPS DATUM	
17 GPS LOG	

GPS DATUM	
1 WGS-84	
2 TOKYO MEAN	

参考 通常は「1 WGS-84」のままで使用してください。

GPS の位置情報を記録する間隔を設定する (17 GPS LOG)

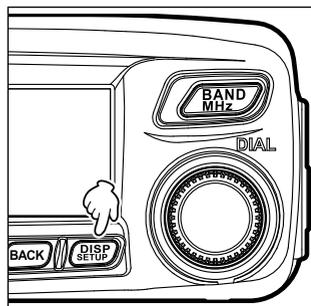
自局の位置情報を microSD カードに記録する間隔の時間を設定します。
詳細については「位置情報を記録する (GPS ログ機能)」(P.75)を参照してください。

セットアップメニュー：9 DATA メニューの操作

COM ポートを設定する (1 COM PORT SETTING)

本体後面の[DATA]ジャックをCOMポートとして使うときの通信速度や機能などを設定します。

- 1 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして**[9 DATA]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 3 DIAL をまわして**[1 COM PORT SETTING]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
詳細な設定のための画面が表示されます。



- 4 DIAL をまわして**[COM SPEED]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 5 DIAL をまわして通信速度を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
次のように切り替わります。
[4800 bps]→[9600 bps]→[19200 bps]→[38400 bps]→[57600 bps]

参考 工場出荷時：9600 bps

- 6 DIAL をまわして**[COM OUTPUT]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



7 DIAL をまわして出力する情報を選択する

次のように切り替わります。

「OFF」→「GPS OUT」→「PACKET」→「WAYPOINT」

OFF：COM ポートの出力機能は使いません(動作無効)。

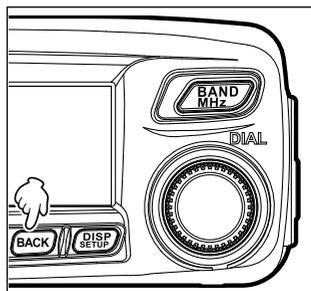
GPS OUT：本機が取り込んだ GPS データを出力します。

PACKET：内蔵のモデム機能で受信した AX.25 のパケット通信データを出力します。

WAYPOINT：受信した APRS パケットから得られる他局ビーコンの位置情報を WAYPOINT データとして出力します。

参考 工場出荷時：OFF

8 **BACK** を押す



9 DIAL をまわして **WP FORMAT** を選択し、**DISP SETUP** を押す



10 DIAL をまわして、各データに付加される APRS ビーコン局のコールサイン情報の桁数を選択する

手順 9 で「WAYPOINT」を選択した場合に設定します。データは NMEA-0183 の \$GPWPL フォーマットにて出力されます。

次のように切り替わります。

「NMEA 9」→「NMEA 8」→「NMEA 7」→「NMEA 6」

NMEA 9：コールサインは右 9 桁に制限されます(例：JQ1YBG-14 ならコールサイン情報は「JQ1YBG-14」となる)。

NMEA 8：コールサインは右 8 桁に制限されます(例：JQ1YBG-14 ならコールサイン情報は「Q1YBG-14」となる)。

NMEA 7：コールサインは右 7 桁に制限されます(例：JQ1YBG-14 ならコールサイン情報は「1YBG-14」となる)。

NMEA 6：コールサインは右 6 桁に制限されます(例：JQ1YBG-14 ならコールサイン情報は「YBG-14」となる)。

参考 工場出荷時：NMEA 9

11 **BACK** を押す

- 12 DIAL をまわして**[WP FILTER]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す

COM PORT SETTING	
COM SPEED [9600bps]
COM OUTPUT [OFF]
WP FORMAT [NMEA 9]
WP FILTER [ALL]

- 13 DIAL をまわして、出力したいビーコンの種類を選択する
手順7で「WAYPOINT」を選択した場合に設定します。
次のように切り替わります。

「ALL」→「MOBILE」→「FREQUENCY」→「OBJECT/ITEM」→「DIGIPEATER」→
「VoIP」→「WEATHER」→「YAESU」→「CALL RINGER」→「RNG RINGER」

ALL：受信したすべてのビーコンを出力します。

MOBILE：移動局だけを出力します。

FREQUENCY：周波数情報を持つ局だけを出力します。

OBJECT/ITEM：オブジェクト局またはアイテム局だけを出力します。

DIGIPEATER：デジピーター局だけを出力します。

VoIP：WIRES などの VoIP 局だけを出力します。

WEATHER：気象局だけを出力します。

YAESU：八重洲無線のトランシーバーを使用している局だけを出力します。

CALL RINGER：APRS セットアップメニューの**[9 APRS RINGER(CALL)]**で
設定したコールサインリンガー局の情報だけを出力します。

RNG RINGER：APRS セットアップメニューの**[8 APRS RINGER]**のレンジリ
ンガー機能により、接近局として判定される局の情報だけを出力
します。

参考 工場出荷時：ALL

- 14 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
COM ポートが設定され、もとの画面に戻ります。

APRS とデータ通信の通信速度を設定する (2 DATA SPEED)

APRS(内蔵モデム)とデータ通信(本体背面の[DATA]ジャック使用時)の通信速度を設定します。

- 1 **[DISP SETUP]** を1秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして**[9 DATA]**を選択し、**[DISP SETUP]**を押す

SETUP MENU (MENU)	
9 DATA	13 RST/CLONE
10 APRS	14 CALLSIGN
11 SD	
12 OPTION	

- 3 DIAL をまわして**[2 DATA SPEED]**を選択し、
[DISP SETUP]を押す
詳細な設定のための画面が表示されます。

SETUP MENU [DATA]	
1 COM PORT SETTING	
2 DATA SPEED	
3 DATA SQUELCH	

- 4 DIAL をまわして **[APRS]** を選択し、**(DISP/SETUP)** を押す

```

DATA SPEED
▶APRS:[ 1200 bps ]
DATA:[ 1200 bps ]
    
```

- 5 DIAL をまわしてパケット通信の速度を選択する
DIAL をまわすと「1200 bps」と「9600 bps」が切り替わります。
1200 bps：AFSK1200bps パケットに設定します。
9600 bps：GMSK9600bps パケットに設定します。

参考 工場出荷時：1200 bps

- 6 **(BACK)** を押す

- 7 DIAL をまわして **[DATA]** を選択し、**(DISP/SETUP)** を押す
手順 5 を繰り返し、データ通信の速度を設定します

参考 工場出荷時：1200 bps

- 8 **(DISP/SETUP)** を 1 秒以上押す
APRS とデータ通信の通信速度が設定され、もとの画面に戻ります。

スケルチ検出やスケルチ端子の出力条件を設定する (3 DATA SQUELCH)

APRS(内蔵モデム)運用時のスケルチ検出の条件や、データ通信(本体背面の[DATA]ジャック使用時)のスケルチ端子に関する出力条件を設定します。「パケット通信の動作を設定する」(P.112)を参照してください。

セットアップメニュー：10 APRS メニューの操作

本機の APRS 機能は、APRS のフォーマットを使用して自局位置やメッセージ等のデータ通信を行うシステムです。

詳細は、別途用意している APRS 編の取扱説明書を参照してください(当社ウェブサイトからダウンロードしてください)。

セットアップメニュー：11 SD メニューの操作

設定内容を microSD カードに書き込む (1 BACKUP)

microSD カードを使用して、本機に登録したメモリーチャンネルやセットアップメニューでの設定内容などを、別の FTM-100D または FTM-100DH にコピーできます。また、microSD カードに記憶させた設定内容を、本機に取り込むこともできます。詳細については「本機のデータをほかの無線機にコピーする」(P.104)を参照してください。

microSD カードを初期化する(2 FORMAT)

新しい microSD カードを使用するときは、メモリーカードを初期化してください。詳細については「microSD カードを初期化する」(P.33)を参照してください。

セットアップメニュー：12 OPTION メニューの操作

Bluetooth ヘッドセットの動作を設定する (1 Bluetooth)

本機に Bluetooth ユニットの装着して Bluetooth ヘッドセットを使うと、ワイヤレスで受信音を聞いたり音声を送信したりできます。

詳細については「Bluetooth ヘッドセットの動作を設定する」(P.153)参照してください。

ボイスメモリーの動作を設定する (2 VOICE MEMORY)

本機にボイスガイドユニットを装着すると、受信した音声やマイクで拾った音声を録音し、あとから本機で再生して聴いたり、消去したりできます。

詳細については「ボイスメモリーを使う」(P.160)を参照してください。

セットアップメニュー：13 RST / CLONE メニューの操作

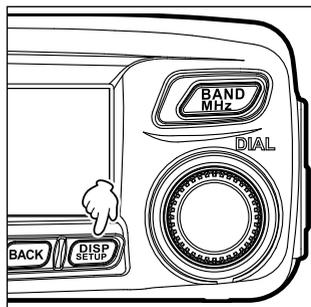
設定した内容をリセットする (1 FACTORY RESET)

本機の設定やメモリー内容を、工場出荷時の値に戻すことができます。
詳細については「設定を初期値に戻す(オールリセット)」(P.49)を参照してください。

プリセットを登録する(2 PRESET)

周波数やメモリーチャンネルなど、現在の設定内容を、1件だけプリセットに登録できます。

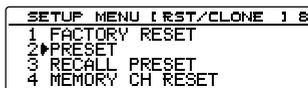
- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして **[13 RST/CLONE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 3 DIAL をまわして **[2 PRESET]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
プリセットの登録を確認する画面が表示されます。



- 4 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
プリセットが登録されます。
登録を中止する場合は **[Cancel]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押します。

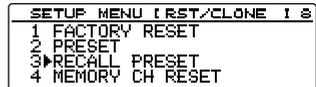


- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。

登録したプリセットを呼び出す (3 RECALL PRESET)

登録したプリセットを、セットアップメニューから呼び出せます。

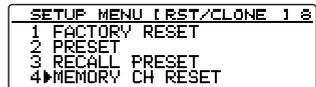
- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[13 RST/CLONE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 3 DIAL をまわして **[3 RECALL PRESET]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
登録したプリセットを呼び出す確認の画面が表示されます。
- 4 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
登録したプリセットが呼び出され、もとの画面に戻ります。
呼び出しを中止する場合は **[Cancel]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押します。
- 5 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。



メモリーチャンネルを消去する (4 MEMORY CH RESET)

登録したメモリーチャンネルを消去します。

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[13 RST/CLONE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[4 MEMORY CH RESET]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
- 4 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
備考 リセットを中止するときは、**[Cancel]** を選択します。



登録したメモリーチャンネルが消去され、もとの画面に戻ります。

メモリーチャンネルをソートする (5 MEMORY CH SORT)

登録したメモリーチャンネルの順番をソートします。

- 1 **[DISP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[13 RST/CLONE]** を選択し、**[DISP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[5 MEMORY CH SORT]** を選択し、**[DISP]** を押す
- 4 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP]** を押す
備考 ソートを中止するときは、**[Cancel]** を選択します。



周波数の低い方からメモリーチャンネルがソートされます。
また、本機が再起動します。

APRS の設定をリセットする (6 APRS RESET)

APRS の設定をリセットします。

- 1 **[DISP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[13 RST/CLONE]** を選択し、**[DISP]** を押す
メニューリストが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[6 APRS RESET]** を選択し、**[DISP]** を押す
- 4 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP]** を押す
備考 リセットを中止するときは、**[Cancel]** を選択します。



APRS の設定がリセットされ、もとの画面に戻ります。

保存されているデータをコピーする (7 CLONE)

本機に保存されているデータすべてを別の FTM-100D または FTM-100DH に直接コピーできます。

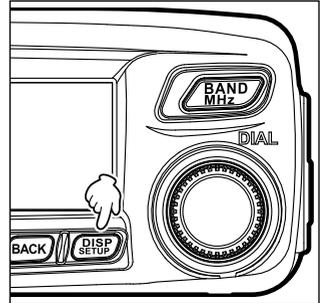
詳細については「クローン機能を使う」(P.106)を参照してください。

セットアップメニュー：14 CALLSIGN メニューの操作

コールサインを変更する (1 MY CALL SIGN(DIGITAL))

本機に設定した自局のコールサインを変更することができます。

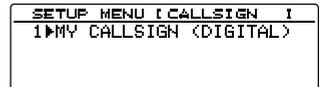
- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 2 DIAL をまわして **[14 CALLSIGN]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 3 **[DISP SETUP]** を押す
現在のコールサインが表示されます。



- 4 **[DISP SETUP]** を押す
左端の文字が点滅します。



- 5 DIAL をまわして文字を選択し、**[QW]** を押す (上に **[→]** が表示されています)
カーソルが右に移動します。

参考：英数字、ハイフン、/ で 10 文字まで入力できます。

- ・ 英大文字、英小文字、記号、および数字を切り換える場合、**[TXPO]** を押します (上に **[A-Z]** が表示されています)。
- ・ 入力した文字を消去する場合、**[VIM MW]** を押します (上に **[CLR]** が表示されています)。
- ・ カーソルを左に移動する場合、**[P<]** を押します (上に **[←]** が表示されています)。
- ・ 入力した文字を削除してカーソルを左に移動する場合、**[VOL VOICE]** を押します (上に **[X]** が表示されています)。

- 6 手順 5 を繰り返してコールサインを変更する

- 7 **[DISP SETUP]** を押す
新しいコールサインが表示されます。

- 8 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
コールサインが設定され、もとの画面に戻ります。

Bluetooth ヘッドセットを使う

オプションの Bluetooth ユニット「BU-2」とオプションの Bluetooth ヘッドセット「BH-2A」を使うと、ワイヤレスで受信音を聞いたり音声を送信したりできます。また、VOX(Voice Operated Xmit)機能を ON にすると、ハンズフリーで交信できます。

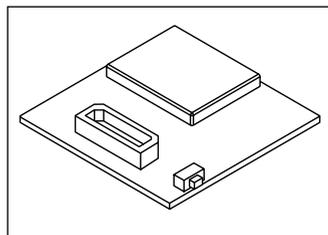
参考

当社オプション以外の Bluetooth ヘッドセットも使用できますが、すべての機能が正常に動作する保証はできません。

Bluetooth ユニット「BU-2」を装着する

● 準備するもの

- Bluetooth ユニット「BU-2」(オプション)
- プラスドライバー

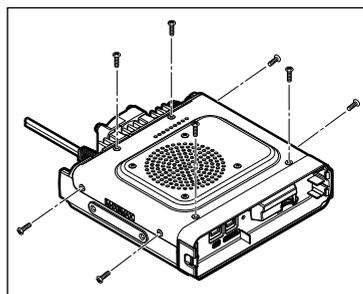


● 装着の手順

注意

● 静電気などにより半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外の場所には不用意に手を触れないでください。

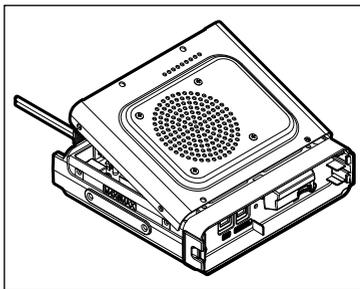
- 1 本機の電源を切る
- 2 外部装置の電源を切る
- 3 本体からコントロールケーブル、マイクロホン、DC 電源ケーブルを抜く
- 4 本体の上面の 4 ヶ所と、側面それぞれ 2 ヶ所の、あわせて 8 ヶ所のビスを外す



Bluetooth ヘッドセットを使う

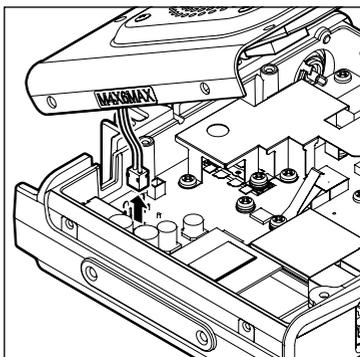
- 5 本体の上面カバーの背面側をゆっくりと持ち上げる

注意 上面カバーを勢よく持ち上げないでください。カバー内側のスピーカーと本体内部の基板がコードでつながっているため、断線する場合があります。



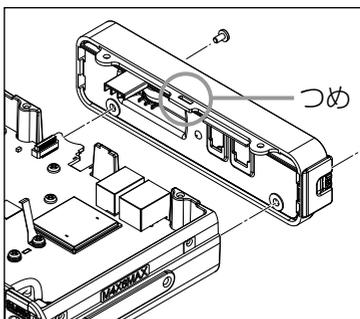
- 6 上面カバーから伸びているスピーカーのコードを本体内部の基板のソケットから抜いて、カバーを外す

注意 コードを抜く際は、コードを持たずにコネクタ部分を持って抜いてください。



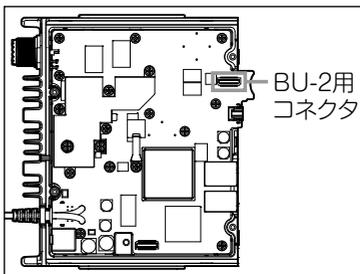
- 7 本体前面の2ヶ所のビスを外す

- 8 前面上部中央のつめを引き上げてから、前面カバーを取り外す



- 9 右図を参考に、コネクタに BU-2 を差し込む

注意 コネクタの向きを確認して、奥まで差し込んでください。



- 10 本体前面のカバーを取り付けて、2ヶ所のビスでとめる

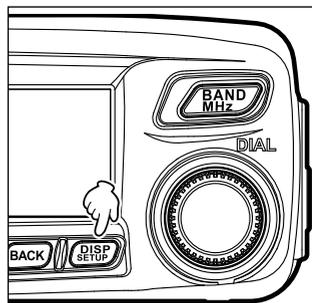
- 11 本体上面のカバーから伸びるスピーカーのコードを基板のソケットに元通り差し込む
- 12 本体上面のカバーを取り付けて、8ヶ所のビスでとめる

Bluetooth ヘッドセットの動作を設定する

ワイヤレス交信の仕方に応じて、次のような内容を設定します。

- ヘッドセットだけで音声を聞く、または本機のスピーカーからも音声が入るようにする
- ヘッドセットのバッテリーを節約する
- [PTT] で送受信を切り替える、または音声で自動的に送受信を切り替える
- 小さめの音声でも自動的に送受信を切り替える

- 1 本機の電源を入れる
- 2 **DISP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[12 OPTION]** を選択し、**DISP** を押す

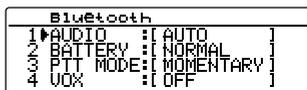


- 4 DIAL をまわして **[1 Bluetooth]** を選択し、**DISP** を押す

参考 本機に BU-2 を装着していないときは選択できません。設定のための画面が表示されます。



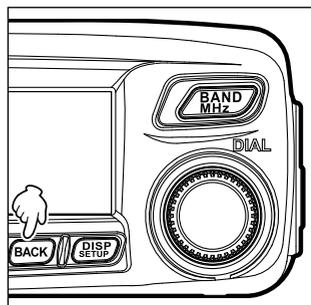
- 5 DIAL をまわして **[1 AUDIO]** を選択し、**DISP** を押す



- 6 DIAL をまわして「AUTO」または「FIX」を選択する
「AUTO」: Bluetooth ヘッドセットが接続されると、本機のスピーカーから音が出なくなり、ヘッドセットからだけ音が出ます。
「FIX」: Bluetooth ヘッドセットと本機のスピーカーの両方から音が出ます。

参考 工場出荷時: AUTO

- 7 **BACK** を押す



- 8 DIAL をまわして **[2 BATTERY]** を選択し、**DISP SETUP** を押す

Bluetooth	
1 AUDIO	:[AUTO]
2 BATTERY	:[NORMAL]
3 PTT MODE	:[MOMENTARY]
4 VOX	:[OFF]

- 9 DIAL をまわして「NORMAL」または「SAVE」を選択する
 「NORMAL」: Bluetooth ヘッドセットのバッテリーセーブ機能が OFF になります。
 「SAVE」: Bluetooth ヘッドセットのバッテリーセーブ機能が ON になります。

参考 工場出荷時: NORMAL

- 10 **BACK** を押す

- 11 DIAL をまわして **[3 PTT MODE]** を選択し、**DISP SETUP** を押す

Bluetooth	
1 AUDIO	:[AUTO]
2 BATTERY	:[NORMAL]
3 PTT MODE	:[MOMENTARY]
4 VOX	:[OFF]

- 12 DIAL をまわして「MOMENTARY」または「TOGGLE」を選択する
 「MOMENTARY」: ヘッドセットの [PTT] を押している間は、送信状態になります。
 「TOGGLE」: ヘッドセットの [PTT] を押すたびに、送信と受信を切り替えます。

参考 工場出荷時: MOMENTARY

- 13 **BACK** を押す

- 14 DIAL をまわして **[4 VOX]** を選択し、**DISP SETUP** を押す

Bluetooth	
1 AUDIO	:[AUTO]
2 BATTERY	:[NORMAL]
3 PTT MODE	:[MOMENTARY]
4 VOX	:[OFF]

- 15 DIAL をまわして「OFF」または「ON」を選択する
 「OFF」: [PTT] で送受信を切り替えます。
 「ON」: 音声による送受信の切り替えができます。

参考 工場出荷時: OFF

- 16 **BACK** を押す

[VOX] を「ON」にした場合、**[5 GAIN]** が表示されます。

- 17 DIAL をまわして **[5 GAIN]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
 設定項目が表示されます。

Bluetooth	
2 BATTERY	:[NORMAL]
3 PTT MODE	:[MOMENTARY]
4 VOX	:[ON]
5 GAIN	:[HIGH]

- 18 DIAL をまわして「HIGH」または「LOW」を選択する
 「HIGH」: Bluetooth ヘッドセットの VOX 感度が高くなり、小さめの音声に反応できます。
 「LOW」: Bluetooth ヘッドセットの VOX 感度が低くなり、小さめの音声に反応しにくくなります。
- 19 **BACK** を押す
- 20 **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
 Bluetooth ヘッドセットの動作が設定され、もとの画面に戻ります。

Bluetooth ヘッドセットを認識させる

ヘッドセットなどの Bluetooth 端末機器には、「PIN コード」と呼ばれる個別の識別コードが割り当てられています。Bluetooth 端末機器を使うときは、はじめに相手の機器とお互いを認識させ、記録しておきます。これを「ペアリング」といい、このとき PIN コードが使われます。ペアリングしておくことで、混信や不正な傍受を防ぐことができます。

本機と Bluetooth ヘッドセットでワイヤレス交信する場合も、初めて使うときにペアリングします。

参考

当社製 Bluetooth ヘッドセット「BH-2A」の PIN コードは 6111 です。当社以外の Bluetooth ヘッドセットを使用する場合は、その製品の取扱説明書などで PIN コードを確認してください。

例：オプションの Bluetooth ヘッドセット「BH-2A」をペアリングする場合

参考

BH-2A 以外のヘッドセットを使う場合、ペアリングの方法は使用する製品の取扱説明書を参照してください。

- BH-2A の電源を切る
- 本機の **DISP SETUP** を 1 秒以上押す
 セットアップメニューが表示されます。
- DIAL をまわして **[8 CONFIG]** を選択し、**DISP SETUP** を押す
 メニューリストの画面が表示されます。
- DIAL をまわして **[15 Bluetooth PAIRING]** を選択し、**DISP SETUP** を押す

SETUP MENU (1/2)		
1 DISPLAY	5 SCAN	
2 TX/RX	6 GM	
3 MEMORY	7 WIRES-X	
4 SIGNALING	8 CONFIG	

SETUP MENU CONFIG 117	
12 UNIT	
13 APO	
14 TOT	
15 Bluetooth PAIRING	

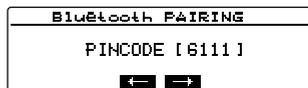
PIN コードの入力画面が表示されます。

参考 工場出荷時、PIN コードの欄には「6111」が表示されます。

- ・BH-2A 以外のヘッドセットを使う場合は、ここでヘッドセットの PIN コードを 4 桁で入力します。DIAL をまわすと、カーソル位置の文字が上書きされます。

- ・ キーを押すと、カーソルが左に移動します(上に  が表示されています)。

- ・ キーを押すと、カーソルが右に移動します(上に  が表示されています)。



5 BH-2A の電源スイッチを 5 秒間押す

BH-2A の LED インジケーターが赤色と青色で交互に点滅します。

6 を押す

「Pairing...」が表示されます。

ペアリングが成功すると「Completed」と表示され、メニューリストの画面に戻ります。

また、BH-2A の LED インジケーターが青色に点滅します。

注意 「ERROR」と表示された場合は、はじめからやり直してください。

7 を 1 秒以上押す

もとの画面に戻ります。

ディスプレイ右上にアイコンが表示されます。

参考

- ・BU-2 には、ペアリング情報を 8 つまで保存できます。予備や個人用などヘッドセットを 2 つ以上使う場合は、それぞれの PIN コードを設定してペアリングしておきます。ただし、同時に 2 つ以上のヘッドセットを使うことはできません。
- ・8 つまでペアリングしたあとさらにペアリングすると、もっとも古いペアリング情報が上書きされます。

Bluetooth ヘッドセットを使う

一度ペアリングしたあとは、ヘッドセットの電源を ON するだけで使えるようになります。

参考

- ・本機とヘッドセットとで交信が可能な距離は約 10m 以内です。
- ・ヘッドセットと本機との距離が離れすぎて通信圏外になると  アイコンは表示されません。

(1) VOX 機能を OFF にしているとき

- 1 ヘッドセットの電源を入れる
ヘッドセットのスピーカーで受信音が聞こえるようになります。
- 2 ヘッドセットの [PTT] を押す
本機が送信状態になります。
- 3 ヘッドセットの [PTT] を放す
本機が受信状態になります。

(2) VOX 機能を ON にしているとき

- 1 ヘッドセットの電源を入れる
ヘッドセットのスピーカーで受信音が聞こえるようになります。
- 2 ヘッドセットのマイクに向かって話す
本機が送信状態になります。

参考 話すのをやめると、自動的に受信状態に戻ります。

音声を録音したり聞いたりする

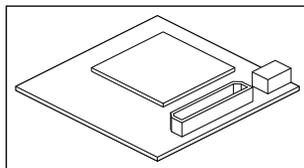
オプションのボイスガイドユニット「FVS-2」を使うと、受信した音声を録音し、あとから再生して聞くことができます。

また、アナウンス機能を ON にすると、操作バンドの周波数を読み上げる音声を聞くことができます。

ボイスガイドユニット「FVS-2」を装着する

● 準備するもの

- ボイスガイドユニット「FVS-2」(オプション)
- プラスドライバー

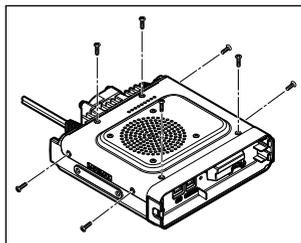


● 装着の手順

注意

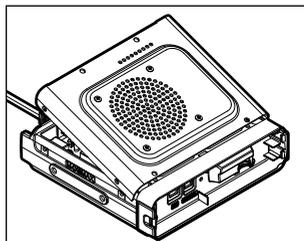
- 静電気などにより半導体が破損する恐れがありますので、必要箇所以外の場所には不用意に手を触れないでください。

- 1 本機の電源を切る
- 2 外部装置の電源を切る
- 3 本体からコントロールケーブル、マイクロホン、DC 電源ケーブルを抜く
- 4 本体の上面の 4 ヶ所と、側面それぞれ 2 ヶ所の、あわせて 8 ヶ所のビスを外す



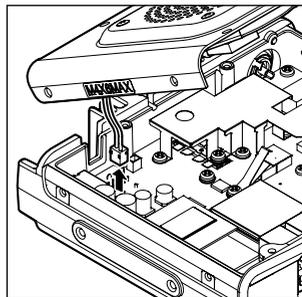
- 5 本体の上面カバーの前面側をゆっくりと持ち上げる

注意 上面カバーを勢いよく持ち上げないでください。カバー内側のスピーカーと本体内部の基板がコードでつながっているため、断線する場合があります。



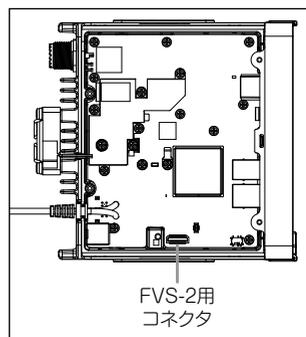
- 6 上面カバーから伸びているスピーカーのコードを本体内部の基板のソケットから抜いて、カバーを外す

注意 コードを抜く際は、コードを持たずにコネクタ部分を持って抜いてください。



- 7 右図を参考に、コネクタに FVS-2 を差し込む

注意 コネクタの向きを確認して、奥まで差し込んでください。



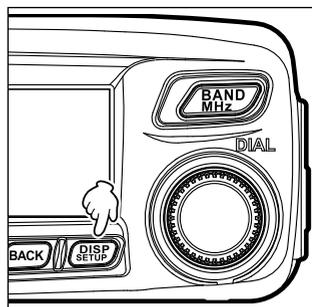
- 8 本体上面のカバーから伸びるスピーカーのコードを基板のソケットに元通り差し込む
 9 本体上面のカバーを取り付けて、8ヶ所のビスでとめる

ボイスメモリーを使う

ボイスメモリーは、受信した音声を録音する機能です。音声は本機に装着した FVS-2 (オプション) に保存されます。あとから本機で再生して聴いたり、消去したりできます。

ボイスメモリーの動作を設定する

- 1 本機の電源を入れる
- 2 **DISP** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 3 DIAL をまわして **[12 OPTION]** を選択し、**DISP** を押す
- 4 DIAL をまわして **[2 VOICE MEMORY]** を選択し、**DISP** を押す
詳細な設定のための画面が表示されます。
- 5 DIAL をまわして **[1 PLAY/REC]** を選択し、**DISP** を押す
- 6 DIAL をまわして録音時間を設定する
[FREE 5min]: 8 個の録音エリアで、合計 5 分間録音できます。
[LAST 30sec]: 最後の 30 秒間を録音します。
参考 工場出荷時: FREE 5min
- 7 **DISP** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。



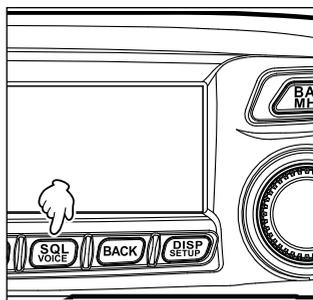
SETUP MENU (2/2)	
9 DATA	13 RST/CLONE
10 APRS	14 CALLSIGN
11 SD	
12 OPTION	

SETUP MENU [OPTION]	
1 Bluetooth	
2 VOICE MEMORY	

VOICE MEMORY	
1 PLAY/REC : [FREE 5min]	
2 ANNOUNCE: [AUTO]	
3 LANGUAGE: [JAPANESE]	
4 VOLUME: [HIGH]	

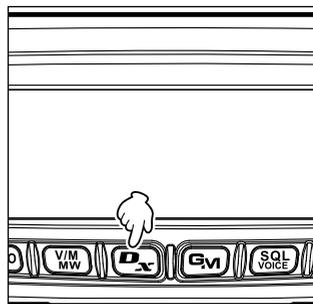
受信音声を録音する

- 1 (SQL VOICE) を 1 秒以上押す
ディスプレイの下部にメニューが表示されます。



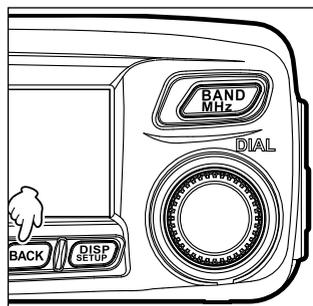
- 2 (D_x) を押す (上に REC が表示されています)
録音が始まります。

参考 セットアップメニューの「12 OPTION」→「2 VOICE MEMORY」で設定した録音時間が【REC】の下に表示されます。



- 3 (BACK) を押す (上に STOP が表示されています)
録音が停止します。

また、【TRCK】に録音した音声のトラック番号が表示されます。

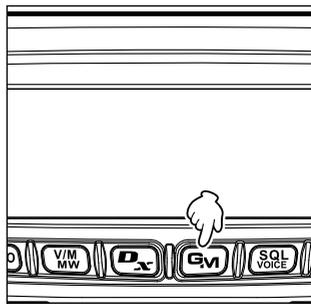


- 4 (SQL VOICE) を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。

録音した音声を再生する

- 1 **[SQL]** を 1 秒以上押す
ディスプレイの下部にメニューが表示されます。
- 2 **[GM]** (上に **[📁]** が表示されています) を押して、再生するトラック番号を選ぶ

参考 ・録音した音声 が 2 つ以上ある場合は、押すたびに「ALL」「1」「2」…のように切り替わります。
・「ALL」を選ぶと、録音されているすべてのトラックを順番に再生します。



- 3 **[SQL]** を押す (上に **[📁]** が表示されています)
再生が開始されます。
選択したトラックの再生が終わると自動的に停止します。

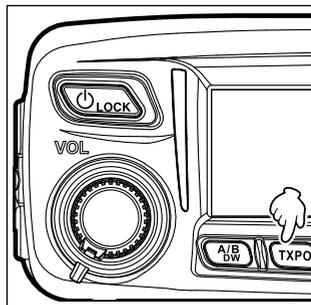


再生を途中でやめるときは **[BACK]** を押します (上に **[STOP]** が表示されています)。

- 4 **[SQL]** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。

録音した音声を消去する

- 1 **[SQL]** を 1 秒以上押す
ディスプレイの下部にメニューが表示されます。
- 2 **[TXPO]** を押す (上に **[📁]** が表示されています)
確認画面が表示されます。



- 3 DIAL をまわして **[OK?]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
消去が開始されます。

注意 すべての音声が消去されます。録音した音声 が 2 つ以上ある場合でも、消去するトラック番号を選ぶことはできません。

消去が終わると、**[TRCK]** に「ALL」が表示されます。

- 4 **[SOLE]** を 1 秒以上押す
もとの画面に戻ります。



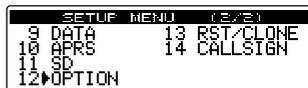
周波数を読み上げる音声を聞く

アナウンス機能の動作を設定する

次のような内容を設定します。

- 音声読み上げの条件
- 読み上げ時の言語選択
- 読み上げ時の音量設定
- 読み上げ時の受信音ミュート設定

- 1 **[DISP SETUP]** を 1 秒以上押す
セットアップメニューが表示されます。
- 2 DIAL をまわして **[12 OPTION]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 3 DIAL をまわして **[2 VOICE MEMORY]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す
詳細な設定のための画面が表示されます。



- 4 DIAL をまわして **[2 ANNOUNCE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 5 DIAL をまわし、周波数を読み上げる条件を選ぶ
「AUTO」: **[SOLE]** を 1 秒以上押したときと、バンドを変更したときに、読み上げます。

「OFF」: 周波数を音声で読み上げません。

「MANUAL」: **[SOLE]** を 1 秒以上押すと、読み上げます。

参考 工場出荷時: AUTO

- 6 **[BACK]** を押す
- 7 DIAL をまわして **[3 LANGUAGE]** を選択し、**[DISP SETUP]** を押す



- 8 DIAL をまわし、読み上げるときの言語を選ぶ
DIAL をまわすたびに「JAPANESE」と「ENGLISH」が切り替わります。

参考 工場出荷時：JAPANESE

- 9 **(BACK)** を押す

- 10 DIAL をまわして**[4 VOLUME]**を選択し、**(DISP SETUP)**を押す

VOICE MEMORY	
1	PLAY/REC: FREE 5min
2	ANNOUNCE: AUTO
3	LANGUAGE: JAPANESE
4	VOLUME: HIGH

- 11 DIAL をまわし、読み上げるときの音量を選ぶ
DIAL をまわすたびに「HIGH」「MID」「LOW」が切り替わります。

参考 工場出荷時：HIGH

- 12 DIAL をまわして**[5 RX MUTE]**を選択し、**(DISP SETUP)**を押す

VOICE MEMORY	
2	ANNOUNCE: AUTO
3	LANGUAGE: JAPANESE
4	VOLUME: HIGH
5	RX MUTE: ON

- 13 DIAL をまわし、受信音のミュート機能動作を選ぶ
DIAL をまわすたびに「ON」と「OFF」が切り替わります。
「ON」：音声で読み上げ時や、録音音声再生時に、受信音がミュートします。
「OFF」：音声で読み上げ時や、録音音声再生時でも、受信音はミュートしません。

- 14 **(DISP SETUP)** を 1 秒以上押す
アナウンス機能の動作が設定され、もとの画面に戻ります。

周波数を読み上げる音声を聞く

(1) 動作を「AUTO」に設定しているとき

次のようなときに、自動的に操作バンドの周波数が読み上げられます。

- メモリーモードと VFO モードを切り替えたとき
- 操作バンドを変えたとき

参考 DIAL をまわしても、音量を調節できます。

(2) 動作を「MANUAL」に設定しているとき

- 1 **(VOICE)** を 1 秒以上押す
操作バンドの周波数が読み上げられます。

参考 DIAL をまわしても、音量を調節できます。

周波数の使用区分

この使用区分は平成 27 年 1 月 5 日に総務省より施行されております。電波を発射するときは、下記の使用区分にしたがって運用してください。なお、使用区分は改訂される場合がありますので、最新情報は JARL ニュース等でご確認ください。



注1: 144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信(EME)にも使用できる。この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は3kHz以下のものに限る。
注2: 144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話・電信及び画像通信にも使用することができる。



狭帯域: 占有周波数帯幅が 3kHz 以下のもの(A3E を除く)。

広帯域: 占有周波数帯幅が 3kHz を超えるもの。

注意

平成 21 年総務省告示第 179 号の注 22 により、呼出周波数(145.000MHz および 433.000MHz)では、デジタルモードでの送信は禁止されています。

アマチュア無線局免許申請書類の書きかた

「無線局事項書及び工事設計書の書きかた」

本機は技術基準適合機ですので、技術基準適合証明番号を記入することにより、次ページ記入例の“”部分は記入を省略できます。

総務省の「電子申請・届出システム Lite」で申請する場合は、「工事設計情報入力」画面にて、技術基準適合証明番号の「番号」欄に、無線機本体の底面に貼られたラベルに印刷された技術基準適合証明番号（“002-”から始まる番号）を入力してください（ハイフンが含まれている場合は、ハイフンも入力してください）。

参考

- 本機の技術基準適合番号は、本体底面の技術基準適合証明シールに記載されています。
- 本機固有の記載事項以外については、『アマチュア無線局(個人局)の開局申請書類の書き方』(一般社団法人日本アマチュア無線連盟発行)などを参考にして記入してください。

無線局事項書及び工事設計書

1 申請（届出）の区分		<input type="checkbox"/> 開設 <input type="checkbox"/> 変更 <input type="checkbox"/> 再免許		2 免許の番号		A第 号		3 呼出符号		※ 整理番号		4 欠格事由		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
5 氏名 申請又は届出 名 （個人）	申請区分	フリガナ													
	個人又は代表者名	フリガナ													
	住所	フリガナ													
	郵便番号	-													
6	工事落成の予定日	<input type="checkbox"/> 日付指定： <input type="checkbox"/> 子権免許の日から 月 日の日 <input type="checkbox"/> 子権免許の日から 日 日の日													
7	希望する免許の有効期間	※ 免許の有効期間 8 無線従事者免許証の番号													
9	無線局の目的	アマチュア業務用													
10	通信事項	アマチュア業務に関する事項													
11	無線設備の設置場所又は常設場所	フリガナ 都道府県-市区町村コード 12 移動範囲 <input type="checkbox"/> 移動する（陸上、海上及び上空） <input type="checkbox"/> 移動しない													
希望する周波数帯		第三級アマチュア無線技士以上の方は 50 を記入してください。 第四級アマチュア無線技士の方は 20 を記入してください。													
144M, 430Mに <input checked="" type="checkbox"/> 印をつけてください。		<input type="checkbox"/> 1.0M A 1 A <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 5600M <input type="checkbox"/> 3 SA <input type="checkbox"/> 4 SA <input type="checkbox"/> 3 SF <input type="checkbox"/> 4 SF <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 3.5M <input type="checkbox"/> 3 HA <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 10.16 <input type="checkbox"/> 3 SA <input type="checkbox"/> 4 SA <input type="checkbox"/> 3 SF <input type="checkbox"/> 4 SF <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 3.8M <input type="checkbox"/> 3 HD <input type="checkbox"/> 4 HD <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 10.45 <input type="checkbox"/> 3 SA <input type="checkbox"/> 4 SA <input type="checkbox"/> 3 SF <input type="checkbox"/> 4 SF <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 246 <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 476 <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 756 <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 776 <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 1356 <input type="checkbox"/> W													
14 変更する欄の番号		<input checked="" type="checkbox"/> 144M <input type="checkbox"/> 3 VA <input type="checkbox"/> 4 VA <input type="checkbox"/> 3 VF <input type="checkbox"/> 4 VF <input type="checkbox"/> W <input checked="" type="checkbox"/> 430M <input type="checkbox"/> 3 VA <input checked="" type="checkbox"/> 4 VA <input type="checkbox"/> 3 VF <input type="checkbox"/> 4 VF <input type="checkbox"/> W <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 16													
15	備考	① 移動する局の場合は「工事設計書」の欄に記載している送信機台数 1 台 ② 現にアマチュア局を設けているときは、その免許の番号及び呼出符号 免許の番号 呼出符号 のアマチュア局の廃止又は免許の有効期間満了の 局に指定されていた呼出符号 呼出符号													
4VAに <input checked="" type="checkbox"/> 印をつけてください。															

● 第四級アマチュア無線技士の方が申請する場合

装置の区別	変更の種類	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	※ 整理番号		定格出力 (W)	
				変調方式	鉄線管		
					名称個数		電圧
第 1 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更		F1D, F2D, F3E, F7W 144MHz帯, 430MHz帯	F3E:リアクタンス変調 F7W:4値周波数偏移変調	RD35HUF2x1	13.8 V	20
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更						V
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更						V
<p>技術基準適合証明番号を記入した場合は、記入する必要はありません。</p>							
<p>「技術証明」で免許申請を行う場合は、技術基準適合証明番号(“002-”から始まる番号)を記入してください。</p>							
16							
工 事 設 計 書	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
送信空中線の型式			周波数測定装置の有無		<input type="checkbox"/> 有 (誤差 0.025%以内) <input type="checkbox"/> 無		
添付図面		<input type="checkbox"/> 送信機系統図		その他の工事設計 <input type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。			

● 第三級アマチュア無線技士以上の方が申請する場合

装置の区別	変更の種類	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	※ 整理番号		定格出力 (W)	
				変調方式	鉄線管		
					名称個数		電圧
第 1 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更		F1D, F2D, F3E, F7W 144MHz帯, 430MHz帯	F3E:リアクタンス変調 F7W:4値周波数偏移変調	RD70HUF2x1	13.8 V	50
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更						V
第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更						V
<p>技術基準適合証明番号を記入した場合は、記入する必要はありません。</p>							
<p>「技術証明」で免許申請を行う場合は、技術基準適合証明番号(“002-”から始まる番号)を記入してください。</p>							
16							
工 事 設 計 書	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
	第 送信機	<input type="checkbox"/> 取替 <input type="checkbox"/> 増設 <input type="checkbox"/> 撤去 <input type="checkbox"/> 変更					V
送信空中線の型式			周波数測定装置の有無		<input type="checkbox"/> 有 (誤差 0.025%以内) <input type="checkbox"/> 無		
添付図面		<input type="checkbox"/> 送信機系統図		その他の工事設計 <input type="checkbox"/> 法第3章に規定する条件に合致する。			

✓印をつけてください

「アマチュア局の無線設備の保証認定願」/
「アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願」の書きかた(付属装置がある場合)

本機に TNC などの付属装置を接続して申請する場合には、JARD または TSS 株式会社の「保証認定」を受けて申請してください。

《例：新規開局の場合》

TSS 株式会社 殿

アマチュア局の無線設備の保証願書

私は、アマチュア局の免許申請に係る無線設備の保証を受けたいので、別紙の書類を添えて申し込みます。

出願者		出願の日		年	月	日
住所 社団の場合は 事務所所在地		電話番号				
氏名 社団の場合は 代表者の氏名		FAX番号				
		Eメールアドレス				
送信機番号	送信機の名称等	接続するブースタの名称等 (ブースタ等を使用している場合のみ)	付属装置の有無 (有る場合のみ)	保証料の払込みにかかる証明書の貼付欄		
第1送信機	002-XXXXXX		<input type="checkbox"/> 有	・専用の払込用紙で払い込まれたときは、受付証明書(払込用紙右端部)をお貼り下さい。 ・汎用の払込用紙で払い込まれたときは、受付証明の原本をお貼り下さい。 ・銀行口座に払い込まれた際は、取扱票の原本をお貼り下さい。 ・ATMで払い込まれたときは、取扱票の原本をお貼り下さい。 ・インターネット利用で払い込まれたときは、確認画面のハードコピーを添付して下さい。		
第2送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第3送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第4送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第5送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第6送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第7送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第8送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第9送信機			<input type="checkbox"/> 有			
第10送信機			<input type="checkbox"/> 有			
他の事項	電波法第3章に規定された条件に合致しています。					

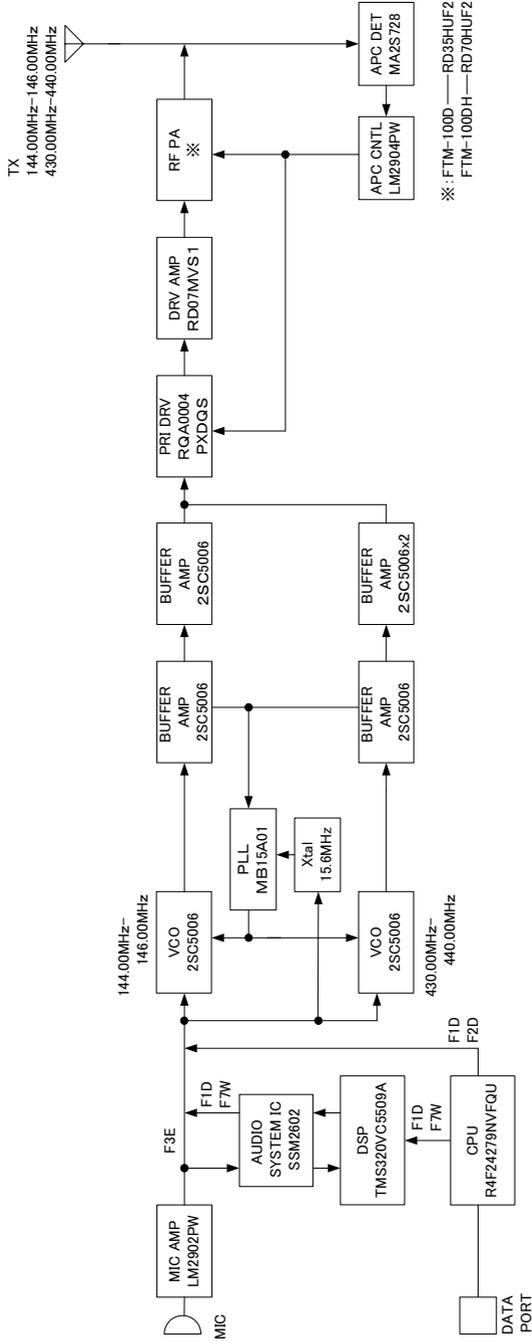
技術基準適合証明番号を記入する

記入事項については、TSS保証事業部のウェブサイト「<http://www.tsscom.co.jp/>」または、免許申請書の「保証願書の記入例」をご覧ください。

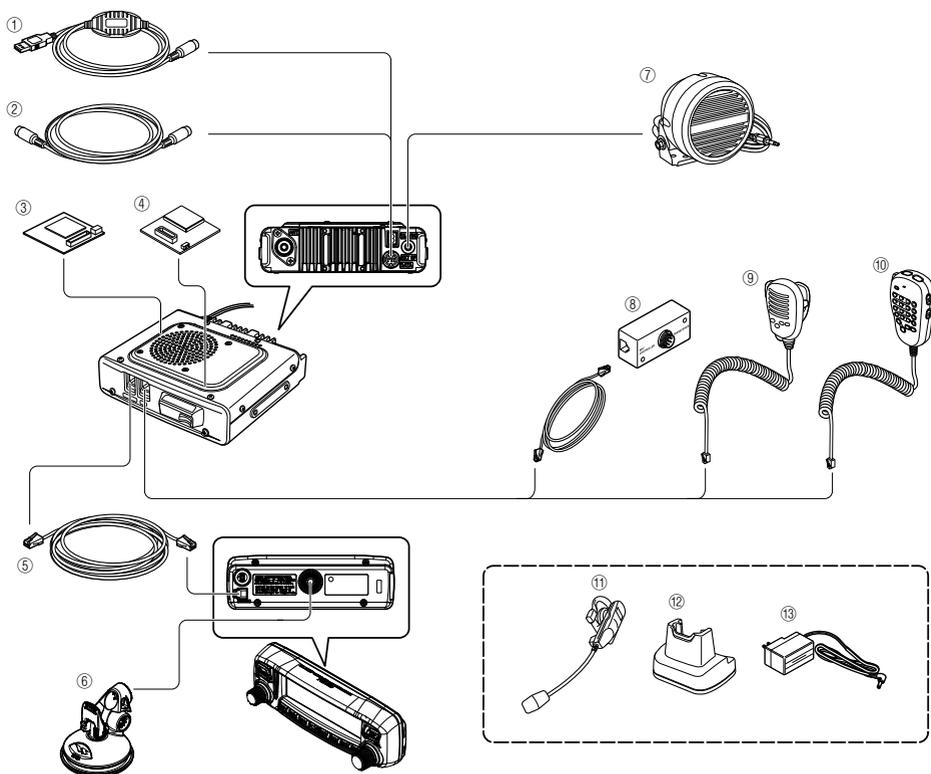
参考

- ・技術基準適合外の無線機と一緒に保証認定で申請(アマチュア局の無線設備の保証認定願 / アマチュア局の無線設備等の変更の保証認定願)する場合であっても、本機に関しては技術基準適合機として申請できます。
- ・本機の技術基準適合番号は、本体底面の技術基準適合証明シールに記載されています。
- ・『方式・規格』の記入事項については、お使いのTNCの取扱説明書を参照してください。

《送信機系統図》



オプション一覧



- ① PC コネクションケーブル(SCU-20)
※付属品と同等
- ② クローンケーブル(CT-166)
- ③ ボイスガイドユニット(FVS-2)
- ④ Bluetooth ユニット(BU-2)
- ⑤ 6m コントロールケーブル(CT-162)
- ⑥ フロントパネル用ブラケット(MMB-98)
- ⑦ 防水仕様(IP55 相当)高出力外部スピーカー
(MLS-200-M10)
- ⑧ マイクエクステンションキット(MEK-2)
- ⑨ マイクロホン(MH-42C6J)
- ⑩ DTMF 付き多機能マイクロホン(MH-48A6JA)
※付属品と同等
- ⑪ Bluetooth 防水型ヘッドセット(モノラル)
(BH-2A)
- ⑫ BH-2A 専用充電クレードル(CD-40)
- ⑬ CD-40 用 AC アダプター(PA-46A)

- デスクトップ型クーリングファン(SMB-201)
- データケーブル(CT-163): DIN 10 ピン ↔ DIN 6 ピン + Dsub 9 ピン
- データケーブル(CT-164): DIN 10 ピン ↔ DIN 6 ピン
- データケーブル(CT-165): DIN 10 ピン ↔ Dsub 9 ピン
- データケーブル(CT-167): DIN 10 ピン ↔ 先バラ(10 ピン)

保守について

お手入れ

ホコリや汚れを清掃するときは、本製品の電源を切ってから、乾いたやわらかい布でふいてください。汚れがひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

注意 洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。カバーが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。

ヒューズの交換

DC 電源ケーブルのヒューズが切れ、本製品が動作しなくなった場合は、原因を取り除いたうえで、定格のヒューズ(FTM-100D : 10A、FTM-100DH : 15A)と交換してください。

注意 ヒューズを交換するときは、電源ケーブルを本製品と外部 DC 電源からはずしてください。

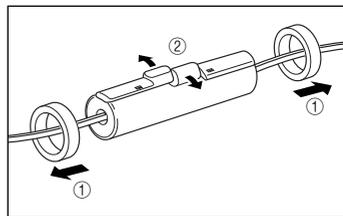
● DC 電源ケーブルのヒューズを交換する

1 新しいヒューズを用意する

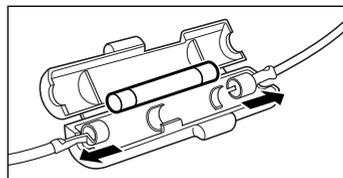
FTM-100D は 10A、FTM-100DH は 15A のヒューズをお使いください。

注意 指定されたアンペア数以外のヒューズは、絶対に使用しないでください。

2 右図を参考に、ヒューズホルダーを開く



3 切れたヒューズを取り外す



4 新しいヒューズを取り付ける

5 ヒューズホルダーを閉じる

故障かな？と思ったら

注意

修理を依頼される前に、次の事項を確認してください。

電源が入らない

- 外部電源の接続は間違っていないですか？
黒色線をマイナス端子に、赤色線をプラス端子に接続してください。
- 外部電源の電圧や電流容量が不足していませんか？
外部電源の電圧や電流容量を確認してください。
FTM-100D — 13.8V、12A 以上
FTM-100DH — 13.8V、20A 以上
- ヒューズが切れていませんか？
ヒューズを交換してください。

音が出ない

- スケルチのレベルや設定が大きくなっていませんか？
弱い信号を受信するときには、スケルチレベルを調整してください。
- 音量が下がっていませんか？
VOL ツマミを時計回りにまわして音量を大きくしてください。
- トーンスケルチまたは DCS がオンになっていませんか？
トーンスケルチまたは DCS がオンのときには、設定したトーン周波数または DCS コードと同じ信号が含まれた信号を受信するまで音は出ません。
- 外部スピーカーを接続していませんか？
インピーダンスが 4 ~ 16 Ω のスピーカーを正しく接続してください。
- Bluetooth ヘッドセットを使っていませんか？
セットアップメニューで、ヘッドセットと本体の両方から音が出るように、またはヘッドセットを使用しないように設定してください。

電波が出ない

- PTT スイッチは確実に押していますか？
- マイクロホンが正しく接続されていますか？
コネクタを MIC ジャックの奥まで確実に差し込んでください。
- 送信周波数はアマチュアバンドになっていますか？
アマチュアバンド以外では送信できません。
- アンテナや同軸ケーブルが断線していませんか？
アンテナまたは同軸ケーブルを交換してください。
- 外部電源の電圧は正常ですか？
送信時に電圧降下を起こすような電源では、本機の性能を十分に発揮することはできません。
直流 13.8V、電流容量 20A (FTM-100D は 12A) の直流安定化電源を使用してください。

キーやツマミを操作しても変化がない

- ロック機能がオンになっていませんか？
電源 / LOCK キーを押して、ロックを解除してください。

内部スプリアスについて

同時受信時の組み合わせによって、内部発振器の高周波による内部ビート等の影響がありますが、故障ではありません(下記計算式参照：n は任意の整数)。また、同時受信時に周波数の組み合わせによっては、受信感度の変動がある場合があります。

- 受信周波数 = 12.288MHz × n 倍
- 受信周波数 = 2.4576MHz × n 倍
- 受信周波数 = 11.1MHz × n 倍
- 受信周波数 = 15.6MHz × n 倍
- 受信周波数 = 6.1444MHz × n 倍
- 受信周波数 = 18.432MHz × n 倍

アフターサービスについて

◎ 保証期間はお買い上げの日から 1 年間です

本製品には保証書を添付しております。お買い上げいただいた日から 1 年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理をお引き受けいたします。

◎ 保証書は大切に保管してください

保証書を紛失された場合は、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が過ぎたものとして有償でのお取り扱いとさせていただきます。

また、販売年月日・販売店名などの必要事項が記入されていない保証書は無効として扱わせていただきます。お買い上げの販売店名や年月日などが正しく記入されているかご確認ください。

◎ 保証期間が過ぎてからの故障もご相談ください

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきます。お買い上げの販売店、または当社カスタマーサポート(下記参照)にご相談ください。

◎ 梱包箱も大切に保管してください

修理や点検のために本製品を運搬する場合には、運搬中の事故やトラブルを防ぐため、お買い上げ時の梱包箱をご使用ください。

製品の改良のため、取扱説明書のイラストなどが一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

● お問い合わせ

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号：0120-456-220

受付時間：平日 9：00～12：00、13：00～18：00

お問い合わせの際には、本体底面に貼ってあります銘板に記載の製品番号を必ずお知らせください。

定 格

● 一般定格

送受信可能周波数範囲	: 送信周波数範囲 144 ~ 146MHz、430 ~ 440MHz : 受信周波数範囲 108MHz ~ 999.99MHz (一部周波数を除く)
送受信周波数ステップ	: 5/6.25/8.33/10/12.5/15/20/25/50/100kHz (Air バンドに限り 8.33kHz を選択することができます)
電波型式	: F1D、F2D、F3E、F7W
通信方式	: 単信方式
周波数偏差	: $\pm 2.5\text{ppm}$ 以内 ($-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$)
アンテナインピーダンス	: 50 Ω
電 源	: 定格 DC13.8V $\pm 15\%$ 、マイナス接地 動作可能範囲 DC11.7 ~ 15.8V、マイナス接地
消費電流	: 受信無信号時 約 500mA 送信時 144MHz 帯 約 11A (50W)、約 7A (20W) 430MHz 帯 約 12A (50W)、約 7A (20W)
使用温度範囲	: $-20^{\circ}\text{C} \sim +60^{\circ}\text{C}$
ケース寸法	: 幅 140 × 高さ 45 × 奥行き 164mm (冷却ファンおよびツマミを含まない) フロントパネル: 幅 140 × 高さ 45 × 奥行き 29mm (突起物を含まない)
本体重量	: 約 1.1kg (本体、フロントパネル、コントロールケーブル)

● 送信部

送信出力	: 50/20/5W (FTM-100DH) 20/10/1W (FTM-100D)
変調方式	: リアクタンス変調、4 値周波数偏移変調
最大周波数偏移	: $\pm 5\text{kHz}$
占有周波数帯域	: 16kHz 以内
不要輻射強度	: 60dB 以下
マイクロホンインピーダンス	: 約 2k Ω
DATA 端子入力 インピーダンス	: 約 10k Ω

●受信部

受信方式	: ダブルコンバージョンスーパーヘテロダイン	
中間周波数	: 第一 IF 周波数 47.25MHz、第二 IF 周波数 450kHz	
受信感度	: 108 ~ 137MHz (AM)	0.8 μ V typ @10dB SN
	: 137 ~ 140MHz (FM)	0.2 μ V @12dB SINAD
	: 140 ~ 150MHz (FM)	0.2 μ V @12dB SINAD
	: 150 ~ 174MHz (FM)	0.25 μ V @12dB SINAD
	: 174 ~ 222MHz (FM)	0.3 μ V typ @12dB SINAD
	: 222 ~ 300MHz (FM)	0.25 μ V typ @12dB SINAD
	: 300 ~ 336MHz (AM)	0.8 μ V typ @10dB SINAD
	: 336 ~ 420MHz (FM)	0.25 μ V @12dB SINAD
	: 420 ~ 470MHz (FM)	0.2 μ V @12dB SINAD
	: 470 ~ 520MHz (FM)	0.2 μ V @12dB SINAD
	: 800 ~ 900MHz (FM)	0.4 μ V typ @12dB SINAD
	: 900 ~ 999.99MHz (FM)	0.8 μ V typ @12dB SINAD
		デジタルモード
	: 140 ~ 150MHz (Digital)	0.19 μ V typ @BER 1%
	: 420 ~ 470MHz (Digital)	0.19 μ V typ @BER 1%
スケルチ感度	: 0.16 μ V(144/430MHz)	
選択度	: 12kHz/30kHz(-6dB/-60dB)	
低周波定格出力	: 3W 以上 (8 Ω 、THD10%、13.8V)(内蔵スピーカー)	
	: 8W 以上 (4 Ω 、THD10%、13.8V)(オプションのMLS-200-M10 使用時)	
低周波出力インピーダンス	: 4 ~ 16 Ω	
副次的に発する電波等の強度	: 4nW 以下	

注意

- 定格値は常温・常圧時の値です。
- 製品改良のため、定格・仕様を予告なく変更する場合があります。

数字

88.5Hz以外のトーン信号を使っているレピータで交信する 44

A

AMS 機能時の送信モードを設定する 125
 APO 機能を使う 94
 APRS 機能を使う 77
 APRS の設定をリセットする 149
 APRS の通信速度を設定する 144
 APRS メニューの操作 146

B

Bluetooth ヘッドセットの PIN コードを設定する 140
 Bluetooth ヘッドセットの動作を設定する... 146, 153
 Bluetooth ヘッドセットを使う 151, 157
 Bluetooth ヘッドセットを認識させる 155
 Bluetooth ユニット「BU-2」を装着する 151

C

CALLSIGN メニューの操作 150
 COM ポートを設定する 142
 CONFIG メニューの操作 134

D

DATA メニューの操作 142
 DCS コードを設定する 84, 129
 DCS 送信 90
 DCS 送信 / トーン受信 90
 DCS を使う 85
 DG-ID 50
 DIAL とボタンをロックする 46
 DISPLAY メニューの操作 123
 DP-ID 50
 DTMF 機能を使う 91
 DTMF コードの送出方法を設定する 129
 DTMF コードを送出する 92
 DTMF コードを登録する 91, 129

F

FM モードで交信する 43
 FVS-2 を装着する 158

G

GM 機能を使う 78
 GM メニューの操作 133
 GPS INFO 画面 20
 GPS 機能の測地系を設定する 140
 GPS 機能を使う 73
 GPS 情報を切り換える 124
 GPS の位置情報を記録する間隔を設定する 141
 GPS ログ機能 75

J

JR 以外の空線スケルチ 90
 JR 以外の空線スケルチを設定する 130
 JR の空線スケルチ 90

M

MEMORY メニューの操作 128
 MH-48A6JA 18
 microSD カードからデータをコピーする 105
 microSD カードを初期化する 33, 146
 microSD カードをセットする 31
 microSD カードを取り付ける 32
 microSD カードを取り外す 32

O

OPTION メニューの操作 146

P

PMS 69

R

RST / CLONE メニューの操作 147

S

SCAN メニューの操作 132
 SD メニューの操作 146
 SIGNALING メニューの操作 129

T

TOT 機能を使う 95
 TX/RX メニューの操作 125

V

VFO スキャン 63

W

WIRES-X 機能を使う 80
 WIRES-X メニューの操作 133

あ

相手からの呼び出しをベルで知らせる 89, 130
 相手局情報をポップアップする時間を設定する 126
 相手局の送信終了時にピープ音を鳴らす 127
 アナウンス機能の動作を設定する 163
 アフターサービスについて 173
 アマチュア無線局免許申請書類の書きかた 166
 安全上のご注意 10
 アンテナについて 23
 アンテナを接続する 27

い

位置情報を記録する 75
 位置情報を表示する 74
 一覧から消去する 98

う

運用モードを切り替える 38

え

衛星の捕捉状況を確認する 74

お

オートレピータシフトを設定する 135
 オールリセット 49
 音が出ない 172
 オプション一覧 170
 音声を録音したり聞いたりする 158
 音量を調節する 35

か

外部機器と接続して使う 108
 外部スピーカー 115
 各部の名前と働き 14
 画像に返信 (REPLY) する 102
 画像のリストを見る 96
 画像を送る 99
 画像を整理する 97
 画像を転送 (FORWARD) する 103
 画像を取り込む 98
 画像をやり取りする 96
 画面の説明 19

き	キーヤツマミを操作しても変化がない.....	172	つ	通信モードを切り替える.....	39
く	クローン機能を使う.....	106	て	定格.....	174
こ	コールサインを入力する.....	34	定型文を使う.....	100	
	コールサインを変更する.....	150	定型文を登録する.....	101	
	故障かな?と思ったら.....	172	ディスプレイの明るさを設定する.....	123	
し			ディスプレイの明るさを調節する.....	48	
自局位置の表示方法を設定する.....	127		ディスプレイのコントラストを設定する.....	123	
自局の位置情報を送出する.....	109		データ通信の通信速度を設定する.....	144	
自局のコードを設定する.....	86		データを microSD カードにコピーする.....	104	
指定メモリーチャンネルだけをスキャンする.....	67		デジタルグループ ID.....	50	
指定メモリーを設定する.....	67		デジタルコードスケルチを使う.....	84	
自動的に電源を切る.....	140		デジタルパーソナル ID.....	52	
車載運用時の設置場所について.....	22		デュアルレシーブ機能のチャンネル受信時間を設定する.....	72, 133	
周波数ステップを変える.....	37		デュアルレシーブの再開設定をする.....	72	
周波数ステップを設定する.....	137		デュアルレシーブを使う.....	71	
周波数の使用区分.....	165		電源が入らない.....	172	
周波数をあわせる.....	37		電源を入れる.....	34	
周波数を読み上げる音声を聞く.....	163, 164		電源を切る.....	34	
受信音声を録音する.....	161		電源を接続する.....	28	
受信する.....	34		電波が出ない.....	172	
受信範囲を拡張する.....	139		電波型式を切り替える.....	40	
信号を探す.....	63		電波型式を設定する.....	125	
信号を受信する方法を設定する.....	132		電波を発射する前に.....	3	
新ページャー機能を使う.....	86	と			
新ページャー機能を動作させる.....	87	トーン周波数を設定する.....	81, 129		
す		トーン信号を送出する.....	83		
スキップメモリーを設定する.....	68	トーンスケルチを使う.....	81, 82		
スキャンが停止したときの受信方法を設定する.....	133	トーン送信 / DCS 受信.....	90		
スキャンストップ時の受信方法を設定する.....	64	トーン、リバース.....	90		
スキャンする.....	63	特定の相手局と交信する.....	81		
スキャンする方向を設定する.....	132	特定の局だけを呼び出す.....	129		
スキャン方法を選ぶ.....	66	特定の局を呼び出す.....	88		
スケルチ検出やスケルチ端子の出力条件を設定する.....	145	時計の表示形式を設定する.....	134		
スケルチのレベルを調節する.....	36	な			
スプリットメモリー.....	62	内部スプリアスについて.....	173		
せ		内容表示画面で消去する.....	97		
設定した内容をリセットする.....	147	は			
設定内容を microSD カードに書き込む.....	146	ハーフデビエーションを設定する.....	127		
設定を初期値に戻す.....	49	パケット通信.....	111		
セットアップメニュー一覧.....	117	パケット通信の動作を設定する.....	112		
セットアップメニューの基本操作.....	116	パソコンで軌跡を確認する.....	76		
そ		パソコンと接続して使う.....	108		
操作バンドを切り替える.....	35	ひ			
送受信別々のスケルチタイプを設定する.....	131	ビーブ音の音量を設定する.....	137		
送信機系統図.....	169	ビーブ音の音量を変更する.....	45		
送信出力を調節する.....	42	日付と時刻をあわせる.....	46		
送信する.....	41	日付と時刻を設定する.....	134		
測地系を変える.....	76	ヒューズの交換.....	171		
た		表示される画面の種類を設定する.....	123		
タイマー機能を使う.....	94	表示する単位を設定する.....	139		
タイムゾーンを変える.....	76				
タイムゾーンを設定する.....	135				

ふ

ファームウェアをアップデートする	110
付属品	13
プリセットを登録する	147
プリセットを呼び出す	148
プログラマブルメモリスキャン	69
プログラマブルメモリスキャンをする	70
プログラマブルメモリーに書き込む	69
フロントパネル	14
フロントパネルを本体と接続する	27
フロントパネルを設置する	26

へ

ペアリング	155
-------	-----

ほ

ボイスメモリーの動作を設定する	146, 160
ボイスメモリーを使う	160
ホームチャンネルの周波数を変更する	57
ホームチャンネルを監視する	71
ホームチャンネルを呼び出す	57
保存されているデータをコピーする	149
本機のデータをほかの無線機にコピーする	104
本機の特長	2
本体	16
本体を設置する	25

ま

マイクホン	18
マイクホンの感度を設定する	125
マイクホンの感度を調節する	42
マイクホンのプログラムキーを設定する	137
マイクホンを接続する	27
マイコンのクロックシフトを設定する	137
マニュアルでDTMFコードを送出する	92

む

無線機を設置する	21
----------	----

め

メッセージに返信(REPLY)する	102
メッセージのリストを見る	96
メッセージを送る	99
メッセージを作成して送る	99
メッセージを整理する	97
メッセージを転送(FORWARD)する	103
メッセージを取り込む	98
メッセージをやり取りする	96
メモリスキャン	65
メモリスキャン方法を設定する	128
メモリータグの表示方法を変える	61
メモリータグの表示方法を設定する	128
メモリーチャンネルを消去する	148
メモリーチャンネルをソートする	149
メモリーに書き込む	55
メモリーに名前をつける	59
メモリーを消去する	58
メモリーを使う	55
メモリーを呼び出す	56

も

モバイル運用上のご注意	4
文字を入力する	20

れ

レピータシフトの方向を設定する	136
レピータで送信する	43
レピータのシフト幅を設定する	136
連続送信時間を制限する	140

ろ

録音した音声を再生する	162
録音した音声を消去する	162

YAESU

The radio

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社 カスタマーサポート

電話番号 0120-456-220

受付時間 平日9:00～12:00、13:00～18:00

八重洲無線株式会社 〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天王洲パークサイドビル



E H O 4 8 M O O 2

1705V-FC-2

© 2018 八重洲無線株式会社 無断転載・複写を禁ず